



K.I.U. Rugby News

www.kiurfc.com

2007/02/01 Vol.13 京都大学ラグビー部

拝啓

寒冷の候、貴校ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、受験生の皆様におかれましては、センター試験も終わり、いよいよ最後の追い込みに余念の無いことと存じます。

さて、京都大学ラグビー部は、12月23日の対東京大学定期戦をもちまして2006年度のシーズンを終了いたしました。関西大学Bリーグでは、5勝4敗と4年振りに勝越すことができました。順位こそ6位には終わりましたが、上位チームと互角に戦えた試合もあり、いよいよAリーグとの入れ替え戦出場も視野に入ってきたと、部員一同大きな期待をもって2007年度のシーズンに備えております。

この K.I.U. Rugby News では是非私たち京都大学ラグビー部について知っていただき、貴校受験生の皆様の進路決定にあたっての一助としていただければ幸いです。

末筆ながら、貴校受験生の皆様の志望校合格を心よりお祈り申し上げます

敬具



ドライビングモールでの押し込み（東京大戦）



2006年度全試合を終えて(於 宝が池球技場)

京都大学ラグビー部へのお誘い

監督 湯谷博

受験生の皆さんは、厳しい寒さにも負けず大学入試に向けて日夜勉強に励んでおられることと思います。着実に成果を上げられますよう祈念いたします。

さて、京都大学ラグビー部の部歌には、次の一節があります。

We love to sing of K.I.U.
Our noble Alma Mater
In all the west she is the best
None e'er be greater
.....

京都大学ラグビー部の84年に及ぶ長い歴史には、この歌詞が謳っているように西日本で1番強いチームだった時代もありました。現在はそれほどの実力はありませんが、それでも今シーズンは九州大学、神戸大学、大阪教育大学など西日本の強豪といわれる国公立大学にはすべて勝つことができました。国公立大学に限ると、今でも西日本随一の実力を誇っています。

京都大学ラグビー部は関西大学リーグのBリーグに所属し、リーグ優勝を目標に戦っています。今シーズンのBリーグは上位校の実力が伯仲し、優勝チームの次に6勝を上げた4チームが同列に並んでいます。京都大学ラグビー部は

それに次ぐ5勝を上げることができました。Aリーグへの入れ替え戦に出場した2位のチームに快勝したこと、最終戦まで入れ替え戦に出る可能性を残しながら戦えたことに手応えを感じています。今シーズンのこの実績と経験は、必ずや来シーズンには優勝という目標の実現に生かすことができるものと信じています。

京都大学ラグビー部は、それぞれの選手がしっかりとした基本スキルを身に付けた上で、自由奔放で斬新なラグビーを創造することを目指しています。芝生化の計画が進むラグビー専用グラウンドと、各界で活躍する約700名のOB会員から寄せられる援助がその活動を支えています。厳しい入試があるため、優秀なアスリートを多く集めることは困難な状況にありますが、少ない部員が良く考えて工夫し、力を合わせて切磋琢磨しながら目標達成に向けて努力を続けています。

受験生の皆さんは、ぜひ京都大学を目指していただき、私達のチームでラグビーの魅力を存分に満喫してください。

学生主体の考えるラグビー

主将 北原広大（福岡）

みなさんはじめまして。2006年度主将を務めた北原広大です。大学受験を間近に控えて日々努力されているか、あるいは進学校も決まりほっと一息つかれている頃でしょうか。まだ入学もされていないので気の早い話かも知れませんが、大学生活を充実させるための一つの選択肢として京都大学ラグビー部を紹介したいと思います。

京都大学ラグビー部は創部80余年の伝統あるラグビー部です。

そのため、毎年最終戦となる東京大学を始め、同志社大学、慶応大学などとの定期戦が行われます。特に、慶應と試合をするなどなかなかできない経験なので、このような定期戦での交流は僕のラグビー生活にとっても意味のあるものでした。さらに京大は、学生が主体となって考えるラグビーをしています。このこともまた僕が京大でラグビーをしようと決めた一因でもあります。そして僕が入部を決意した一番の理由が部の雰囲気です。部員間で変な上下関係もなく、さまざまな場所から集まった人間が大好きなラグビーをのびのびやっている。だからといっていつも楽しいだけでなく、自分達でたてた目標にむけて厳しい練習に取り組む。この部だったら僕の大学生活を注ぐ価値がある、そう思い入部を決意しました。

受験生の中には学業、バイトもしたいという人もいます。確かに部活を学業、バイト（または恋愛）などと両立させることは大変なことかもしれませんが、僕自身、部活も学業もバイトも（恋愛も）すべて十二分にやってきました。ですので決して不可能ではありませんし、むしろそういった経験が大学を卒業した後の人生で非常に役立つと思います。

リーグ戦の他校が推薦制度によって強化を図る中、勝つことが難しくなっていますが、ラグビーに対する熱い気持ちをもつ新入生がチームを支える志士となってくれることを期待しています。

新入生を待っています 副将 油田 澄（茨木）

受験生の皆さん、こんにちは。2006年度京都大学ラグビー部副将を務めました油田です。センター試験も終わり、2次試験に向けて勉強に励んでいる最中になんだ、と思われるかもしれませんが、このラグビー部の紹介を一読いただけたら幸いです。

皆さんは、まだ入学することも決まっていないのですから、入学後のクラブの話など気が早いと思われるかもしれませんが、しかし、勉強の合間に大学生になったらこんなことをしてみたいなあ、と考えている人は少なくないでしょう。そこにラグビー部に入る、ということも選択肢の一つに入れて欲しいのです。

大学に入ったら、ラグビーはもう終わりにして、学問に打ち込んだり、アルバイトをたくさんして遊んだりして、大学生活を満喫しよう、と考えている人もいます。何を好き好んで、しんどいことばっかりのラグビーを選ぶのか、と思う人もいるかもしれませんが、それでも私は、ラグビー部に入部することを勧めます。このスポーツ、そしてこの部にはそれだけの価値があると、私は確信しています。

ラグビー部に入ると、当然忙しくなります。勉強もほったらかしにするわけにもいきませんので、大変です。その大変さを乗り越えて、4年間ラグビーをする…非常に充実した毎日になります。そして、とても個性的な仲間と一緒に、一つの目標に向かってひたむきになる…かけがえのない経験になると思います。ぜひ一度、体験しに来てください。

そんなラグビー部も近年、部員不足に悩まされています。皆さんの力が必要なのです。新入生がこのラグビー部を支える志士となることを期待しています。

理想のキャンパスライフ 次期主将 飯島 佳英（明和）

受験生の皆さんは志望校合格に向けて過酷な勉強に没頭している時期だと思われます。皆さんそれぞれが『理想のキャンパスライフ』を頭に思い浮かべながら勉強のモチベーションを高めているかと思います。そんな皆さんに勉強の合間に、ホットコーヒーでも啜りながらこの文章を読んでいただければ幸いです。

皆さんの『理想のキャンパスライフ』の中に「京都大学ラグビー部」は登場していますか？京都大学ラグビー部の部員として、楕円球を追いかけている自分の姿を思い描いている方も何人かはおられると思います。現に毎年ラグビー部に入部してくれる幾名かは、京都大学合格時にはラグビー部入部をすでに決意してくれています。伝統と歴史ある京都大学ラグビー部入部を目標に受験戦争を戦っている、そんな受験生がいることは私たち現役部員にとっても大変励みになります。そんな皆さんはぜひ、目標達成のために努力してください、その目標は必ず達成できます。

とはいってもまだ受験生。そんなのまだ考えられねえよ！という方もたくさんおられると思います。私ももちろんそうでした。いろんなプレッシャーがかかる中、一生懸命勉強している最中にそんなこと考えろというほうが難しいと思います。そんな皆さんに、大学4年間を棒に振るような間違った選択をしてほしくないの、一言だけお伝えしたい。

『京都大学ラグビー部があるよ』と。

最高の仲間と最高の環境で、ラグビーする、感動する、涙する。ラグビーの魅力を感じつつ、アルバイトして、稼いだお金でパーティーと遊ぶ。

ラグビーの楽しさを満喫しつつ、勉強にだって、没頭できる。ここには、すべてあります。ラグビーする時間も、趣味・娯楽に没頭する時間も。

社会に出て働き出す前の貴重な4年間を、正しい選択をして、最高に充実したものにしてほしい、私たちはいつでもあなたを京都大学ラグビー部でお待ちしています。

2006年秋 主な試合結果

関西大学Bリーグ 2006年度リーグ戦													
	摂南大学	大阪産業大学	花園大学	大阪経済大学	関西大学	京都大学	甲南大学	大阪教育大学	神戸大学	大阪大学	勝	負	順位
摂南大学		31-18	36-19	43-8	62-24	60-7	96-12	89-7	54-14	119-7	9	0	1
大阪産業大学	18-31		38-29	17-14	24-38	8-25	39-36	54-24	26-12	104-0	6	3	2
花園大学	19-36	29-38		15-14	27-31	36-29	27-31	50-19	48-14	63-5	6	3	3
大阪経済大学	8-43	14-17	14-15		32-19	30-24	34-33	41-26	19-12	60-7	6	3	4
関西大学	24-62	38-24	22-27	19-32		59-12	56-14	52-19	46-3	40-13	6	3	5
京都大学	7-60	25-8	29-36	24-30	12-59		28-19	59-35	34-12	36-12	5	4	6
甲南大学	12-96	36-39	31-27	33-34	14-56	19-28		36-19	24-7	43-14	4	5	7
大阪教育大学	7-89	24-54	19-50	26-41	19-52	35-59	19-36		13-8	34-0	2	7	8
神戸大学	14-54	12-26	14-48	12-19	3-46	12-34	7-24	8-13		33-17	1	8	9
大阪大学	7-119	0-104	5-63	7-60	13-40	12-36	14-43	0-34	17-33		0	9	10

日付	結果	試合区分
9/2	京都大学 29-40 同志社大学	定期戦
12/16	京都大学 19-14 九州大学	定期戦
	〃 B 10-12 〃 B	
12/23	京都大学 27-31 東京大学	定期戦
	〃 B 19-28 〃 B	



☆お願い

- このレポートを貴校ラグビー部員、あるいはその他のスポーツに取り組んでいる生徒の皆さんに回覧してください。大学進学後もラグビーを続けたい、ラグビーを始めてみたいとお考えの生徒さんの参考になれば幸いです。
- もし当校に興味があったり、受験を希望される生徒さん、見事合格された生徒さんがおられましたら、右記の地区担当者までご一報をお願い申し上げます。

受験生の情報やご相談は下記の地区別窓口あるいは新歓担当まで

関東・東北・北海道地区：白石良多(ryota.k08.itscom.net)

東海地区：梶田徹(tokajita@aol.com)

近畿地区：南出聡(minamide@naisis.co.jp)

中国・四国・北陸地区：城田育士(shirota@f7.dion.ne.jp)

九州地区：本田雅義(zimasvingo@hotmail.com)

新歓担当（現役学生）：山田真也(real.y.grerug-no.2@ezweb.ne.jp)

当「K.I.U. Rugby News」に関するお問合せは下記の編集委員まで

大藤謙一(k-ofuji@anglers.co.jp)

創部85年を迎えた京大ラグビー部を活性化させるためこのほど、OB会を中心に「京大ラグビーフットボールクラブ」が結成された。最大の狙いは関西大学リーグのBリーグに落ちて20年になる現役チームの強化のため入れたが、チームやラグビーを身近に感じてもら

2007 京滋発

イベントなどにも取り組む。会長に就任したOBの和田文男・日本ラグビー協会副会長は「英国ではプロのラグビーが全盛になっても、歴史のあるオックスフォード大が高い評価を受け続けている。京大もそうした存在感あるチームにしたい」と話す。

名門・京大ラグビー部 再生へ



OBが見守る中、復活を目指して練習する京大ラグビー部。学生が話し合いながら練習を進めるのも伝統だ(京大宇治グラウンド)

白獅子の誇り

OBでこ入れ

「京大ラグビーフットボールクラブ」は現在の部員とOBがともに参加する組織で、会員は約650人。今後、医学部のラグビーチームやラグビー同好会にも参加を呼び掛け、京大のラグビー関係者が幅広く集まる組織にする方針だ。

ラグビー部は体育会の一組織で活動に限界があるため、OBも含めたクラブ

「京大ラグビーフットボールクラブ」は現在の部員とOBがともに参加する組織で、会員は約650人。今後、医学部のラグビーチームやラグビー同好会にも参加を呼び掛け、京大のラグビー関係者が幅広く集まる組織にする方針だ。

ラグビー部は体育会の一組織で活動に限界があるため、OBも含めたクラブ

選手スカウト、DVD作製… 「クラブ」でトライ

京大ラグビー部は1922年の創部で、昭和初期に「全国制覇」を果たし戦後、国立大の独立行政法人化もも関西大学Aリーグで活躍、全国大学選手権に5度出場している。しかし私大勢の台頭に伴い87年からBリーグに降格して

2年間の創部で、昭和初期に「全国制覇」を果たし戦後、国立大の独立行政法人化もも関西大学Aリーグで活躍、全国大学選手権に5度出場している。しかし私大勢の台頭に伴い87年からBリーグに降格して

統の重みがあり、OBの思いもひしひしと感じる。今年は小さいけど走り勝つラグビーを」と意気込む。

京大ラグビーを語る際に忘れられないのが、学生時代は主将で昭和30-40年代に監督を務めた元同志社大のラグビーに関する原書を読み込んで独自の理論を編みだし、その後の京大、同大ラグビーに大きな影響を与えた。指導を受けた現在の湯谷博監督(56)は「時代は変わったが、今も京大が目指すのは最も進んだラグビー。戦略もトレーニングも常に最先端でありたい」と話す。時代を超え、どう京大ラグビーの輝きを取り戻すのか。クラブの成果が期待される。(宮部真典)

毎週火曜に掲載。京都、滋賀のスポーツの最新の動きや話題を掘り下げ、レポートします。



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 19 年度 第 1 号 4 月 2 9 日発行



ラグビースクール交流戦

ラグビーフェスティバル開催

4月15日(日)宝が池球技場において京都大学ラグビーフットボールクラブラグビーフェスティバルが開催されました。例年は、新入部員勧誘活動のクロージングの場として宇治グラウンドでタッチフットボール、バーベキュー大会を行っていましたが、より快適な人工芝グラウンドでのイベントによってラグビーに魅力を感じてもらい入部促進を図ることを目的として、今年度は、ゲストに同志社大学、神戸製鋼ラグビー部OBの大八木淳史氏をお迎えして宝が池球技場でタグラグビー大会を行いました。タグラグビー大会の開会にあたり和田会長からラグビーの人間形成、社会人としての基盤形成への効用、京都大学ラグビー部で青春の一時期をラグビーに打ち込むことの素晴らしさについてお話しくだくとともに、飯島主将からも楽しく、かつ厳しくラグビーに取り組む京都大学ラグビー部の活動、芝生化される宇治グラウンドや就職活動サポートなど充実したOBのバックアップ体制などについて新入生に熱いメッセージを送りました。大八木氏は参加した15名の新入生と現役部員にタグラグビー指導を行うとともに、自らもゲームに参加して新入生と懇親を図っていただきました。表彰式では大八木氏が優秀新入生を選出して各賞を贈呈していただくとともに、自らの経験を踏まえてラグビーというスポーツの素晴らしさ、ラグビー発祥の地京都のラグビー伝統校である同志社大学と並ぶ京都大学ラグビー部で文武両道を極めることの意義、素晴らしさなどをユーモアも交えながら熱く語っていただきました。参加した新入生は参加賞のTシャツにサインをもらい大喜びで、非常に有効な新入部員勧誘イベントとなりました。また、当日午前中は京都のラグビースクール、高校を招待し交流試合を行いました。午前9時の開会式後、南京都、京都西、洛西、山科の各スクールの小学生による交流試合、4スクール中学生合同チーム対大阪北部選抜中学生の交流試合に続いて亀岡高校対嵯峨野、洛星、西京高校合同チームの交流試合が行われました。高校の交流試合後の懇親会では和田会長、飯島主将から京都大学でラグビーをするための京都大学受験へのチャレンジを呼びかけ、無償家庭教師などのサポートなどについてもPRしました。現役が作成して新入部員勧誘に使用しているプロモーションビデオも放映した結果、洛星高校の3年生が京都大学でラグビーをするため京都大学受験チャレンジを宣言してくれました。ラグビーフェスティバルは、新創タグラグビー大会後の京都大学ラグビーOBも参加している時計台クラブ対付ブラックス(京セラ主体チーム)のクラブチーム公式戦で終了しました。京都大学ラグビー部のPR、新入部員勧誘を目的とした初めての取り組みであり改善点は多々ありますが、非常に有意義なイベントであったと確信しますし、招待したラグビースクール、高校から大変感謝していただきました。このような取り組みは年中行



タグラグビー大会後、大八木氏との記念写真

事として継続することに意義があると思いますので、今年度の経験をベースに内容、運営方法を見直しながら来年度も開催したいと考えています。

有望な新入部員の獲得は最重要課題ですが、アメリカンフットボール、ボート部などとの競合は熾烈を極めています。昨年度から新入部員勧誘活動には思い切った予算割当てをしていますが、この活動もOBの皆さまからの納入会費に支えられています。会費納入率向上へのご協力をお願い致します。

宇治グラウンドの芝生化計画進む！

「芝生の上でラグビーができれば・・・」という永年の夢が、今年の秋、実現します！

芝生化をスタートに、その他施設の充実も含めた宇治グラウンド総合整備計画を進めるため、OBの皆様に京都大学への寄付をお願いしています。

募金の申込みも順調に滑り出しており、現在のまでのところで、6月下旬予定の芝の植え付けおよびその関連工事に必要な資金は確保出来る見通しとなりました。

大学側も、KIU R.F.C.の計画にそった工事発注を行ってくれる見通しであり、今春シーズンの終了時にあわせて、ポットで生育させたバーミューダ芝の苗の植え付け作業が、京大宇治のラグビーグラウンドにおいて、現役・OB有志を動員して行われます。

バーミューダ芝は、ラグビー場の芝生化にも実績のあるNPO法人「グリーンスポーツ鳥取」の指導を受けて植え付けます。一定の養生期間を経て、9月末のシーズンから使用可能となります。生育の盛んな天然芝ですから、水遣りは芝刈りの作業を丹念に行なっていく必要があります。水遣りは、スプリンクラーを配管しますが、芝刈りは、購入する芝刈り機を使って、現役・OB有志が夏場は毎週1回程度行うことになります。

このように自分達のグラウンドを自分達で維持管理することにより低コストで芝生化を実現する「鳥取方式」は全国の小中学校のグラウンド芝生化のモデルとしても注目されていることです。今回の宇治グラウンド総合整備募金は、目標金額を5000万円としています。芝生化の他にも、クラブハウスの機能を目指した更衣室、合宿所、集会室の整備やメインスタンドの設置、照明の整備など、環境整備の課題はさまざまあります。今回の募金でどこまで進めることができるか、詳細は未定ですが、大学側の整備計画とも併せて、優先順を判断しつつ、順次取組みたいと考えています。

既に募金の申込みを行なっていた方、誠にありがとうございます。まだ、申込みがお済でない方、金額の多寡に拘らず、お申込み頂きますようお願い申し上げます。

また、OBの皆様の芝生の植え付け作業や維持管理活動への積極的参画をお願いします。また、9月下旬の「芝生化グラウンド開き」につきましても、別途ご案内する予定です。

チーム強化状況報告：湯谷監督

今シーズンの目標はBリーグ優勝であり、昨シーズンの分析を踏まえ、目標の達成に向けて、監督団として以下3点の重点強化項目を設定しました。それぞれの項目について具体的な改善項目を設け、目標値を設定して日々の練習と試合を通じて強化を図る方針です。重点強化項目をまとめると次の様になります。

1. ボールの獲得および支配力の強化
 - 1.1 セットプレーでの生きたボールの獲得
 - 1.2 ハンドリングミス、タッチの削減
 - 1.3 ターンオーバーの回数の削減
 - 1.4 反則の抑制
2. 局地戦での攻撃・防御の強化
 - 2.1 接点での突破力向上
 - 2.2 テンポの早い連続攻撃
 - 2.3 CTB～FW 間の防御力の強化
3. キックによる攻撃・防御の強化
 - 3.1 各種戦術キックの効果的な活用
 - 3.2 地域を獲得するキック力の向上
 - 3.3 キックオフでのボール獲得率の向上
 - 3.4 カウンターアタックの強化

これらの各項目について具体的に練習プランを作成し強化を進めています。春シーズンの試合においては焦点を絞って強化を図るため、例えば、神戸大戦や関西学院大学戦では、項目2の接点での攻撃に重点を置き、キックやドライビングモールを抑制しています。

残念ながら、関西学院大学、慶応大学との定期戦では続けて大敗を喫しました。関学戦については、A、Bリーグの力の差がそのまま点差に表れた試合と思います。昨シーズンのAB入れ替え戦、Aリーグ7位（天理大）対Bリーグ2位（大阪産大）のスコアが72-0でしたから、レギュラーメンバーを揃えた関学と京大ではそれ以上の実力差があると思います。慶応大はレギュラーメンバーではありませんが、Aリーグレベルに近いチームと思います。これら強豪との試合を通じて、各項目に関する問題点が顕在化しましたが、その分析と対策を次の様に考えています。

（項目1）

関学戦、慶応戦では攻撃の最重要起点であるスクラムがひどく押され、その後の攻撃がともに仕掛けられていません。先ず第1列のメンバーが不足しているのも、その要員確保と強化が課題です。春シーズンは毎月1回程度ユニチカと合同練習を企画しており、スクラムの強化レベルを確認します。

一方、ラインアウトでのボール獲得は比較的安定しており、今年もラインアウトからのドライビングモールは有効な得点源の一つになります。

試合中のハンドリングミスは頻発しており、許容範囲を越えています。強いプレッシャー下でのハンドリングの反復練習とともに、試合中のコミュニケーションの促進がミスを減らす対策となります。

（項目2：攻撃）

密集のサイドをユニットで鋭くテンポ良く突破する攻撃はかなりの威力を増し、神戸大戦では一定の成果が見られました。ただ慶応、関学戦では、接点でのボディ＆ボールコントロールの力不足のため、ボールを奪われたり、何とかボールを確保できても人数を掛けすぎて後の展開でサポートが不足するなど、その後の攻撃が有利に展開されません。このことが1.3のターンオーバーを招く要因にもなっています。実際、慶応戦では、攻撃を継続するにつれてサポートが次第に少なくなり、ボールキャリアーが孤立してターンオーバーとなる場面がしばしば見られました。

先ずは1人ひとりがコンタクト時において、体格のハンディーを補うだけのしっかりとしたコントロール能力を身に付けることが肝要です。更には厚いサポートを裏付ける体力と状況判断力の養成が課題となります。

バックスについては、接点での球際のスピードが不足しており、Aリーグレベルの防御網を破る域には未だ達してないようです。

ランニングスピードの向上と共に、ポジショニング、ランニングコース、タイミングの改善が課題です。また、防御側に絞らせない多彩な攻撃が必要ですが、攻撃の方法、位置についての判断力の養成も重要となります。

（項目2：防御）

ディフェンスの基本はまず相手に厳しくプレッシャーを掛けることであり、春のシーズンでは、鋭く飛び出して強く当たるシャローディフェンスの体制をまず確立する方針で臨んでいます。

関学戦、慶応戦の前半は、ラインおよびサイドのディフェンスがともに機能し、強いプレッシャーをかけることに成功しました。ただ、相手は後半、中央突破を避けて大外をオーバーラップしてきましたが、こちらのカバーディフェンスが十分機能せず大量失点の結果となりました。オープンスペースを確実に埋める2次以降のディフェンスを強化すると共に、次のステップとしてシャローディフェンスを補完する新たなディフェンスシステムを試みることも検討しています。

個々のタックルについては、時に強いタックルが見られるものの、全般にはヒット、バインド、ドライブが不足しています。タックルスキルを構成するこれらの要素を着実にレベルアップしないと、体格で劣る京大にとって勝ち目はありません。

（項目3）

今の時点では各チームともパス攻撃の養成に重点を置くため、試合でカウンターアタックの機会はあまりありませんが、徐々にキックによる攻防に重点が移ることになります。また、マイボールキックオフのボール獲得率が低いことが、連続して失点する原因にもなっていますのでこの点も克服しなければいけません。

（フィットネス）

体力については定期的に測定を行い、そのデータに即してトレーニングプランを再構築し強化を進めています。特に3月に重点的に負荷の重い走り込みを行いましたが、慶応、関学戦では終盤の20分に大量失点を喫するところからも、なお一層のトレーニングが必要なようです。

現時点で2年生以上の選手が24名であり、けが人を除くとリザーブメンバーも満足に確保できず、部員不足が最大の悩みです。しかし幸いにして、新人勧誘やそのためのパンフレット作成などでは、総務委員会、強化委員会、並びに各地のOBの皆様の大変なご尽力を賜り、そのおかげで有望な1年生も徐々に入部して来ています。

今後とも、OBの皆様方には引き続きご支援をお願いするとともに、上記の強化方針をご理解いただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

春シーズンの結果と今後のスケジュール

日付	対戦相手	グラウンド	結果・K.O.	試合区分
4/1	神戸大学	京大宇治	22-19	練習試合
4/14	関西学院大学	京大宇治	0-92	定期戦
4/22	慶応義塾大学	宝ヶ池	22-81	定期戦
4/29	京都工芸繊維	京大宇治	14：00	新歓試合
5/6	大阪大学	京大宇治	14：00	近畿国立
5/13	未定	京大宇治	未定	近畿国立
5/20	未定	京大宇治	未定	近畿国立
5/27	未定	京大宇治	未定	近畿国立
6/3	立命館大学	京大宇治	未定	
6/10	成城大学	京大宇治	未定	定期戦
6/16	防衛大学	京大宇治	未定	定期戦



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 19 年度 第 2 号 7 月 3 0 日発行

宇治グラウンドの芝生化計画進む！

宇治グラウンドの芝生植え付け作業が、6 月 24 日（日）無事終了しました。以下ご報告いたします。

【当日の様子】

6 月 23 日午後 3 時から、OB 10 名ほどが集まり、トンボでピッチの整地をし、鳥取から 10 トントラックで運ばれた、芝の苗、肥料の荷おろしをしました。

続いて、ピッチに約 50cm 間隔で縦横に線を引き、鍬で穴をあけ、苗を植える作業の段取りを、鳥取大学の中野教授（京大農 S42 卒 NPO グリーンスポーツ鳥取）から講習してもらい、午後 7 時ごろ終了しました。

明けて 24 日は、朝からあいにくの雨で、水の流れる最悪のピッチ状態でしたが、現役約 40 名、OB 約 30 名、医学部ラグビー部現役約 20 名、そして南京都ラグビースクール（RS）の子どもたち、親御さんが、約 90 名ほど集まっていたが、9 時ころから作業を開始しました。時折激しく降る雨の中の作業でしたが、かんかん照りよりは、子どもたちにはかえってよく、泥遊びの感覚で、大声をあげながら芝植えを楽しんでおられました。



作業は RS 組の働きが大きく、予想していたより早く 12 時すぎにはほぼ終わり、RS 組はここで帰られ、残ったメンバーで 1 時ころまで、苗踏みと後片付けをしました。

その後、皆でシャワーを使い、現役は部室下の通路でバーベキュー。OB は合宿所の部屋で、缶ビールと焼肉で乾杯と、お互いの労をねぎらいました。グラウンド開きの話題が出ましたが、ピッチが使えるのは 10 月になると思われますので、10 月中旬の B リーグの試合のない週に、「B 対 OB でどうや」などという話がとびかかっていました。

【趣旨】

今回宇治 G の天然芝生化を進めるにあたって、「芝生化ワーキンググループ」が、以上のような自分達で芝を植え付けるといふ、ボランティアなこの方式を採用しました訳は、ひとつはもちろん金銭的に軽くなることにありますが、それ以上に宇治 G を私達、京都大学ラグビーフットボールクラブ（KIURFC）のホームグラウンドとして、現役 OB が一体となって自分達の手で作り上げ、大切に維持して KIURFC の連帯感、一体感を高めることが主目的なのです。すなわち、大学（お上）がグラウンドを整備して、自分達は「使う人」という在り方ではなく、自分達を使う、愛するグラウンドを自分達で造ろう、整備・維持していこうという精神、我々の「Field of Dreams」なのです。

その意味で、今回の芝生植えイベントが、現役、OB 一体となつて行なわれ、さらに、医学部ラグビー部、地元のラグビースクールの子とも達、保護者にご参加頂けたことは、とても意味があることで、この企ての「普遍性」を表していたと思います。

【これから】

今後も、グラウンド整備の追加工事などが予定されています。内用は、

- ①（40 年ぶりに発見された）グラウンドを取り巻く排水溝の掘り出し、溝さらえ。
- ②グラウンド西側（川寄り）の空き地をスクラム練習などに使えるように整地。
- ③グラウンド西側（川寄り）に、倉庫兼車庫などを配置。
- ④フェンス、出入り口の設置
- ⑤芝刈り自動車の購入
- ⑥照明灯の増設 などです。

7 月末となり、だいぶ芝生が育ってきました。



そろそろ最初の芝刈りをし、今後も肥料やりなどをボランティアに行ない、10 月に「グラウンド開きイベント」を予定しています。

また毎年、春シーズンの終わりに「ミニ芝生植えイベント」を行なって、春シーズンで痛んだ芝を修復して秋に備えることや、秋シーズンの終わりに冬芝の種を蒔くといったことを恒例にして取り組んでまいります。

今後とも OB 各位にはいろいろなお支援、作業へのご参加などよろしくお願いいたします。

春シーズンの総括

多くの OB の皆様から多額のご芳志とご協力を賜り、シャワールームやグラウンドの改修および芝生化などが実現し、部員の練習環境が着実に改善されつつあります。OB の皆様のご厚意に対して厚くお礼を申し上げます。

春シーズンの戦績につきましては、立命館大学との定期戦で 11 年ぶりに勝てたものの、その他の試合では芳しい成果が得られず多くの課題を残しています。既にお知らせした通り、今シーズンの強化目標として以下の項目を設定しています。

1. ボールの獲得および支配力の強化
2. 局地戦での攻撃・防御の強化
3. キックによる攻撃・防御の強化（項目 1）

ボールの獲得に関しては、攻撃の起点で敵に圧力をかけながら安定したボールを確保することが満足にできていません。特にスクラムは、立命戦では良かったものの、全般には安定したボールが獲得できず、攻撃が効果的に続かない要因になっています。ユニチカやレッドエボリューションズとの合同練習を始めていますが、秋には継続的に実施するとともに、地道に数多くスクラムを組んで強化に努める方針です。また、ハンドリングミスや、コンタクトの際にボールを失うミスが依然として許容範囲を越えており、連続攻撃を支える基本スキルの精度がまだまだ不足しています。ドライビングモールは、他の攻撃を優先的に強化するため抑制したこともあり、攻撃力が幾分落ちていますが、今後合宿などを通じて十分補強が可能と考えています。

(項目2：攻撃)

ラックからの速い球出しから継続的に攻撃を仕掛ける戦術が度々成功し、有効な得点源になっています。一方、バックス攻撃については、様々なサインプレーを試していますが、ラインを突破してトライに至るケースは少なく、全般には成功率が低くてボールを失う場面が多発しています。ラインの素速い形成とタイミングの調整、球際のスピード、突破後のサポートとハンドリングなど、ユニットプレーを構成する多くの側面について精度を上げることが課題です。またそれ以前に、相手を抜く、あるいはギャップを作り出すためのサイドステップなど個人スキルのレベルアップが不可欠と考えています。

(項目2：防御)

ラインディフェンスの出足は良いものの、ギャップができたり、個々のタックルのスキル不足が原因でしばしば突破される、タックルしてもボールを再獲得できない、といった弱点が見られました。ここでも個人スキルのレベルアップが優先事項と思います。大きく外へオーバーラップされた時にカバーディフェンスで止め切れない課題は、改善されつつあるものの今後とも継続的な強化が必要です。Bリーグ各チームとも、当然ながら昨年度の経験をもとに、京大のシャローディフェンスに対抗した戦略を取って来ますので、CTB-FW間とともに外のゲートを確実に閉じるディフェンスの成否が防御の鍵となります。

(項目3)

キック攻撃では、SOやセンターから相手ライン裏へのキックによりトライを奪う場面が何回か見られました。SOの大脇君は距離が伸びる優れたキッカーなので、チェイサーの出足とスピードが向上すればキック攻撃はシンプルで強力な武器になるはずです。

なお、フィットネスについては、特に春の前半に負荷の重い走り込みを行いました。8月からシーズン開幕までの走力強化がシーズンの成功の大きな鍵を握ると考えています。

(JAPANの戦略に関して)

ところで、9月からのワールドカップに臨むカーワンJAPANは、次の重点強化目標を設定し、各項目で世界一になることを提唱しています。

- (1) ディフェンスラインのスピード
- (2) ゲーム展開のスピード
- (3) 低く速く激しいラック
- (4) キック攻撃による得点

体格と経験で劣るJAPANの世界ラグビーに対する位置と、京都大学の大学ラグビー界における位置が相似形にあることは度々指摘されるところですが、これらの目標は体格が大きな弱点にならない局面で優位に立とうとする戦略であり、私達が取り組んできたことと大きく重なります。

各目標について京大の現状を評価しますと、(1)のディフェンスラインの出足では、確かにBリーグでトップレベルにありますが、タックルの個人スキル、ディフェンスのユニットスキルについて前述の解決すべき課題も残っています。

(2)のゲーム展開のスピードはBリーグで平均レベルと思いますが、PKから速く仕掛けて得点を取るなど一定の成果も見られます。スクラム、ラインアウト、バックスラインなどのセッティングを迅速にして、あらゆる局面で素速く仕掛け、相手に圧力をかけ続けることによりゲームの主導権を奪いたいものです。速い展開は高いフィットネスと時間を制約された中での正確なスキルが要求されますが、それは毎日の練習のテンポアップから生まれると考えています。

(4)について、SOのキック力はBリーグでトップクラスにありますが、判断力やチェイスが改善されればユニットとしてもトップレベルの攻撃力を持つはずです。

なお、監督団としてコーチングの重点は、試合を構成している

個々の基本スキルやフィットネスの部分に置いて来ました。試合においては、それらの基本スキルを駆使して、選手たち自身で創造性を発揮しゲームをクリエイティブにしたいと願っています。

今後とも、OBの皆様から忌憚のないご意見とご支援を賜りますようお願いいたします。

春シーズンの結果

日付	対戦相手	結果	試合区分
4/1	神戸大学	22-19	練習試合
4/14	関西学院大学	0-92	定期戦
4/22	慶応義塾大学	22-81	定期戦
5/6	大阪大学	22-0	近畿国立大学大会
5/13	大阪教育大学	12-36	近畿国立大学大会
6/3	立命館大学	27-24	定期戦
6/10	成城大学	中止	定期戦
6/16	防衛大学A	21-22	定期戦
6/17	名古屋大学	12-26	招待試合

以下Bチーム

4/29	京都工芸繊維	14:00	新歓試合
6/9	大阪府立大学	12-31	練習試合
6/16	防衛大学B	7-29	定期戦

夏合宿予定について

日程：8/16(木)～24(金)(ただし16, 24日は移動日)
場所：菅平 佐久山荘(電話0268-74-2072)

夏合宿において、下記の試合が予定されていますので、OB皆様のふるってのご参加をお願いいたします。

18(土)成城大学 13:30 KO サニアパーク

19(日)学習院大学 13:00 KO 佐久山荘グラウンド
OB戦 14:30 KO 佐久山荘グラウンド

- ・19日の試合はグラウンドの関係で変更の可能性があります。
- ・成城大学は春の定期戦が麻疹の影響で中止になった試合であり、熱戦が期待されます。

中部地区懇親会のご報告

名古屋大戦にあわせた中部地区懇親会は17日、最長老の芝山さん(昭和23年)以下中部地区OB19人、遠征組のOB(城田さん、南出さん)湯谷監督、岡市コーチと飯島主将ら現役7人の計30人が出席し、盛大に開かれました。39年の福田さん(元コーチ)から「これを機会に中部地区に恒常的なOB会を組織しよう」との提起があり満場一致で賛同を得ました。準備委員会をつくり、具体的な準備を始めることになりました。

席上、南出さんからは最近のリクルートの状況、岡市さんからは宇治グラウンド芝生化の状況の報告がありました。OBにはリクルート用のDVDが配られ、ラグビー部のTシャツも販売しました。

OBは全員が近況を報告、世代を超えて親交を深めました。また現役からも元気な決意表明がありました。

意外に多くのOBが中部地域にいたことがわかりました。最近の現役の出身地をみても、この地域が重要な役割をはたしていることから、今後も懇親と現役支援のための活動を継続していく方向です。



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 19 年度 第 3 号 9 月 2 0 日発行

待望の宇治グラウンド開きを開催！

宇治グラウンドの天然芝化を記念するグラウンド開きが、9 月 9 日（日）に開催されました。以下ご報告いたします。

去る 6 月 24 日に植えた宇治グラウンドの芝は、87 日間の養生で立派な芝生に成長し、グラウンド開きの式典が行われました。

グラウンド開き当日は、午前 11 時からの式典に先立って、まず午前 9 時からラグビースクール交流試合が行われました。この試合では、芝植えに協力していただいた南京都ラグビースクールや、豊中ラグビースクールの子供たちや父兄が大勢集まり、練習やゲームで芝生の感触を楽しんでもらいました。



そして、午前 11 時から宇治グラウンド開き記念式典が行われました。

当式典では、京大ラグビー部 OB 代表幹事の田代氏・石田氏、そしてラグビー部部長清野氏からのあいさつがあり、また京都大学から代表として来られた中野学生センター長にお話をいただきました。中野センター長は、「5 月の近畿国公立大会の時には、泥田のようなグラウンドであったが、このようなすばらしい緑の芝生に生まれ変わったことは非常に感銘深い」と語り、感慨深げに天然芝に目を細めていました。

これに加えて、はるばる鳥取から NPO 法人「鳥取グリーンスポーツ」のニール・スミス代表・中野淳一氏を当式典にお招きしました。

スミス代表からは、「この芝は非常に成長力があるので、芝を痛める心配をせずどんどん使ってよい。芝生の上で練習すれば足も速くなるし、ラグビーもうまくなる」と部員に対し力強く激励をしていただきました。

お二人のごあいさつの後、スミス・中野両氏に対し、ラグビー部から感謝状とペナントが贈呈されました。

式典の最後に、ラグビー部の現役代表として飯島主将が御礼のあいさつに立ち、「こんな立派な芝生のグラウンドにしてもらったので、しっかり練習してリーグ戦に臨む」との決意の言葉を、OB 諸氏を前に話してくれました。

式典の後は、当日参集した OB によるタッチフットゲームが行われました。これは正確に言うと、キック・パスでゴールポストに蹴りこむオーストラリア式（？）フットボールゲームで、OB 諸氏は芝生の上を存分に走り回り、芝生がしっかり育っていることを実感していました。

OB タッチフットゲームの後は、グラウンド開きの最後を飾る催しとして、京大 B vs. 三菱東京 UFJ 銀行チームのエキシビジョン・マッチが行われました。

試合の結果は京大 B の選手の面々の活躍も随所に見られながら、三菱 UFJ 銀行に惜敗しました。

当日の天候は、雨上がりの好天で気温が 30 度を越えていましたが、グラウンドは水はけがよく、グラウンドコンディションも上々で、グラウンド開きの行事を滞りなく行うことができました。



参加していただいた OB の方々、ありがとうございました。

尚、この芝生化は、宇治グラウンド総合整備計画の一環であり、この募金に応募していただいた皆様の資金によって実現することができました。改めて御礼申し上げます。

グラウンド総合整備計画は、芝生化にとどまらず、クラブハウスの建設や、周辺施設の改善も目指します。まだ募金に応じておられない方は、趣旨ご理解の上、金額の多少に拘わらず、ご応募いただきますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

グラウンド開きの様子を、下記の URL にアルバム形式で準備しました。

当日ご参加いただけなかった方々も宇治グラウンドの変貌ぶりをお確かめいただきたいと存じます。

<http://rugby.game.coocan.jp/20070909/album00001.htm>

芝生化とシーズン展望

監督・湯谷博

OB 各位のご尽力により、今年度当初より宇治グラウンドの芝生化工事が鋭意進められて来しました。6 月末に植え付けた芝生は天候に恵まれて順調に育ち、8 月終わりには見事な天然芝のグラウンドが完成しました。

9 月からは、この素晴らしい環境のもとで、部員は毎日元気に練習に励んでいます。天然芝は、特にタックルや試合形式の練習を安全かつ効果的に行う上で大きな威力を発揮します。来春にはこの優れた環境が多くの新入生を入部に導き、中長期的にチーム発展の基盤を作ってくれることでしょう。

昨年度までは、散水や給水も不十分な堅いグラウンドで、部員は練習を強いられてきました。この劣悪な環境が飛躍的に向上したのは、ひとえに OB 各位から寄せられた多額の募金とご厚意のおかげであり、スタッフ、部員一同、心より感謝申し上げます。ぜ

ひ宇治グラウンドにお越しいただき、完成した緑の絨毯をご高覧
いただきたく存じます。
9月23日からは、いよいよリーグ戦が始まります。昨年度に卒業した多くの4回生の穴を埋めるのは容易なことではなく、一方ではBリーグ上位校は外国人選手を揃えるなど強化が著しく、予断を許さない厳しい状況にあります。現在持っている個々のスキルを前提に、その長所を生かし戦力を高めて行かなければなりません。

この素晴らしいグラウンド環境を力として、部員はリーグ戦に向けて走り込み中心の練習を続けています。リーグ戦では、多くのOBの皆様のご観戦をお待ちしています。

現役部員より — 今シーズンの展望・決意

【1】主将・飯島佳英

3月から練習を本格始動した今年のチームも、いよいよリーグ戦本番まで残り1ヶ月を切りました。4回生として、そして主将として、迎える最後のリーグ戦が始まるのをとてもワクワクしながら待っています。

チーム始動直後は、昨年の主力メンバーが大勢引退してしまい、頼もしかった先輩たちのいないグラウンドがとても寂しく感じられましたが、たくさんの元気あふれる新入部員を加え、現在、夏合宿を経てぐんぐん成長を続けるこのチームが、関西Bリーグの強豪校を相手にどこまで通用するか、チャレンジできる喜びを思う存分楽しんでいきます。

今年は春からとことん走り込みをして、またとことん天候に恵まれ練習が中止になることもなく、たっぶり練習をすることができました。またOBの皆様の尽力により宇治グラウンドの天然芝化も実現し、現役部員にとっては幸せすぎる環境で練習することができそうです。春から頑張ってきた自分のためにも、苦しいときに共に支えあってきた仲間のためにも、そして現役のために尽力くださったOBの皆様のためにも、目標であるリーグ制覇を成し遂げたいです。

今年はリーグ戦序盤に昨年のリーグ上位校と対戦します。まずはそこにすべてをぶつけます。最高のリーグ戦にします。

【2】副主将兼FWリーダー・足立圭祐

夏合宿・同志社との定期戦を終え、リーグ戦へ向けての最終調節が始まりました。

幸いなことに今年は、去年のレギュラー8人のうち松林さんを除く7人がプレーが続けます。ですから、去年よりも強く、そしてよく走るFWになることが求められます。しかし、PRである松林さんの抜けた穴は大きく、春シーズンでスクラム・モールなどのセットプレーに大きな課題が残りました。

夏合宿でスクラムはだいぶ改善されたといえますが、モールはまだまだ意思統一が取れず、去年のように、モールが武器のチームとなるにはまだまだ練習が必要です。

これから初戦までの2週間、セットプレーの練習をこなし、セットプレーにこだわりとプライドを持ったいいFWになるよう、がんばりたいと思います。

【3】BKSリーダー・森田暢謙

今年のBKは去年のリーグ戦を経験したメンバーが少なく春は経験不足を感じていましたが、夏合宿で例年より試合を多く組み、コミュニケーションを取る機会を増やすことでうまく連携を取ることができるようになってきました。特にディフェンスは合宿後半から目を見張る成長ぶり、同志社戦では一度もラインブレイクを許しませんでした。

一方、アタックはライン攻撃の精度が低く、有効な攻撃があまりできていない状況です。しかしBK全員で攻撃のイメージを共有できるようになっており、個々が勝手に動くのではなくBKのラインとして動けるようになってきているので、リーグ戦までに修正して万全の状態で開幕戦に臨みたいです。

器用さはないですが全員がひたむきに、がむしゃらにプレーするいいチームです。応援よろしくをお願いします。

9月2日定期戦 vs.同志社大学 の結果

2007年9月2日(日)15時キックオフ @京田辺グラウンド			
40分×40分			
【同志社大学】		【京都大学】	
0	《前半》	7	
28	《後半》	0	
28	《合計》	7	

秋のリーグ戦日程

日付	対戦相手	K.O	試合会場
9/23	摂南大	14:40	摂南大 G
9/30	関西大	13:00	西京極
10/6	大経大	14:40	大経大 G
10/21	花園大	13:00	大経大 G
10/28	大産大	14:40	関西大 G
11/4	大阪大	13:00	大経大 G
11/18	神戸大	13:00	大経大 G
11/24	甲南大	14:40	近鉄花園 II
12/2	大教大	13:30	京大宇治 G

9/23 摂南大グラウンドアクセス

京阪・寝屋川市駅(南出口)より京阪バス乗り継ぎ。
バス西口3番乗り場より、3系統、10系統、11系統が向かいます。
約15分乗車、「摂南大学」バス停でお降り下さい。
※10系統は2番乗り場発車のものもございますが、遠回りですので、10系統をご利用の際は、3番乗り場からご利用下さい。

見えなかった ドロップ・ゴール！

今から41年前私は秩父宮ラグビー場において、全国大学選手権 京大対早大のレフェリーを務めておりました。

大学選手権初出場の京大は関西リーグ第三位、対戦する早大(その後、八幡製鉄を破り日本一になったチーム)に10人FWで早大FWを押しまくった、前半を6-11で折り返し後半早々SO中村孝太郎選手(S44卒)が、見事なドロップゴール(9-11)を決めましたが、小生残念乍らボールが太陽の中にすっぽり入り、(当時は秩父宮近くにはまったくビルが建っておらず)、まったく見えなかったのですが観衆のものすごい拍手でしたので、つい「ゴール！」とコールしました。

ゲーム後あれは素晴らしいドロップゴールだとレフェリー仲間から云われホッとしました。(現在はタッチジャッジがいるから安心)ノースайдまで京大の捨身のディフェンスでスコアこそ9-25でしたが、素晴らしいゲームでした。ちなみにこのゲームの反則は京大0 早大8でした。

成城大学ラグビー部OB
関東ラグビーフットボール協会
レフェリーソサイティ・コーチ
松尾勝吾(72才)

はじめての試みとして、成城の松尾勝吾氏に京大OBの中村さんにもつわる話を寄稿していただきました。今後もチームやKIURFCの状況報告だけでなく、クラブ内外のラグビーにかかわる話題を、コラムとして扱っていきたいと思います。コラムのアイデア、執筆者の推薦(自薦・他薦)など、組織委員会白石(S54)までお知らせください。



K.I.U. Rugby News

www.kiurfc.com

2007/10/06 Vol.14 京都大学ラグビー部

拝啓

初秋の候、貴校ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

ラグビー部員の皆様におかれましては、花園大会の予選を間近に控え、最後の調整に余念のないことと存じます。

さて、京都大学ラグビー部は、恒例の菅平合宿を終え、いよいよ秋のシーズンに臨むこととなりました。

昨年は5勝4敗で6位に終わった関西大学Bリーグで、今年こそは優勝し、Aリーグ復帰を目指したいと考えております。

また、京大宇治グラウンドは9月に天然芝に生まれ変わり、練習環境も飛躍的に改善されております。

2007年度の京都大学ラグビー部の活躍を是非とも応援いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

敬具



慶応義塾大学定期戦(2007/04/22 於 宝が池球技場)



夏合宿での練習試合(対 学習院大学 2007/08/19 於 菅平高原)

高校生の皆さんへ

監督 湯谷 博

京都大学ラグビー部は、1922年に創部された長い歴史と輝かしい伝統を持つクラブです。

創部以来今日に至るまで、絶えず海外における最新のラグビー戦術の導入に努め、日本のラグビーの近代化と発展に寄与して参りました。戦前には3年連続で全国制覇を果たしたこともあり、戦後においても全国大学選手権大会への出場回数は5回を数え、国公立大学では随一の成績を上げています。

また、京都大学ラグビー部は、ノーベル賞学者の野依先生を始め、官公庁、民間企業、研究教育機関など、各界の中枢で活躍する多くの優れた人材を輩出してきたことでも知られています。ラグビーで培われた能力と人格が、卒業後の人生をきっと実り豊かなものにしてくれることでしょう。

現在、チームは関西の大学Bリーグに所属しており、リーグ優勝を目指して部員一同練習に励んでいます。

グラウンドは宇治黄檗の丘の上にあり、広い敷地と豊かな自然に恵まれた環境にあります。OBから寄せられた募金をもとに、今年度当初より進めてきた芝生化工事は8月末に完了し、全国でも有数の天然芝の専用グラウンドで部員は毎日楽しく練習しています。

京都大学に入学された暁には、この優れた環境で思う存分にラグビーを楽しめることをお勧めします。高校や小中学校でラグビーを経験された方は勿論のこと、初めての方も大歓迎。ほんの少し体験されるだけで、このスポーツの



魅力の虜になること請け合いです。

ぜひ私達のチームに加わって、楽しく充実した大学生活を堪能して下さい。

最高の環境で最高の青春を 主将 飯島 佳英(明和)

高校生の皆さん初めまして。今年度京都大学ラグビー部の主将の飯島です。

皆さんは現在、高校ラグビー花園予選や、また受験勉強などで大変忙しい毎日をお過ごしかと思います。ほんの少しの休憩時間にも、この文章を一読していただければ幸いです。

私も高校時代、皆さんと同じように花園を目指してラグビーを思う存分楽しみ、愛知県選抜にも選ばれ、受験では1年浪人はしましたがこの京都大学に合格することができました。

そして今、京都大学で、高校時代とはまた一味も二味も違う『大学ラグビー』の楽しさを満喫しています。

高品質でメリハリのある練習、熱くそれでいてクールな試合、年間スケジュールや対戦相手などのトータルマネジメント、勉強や遊び、アルバイトとの両立など、学生主体の素晴らしさを痛感できる、それが京都大学ラグビー部です。

またOBの方々の手厚いサポートによりついに今年、ラグビー部専用グラウンドの天然芝化が実現、さらにスクラム、モール用の人工芝も完成し、練習環境は抜群に優れています。

京大ラグビー部の思い出をぜひ、大学生という最高の青春の1ページに加えることを、頭の片隅に置いて頂ければと思います。



充実したキャンパスライフ 新入部員 中越 邁 (湘南)

受験生の皆さん、こんにちは。

京都大学ラグビー部一回生の中越です。

僕が入部してから半年になるのですが、まず始めに思ったのは部の雰囲気がとてもよいということです。僕は二浪しているため年下の先輩もいるのですが、気まずくなることは全くありません。素晴らしい先輩方と同回生に囲まれて、楽しい日々を過ごしています。



体育会と言うと、きつすぎて他のことが何もできなくなってしまう方もいらっしゃるでしょうが、前期・後期のテスト期間中は長期 off になるので勉強をしっかりしたい人も充分やっていけます。またバイトをしている部員も多く、ラグビー一色でない充実したキャンパスライフを送ることができます。

また、京大ラグビー部の魅力として豪華なコーチ陣が挙げられると思います。竹森ヘッドコーチは前に社会人ラグビーの強豪三菱自動車を率いていた素晴らしい指導者です。竹森さんの非常に的確なコーチングのおかげで、京大は体格に勝る私大にも互角の戦いを演じています。

さらに、京大ラグビー部は歴史のあるクラブなので OB 会が非常に強力であり、とても心強いです。今年は OB をはじめ多くの方の寄付金により宇治の専用グラウンドが全面天然芝となり、ためらいのない全力プレーを楽しめるようになりました。現在はさらにクラブハウスを立てる計画があるとのこと。

京大ラグビー部は、京大体育会の数ある部の中でも最も魅力的な部の一つだと思います。京大に入学が決まった時には、是非ラグビー部という選択肢を考えて欲しいと思います。

皆さんと一緒にプレーする日を、楽しみにして待っています。

FIELD OF DREAMS ～ 京大宇治グラウンドが天然芝に！

京都大学ラグビー部の専用グラウンドである、京大宇治グラウンドが天然芝に生まれ変わりました。

メンテナンスの比較的容易な人工芝のグラウンドの導入が主流となっている中、やはり「ラグビーには天然芝が一番」との信念のもと、OB・現役が一体となって「宇治グラウンド芝生化プロジェクト」に取り組みました。



大学側や地域のラグビースクールなどの皆さんからの支援を受けながら、6月24日には芝植えを完了。9月9日にはグラウンド開きも行われ、現役部員は、絨毯のような天然芝のグラウンドで秋のリーグ戦に向けた厳しい練習を開始しました。

今回の「芝生化プロジェクト」では、資金面ではOBをはじめ多くの方からの寄付金で支援いただき、また、芝植えも OB・現役・地域のラグビースクールの生徒さんによって行われるなど、京都大学ラグビー部を愛する皆さんの手による、まさに手作りの活動

でありました。

これをきっかけにして、地球環境に優しく、多くのラグーマンに愛される京大宇治グラウンドを目指していきたいと思っています。

これから、京大でラグビーをやってみたいと思っている皆さん、京大ラグビー部を愛するすべての人の思いが詰まった夢のグラウンド、FIELD OF DREAMS が皆さんをお待ちしています。

2007年度 新入部員

氏名	ポジション	出身校	経験スポーツ
井口 達也	S0	六甲	ラグビー
岡本 大和	SH	岡山城東	ラグビー、バスケ
小堀 充雄	CTB	膳所	ラグビー、サッカー、野球
風岡 諒哉	PR	明和	ラグビー、野球
酒井 俊太郎	LO	長崎東	ラグビー、野球
佐倉 影昭	FL	嵯峨野	ラグビー、剣道、陸上
中越 邁	HO	湘南	ラグビー、剣道
日原 由博	WTB	甲陵	ハンドボール
森 春樹	LO	長崎東	ラグビー、ソフトボール
安井 裕紀	SH	明和	ラグビー、ハンドボール
山本 洋祐	LO	明和	ラグビー、軟式テニス
米今 勇輝	CTB	神戸	ラグビー、野球

2007年春夏 主な試合結果

日付		結果		試合区分
4/14	京大	0－92	関西学院	定期戦
4/22	京大	22－81	慶応義塾	定期戦
6/3	京大	27－24	立命館大	定期戦
6/16	京大	21－22	防衛大学校	定期戦
8/18	京大	19－22	成城大学	定期戦

2007年秋 主な試合結果と予定

日付		結果		試合区分	開始時刻・会場
9/2	京大	7－28	同志社	定期戦	
9/23	京大	7－81	摂南大学	関西大学B	
9/30	京大	15－12	関西大学	関西大学B	
10/6	京大	41－38	大阪経済大学	関西大学B	
10/21	京大		花園大学	関西大学B	13:00 大経大
10/28	京大		大阪産業大学	関西大学B	14:40 関大
11/4	京大		大阪大学	関西大学B	13:00 大経大
11/18	京大		神戸大学	関西大学B	13:00 大経大
11/24	京大		甲南大学	関西大学B	14:40 花園第2
12/2	京大		大阪教育大学	関西大学B	13:30 京大宇治
未定	京大		東京大学	定期戦	未定
未定	京大		九州大学	定期戦	未定

☆お願い

- このレポートを貴校ラグビー部員、あるいはその他のスポーツに取り組んでいる生徒の皆さんに回覧してください。大学進学後もラグビーを続けたい、ラグビーを始めたいとお考えの生徒さんの参考になれば幸いです。
- もし当校に興味があったり、受験を希望される生徒さん、見事合格された生徒さんがおられましたら、右記の地区担当者までご一報をお願い申し上げます。

受験生の情報やご相談は下記の地区別窓口あるいは新歓担当まで

関東・東北・北海道地区：白石良多(ryota@k08.itscom.net)

東海地区：梶田徹(tokajita@aol.com)

近畿地区：南出聡(minamide@naisis.co.jp)

中国・四国・北陸地区：城田育士(shirota844@royal.ocn.ne.jp)

九州地区：本田雅義(zimasvingo@hotmail.com)

新歓担当(現役学生)：山田真也(real.y.grerug-no.2@ezweb.ne.jp)

当「K.I.U. Rugby News」に関するお問合せは下記の編集委員まで

大藤謙一(k-ofuji@anglers.co.jp)



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 19 年度 第 4 号 1 2 月 3 1 日発行

リーグ戦総括

湯谷博 監督

年末の東大戦をもって、今シーズンを無事終えることが出来ました。リーグ戦では6勝3敗で4位の成績を上げ、東大戦にも圧勝し、平成年代では最高の結果をご報告することができて安堵しています。これは飯島主将を中心に部員一同春から厳しい練習に取り組んできた成果であり、竹森コーチを初めとするスタッフ、ならびにOBの皆様からの種々のご支援が実を結んだものです。長いシーズンでしたが、部員諸君は内容のあるラグビーを十分エンジョイしてくれたことと思います。

春から夏にかけての近畿地区国立大学体育大会や定期戦で芳しい成果を出せなかったこともあり、秋のリーグ戦では不安な開幕戦を迎えました。初戦の摂南大はリーグ随一の実力を持つチームであり、大方の予想通り大敗を喫しました。しかしこの試合で安定したスクラムが組めたことで、心配されたスクラムについては今後のリーグ戦で十分に戦える目処が付きしました。

2戦目の関大戦では、前週に関大が100点ゲームで圧勝していたこともあり苦戦が予想されました。しかし関大はバックス主体のチームであり、幸いにして当日の激しい雨で展開力が封じられ、フォワード勝負の接戦となりました。終了間際にゴール前モールを押し込み、飯島主将のトライで劇的な逆転勝利となりました。この試合、時にスクラムを押し込むなどフォワードの頑張りが大きかったと思います。続く大経大戦では、この勢いでサイド、ラインからの突破が次々と成功し、前半で大量リード。後半の追い上げを振り切って上位チームから2勝目を上げることができました。第2クールの花園大・大産大戦では、外国人選手のパワーにも圧倒されて、セットやブレイクダウンでボールを獲得・支配できず残念な結果となりました。その後の神戸大、大阪教育大など下位チームとの対戦でも、苦しい試合が続きましたが、接戦を何と競り勝つことができました。これは春から続けてきた負荷の重い走り込みの成果であり、終盤に走力で優位に立てたことが大きかったと思います。

今シーズンは、Aリーグとの入れ替え戦で1位の摂南大が龍谷大に大勝してAリーグに昇格、2位の大産大も健闘するなど、Bリーグのレベルの高いシーズンでした。その中にあって京大は良く健闘し、シーズンを通して高いチーム力を維持できたと思います。一方では、Bチームの組織的な強化、バックスの攻防のレベルアップなど多くの課題も残しましたが、オフ中に今シーズンの活動を評価点検し、来季シーズンに向けた強化策を作っていくこととなります。

最終戦の東大戦では、それまでの主要な得点源であるドライビングモールだけでなく、速い連続攻撃から、ラックサイド、ラインブレイクなど幅広く多彩な攻撃を仕掛けて得点できました。FW、BKパランスの良い理想的な攻撃が見られたのは今シーズン初めてのことであり、最高の仕上がりでシーズンを締めくくることができたことに満足しています。

今年度は、OBの皆様のご尽力により、グラウンドの芝生化、シャワールームの改修など、選手を取り巻く環境が著しく改善され、もうすぐ創部90周年を迎える伝統あるチームに相応しい活動環境が整いつつあります。芝生のおかげで、コンタクトスキルが向上し、怪我が激減して、リーグ戦を通じてほぼ全試合レギュラーメンバーで戦うことができました。また、このような優れた環境の中で、伝統あるチームのメンバーとしてのプライドが自然と育まれ、そのプライドがまた優れた選手を育てて行くことと思います。

天然芝の造成は、練習による芝生の疲弊や、天候、害虫、外部からの侵入などによる損傷など、経験したことのない未解決の課題が山積しており、人工芝と違ってリスクの高い事業です。しかし、価値あることなら難しくても取って失敗を恐れず、チャレンジして行くのが京大ラグビー部の伝統であり、芝生化のアイデアもその伝統の精神から生み出されたものに他なりません。

芝生化の事業は、失敗を恐れず取ってリスクを賭けよ、積極的に斬新なプレーに取り組んでほしい、とのOB諸兄から寄せられたメッセージでもあり、部員の皆さんはそれに応えて新しい優れたラグビーに挑戦し続けてくれることと思います。東大戦で見られ

た素晴らしいプレーの数々は、そのことを予感させてくれるものでした。

今シーズンにOBの皆様からお寄せいただいた数々のご支援とご厚情に深謝申し上げるとともに、今後とも引き続きご支援と忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

リーグ戦を振り返って

飯島佳英 主将

2ヵ月半に及ぶ長い長いリーグ戦がついに終わりました。最上級生として、そして主将として戦った9試合で、京都大学ラグビー部は平成史上最高の戦績をあげ、仲間とたくさん感動し、笑うことができました。

この結果を残せたのは松下組、竹内組のときにリーグ戦で負け越す悔しさを体験していたからです。そして昨年、北原組でリーグ戦に勝てる自信を持っていたからです。先輩方の頑張りなしにはこの結果は残せませんでした。

12月2日、リーグ戦最終戦の後の油田さんの、『今年1年現役復帰してラグビーしてよかった』って言葉は絶対忘れない、昨年迷惑かけっぱなしだった油田さんからの、なによりうれしい言葉でした。

『ここまで頑張って本当によかった』

チームは今、そんなムードが充満しています。そしてそんなムードが、来年に向けてのさらなるモチベーションアップにつながると思います。そんな来年につながる結果が残せたことがとても幸せです。

もうすぐ引退する僕らにとっては少しせつないけれど、少しずつ、来年に向けて3回生が活動を開始しています。頼りになる3回生を中心に、きっと来年も今年以上のチームになると確信しています。

そして何より、リーグ戦毎試合におけるOBの皆様の応援は、僕だけでなく、部員全員にとって強烈な励みとなりました。試合をご覧になって、まだまだふがいないチームと感じられたかと思いますが、部員みんなで精一杯頑張りました。来年以降、素晴らしい後輩たちがもっともっていいチームにしてくれることと思います。この一年、京都大学ラグビー部を応援し、支援してくださったOBの皆様、関係者の皆様、本当にありがとうございました。

リーグ戦を振り返って 足立圭祐 フォワードリーダー

春シーズンからFWの課題はスクラムだと言われ続けてきました。摂南・大産に対してはマイボールスクラムでもディフェンスラインを引けば大丈夫だと言われていましたが、僕自身、スクラムがすべてターンオーバーされるかもしれないという不安をかかえたまま、夏合宿を迎えました。

しかし、この合宿でFWのメンバーはその不安を一掃するくらいの練習量を積むことができました。特にPRの稲垣は、スクラムのビデオを見て自ら進んでプレーの研究をするようになり、その後の彼の伸びは目を見張るものがありました。彼3番として成長したからこそ、今年の京大があったといっても過言ではありません。また、合宿後の練習でFWはスクラム・モールを一日何十本も練習しました。今思えばこの時期にFWはものすごく成長していたと思います。現にスクラムは春から見違えるほどに強くなり、上位チームと互角に戦い、下位チームに対しては何回もターンオーバーすることができました。

そしてリーグ戦初戦の摂南戦を迎えました。

摂南戦は、前半にかなりの点差をつけられ、勝敗が見えてしまうゲームでした。摂南大学はやはり強かったのですが、試合の入り立て続けに点を取られてしまったことは反省すべき点であったと思います。リーグ戦初戦の入りですから、もう少しタイトなゲームをしたかったです。しかし、後半はほぼ互角の勝負をすることが出来たことが次の試合以降の自信につながりましたし、摂南戦の後半があったからこそ、次の関大に勝つことが出来たのだと思います。

今年は関大、大経、そして神戸、大教と5点差以内の接戦が4試合もありました。僕自身、接戦で勝てるチームに所属するのが今季の京大が初めてで、今まで経験上格下のチームには勝てるが、

同程度の実力を持つチームには 競り負けていました。その試合すべてに勝つことが出来たのは、主将の飯島を筆頭に、チーム全員が春からずっと勝つために努力を惜しまなかったからだと思います。「努力によって接戦を制する」というラグビーの楽しさに初めて気づくことができました。

また、去年京大より下位だったチームすべてに勝つことが出来たこともとてもよかったです。フォワードがセットプレーでこれらのチームにプレッシャーをかけ続けた結果だと思います。今年は、春に全くといっていいほど勝つことが出来ず、負けてばかりでしたが、厳しい練習に後輩たちがついてきてくれた。そのことが何よりうれしかったし、チームを強くした一番の原因だと思います。

肝心なところでミスしてばかりの頼りない FW リーダーでしたが、FW の皆には本当に感謝しています。こんなに強いFW をどうもありがとう。

リーグ戦を振り返って 森田暢謙 バックスリーダー

B リーグ制覇・打倒摂南を掲げて望んだ第1節、京大は摂南に完敗。BK は攻守ともにプレーを重ねる毎に連携が希薄になり何もできませんでした。今後のリーグ戦への不安がよぎり、リーダーとしての責任を感じました。第2節関大戦。去年関大にはBK でくずされ、大差で負けたので何としても負けられない、シャロディフェンスで勝負しようとBK に指示をしました。京大は激しいタックルと鋭いツメで関大の自由を奪い、勝利を得ることが出来ました。また、アタックでも数本のラインブレイクができ、自信と希望を持つことができました。

第3節から第5節、去年2・3・4位の大経・花園・大産に対して1勝2敗。大経に辛勝したが花園、大産には負けて上位校の強さを改めて感じさせられました。第6節から第9節の阪大・神大・甲南・大教戦は京大のプライドをかけて全勝を目指し、それを実行することができました。この4連勝は4回生が毎試合ビデオを何度も見て課題を分析し、修正するという地道な作業をしてくれたお陰であり、そういった勝つための努力が実を結んだ結果だったと思います。また4回生FW のお陰でBK は自由に動くことができ、本当に心強いFW でした。

9戦6勝3敗の4位。BK は、去年の4回生がたくさん抜け、春はどうなるかと思いましたが、苦しみながらも努力した成果が秋に咲き、本当に嬉しかったです。

最後になりましたが、一年間応援して下さいましたOB の方々、本当にありがとうございました。グラウンドの芝化などを通してOB の方々の応援を肌で感じることができ、改めて京大ラグビー部の誇りを重く感じることができました。また、観戦に来られたOB さんが一緒に勝利を喜んで下さった事も本当に嬉しかったです。リーダーとして至らない部分が多かったですが、この1年間BK リーダーをさせてもらえた事を心から感謝しています。飯島先輩たちが残してくれた自信と希望を糧に、来年こそは念願の「B リーグ制覇」を実現します。

来年も応援よろしくをお願いします。

秋の公式戦結果

日付	対戦大学	計	(前半)	(後半)
9/2	同志社(定期戦)	●7－28	7－0	0－28
9/23	摂南大	●7－81	0－64	7－17
9/30	関西大	○15－12	5－7	10－5
10/6	大阪経済大	○41－38	31－11	10－27
10/21	花園大	●29－51	17－22	12－29
10/28	大阪産業大	●6－49	3－24	3－25
11/4	大阪大	○46－3	15－3	31－0
11/18	神戸大	○27－22	3－15	24－7
11/24	甲南大	○46－10	13－3	33－7
12/2	大阪教育大	○29－24	10－17	19－7
12/16	九大(定期戦)	○36－27	17－10	19－17
12/23	東大(定期戦)	○73－15	28－15	45－0

今年度Bリーグの概況 遠藤

今年の関西大学リーグ戦Bは、全体としては摂南・大産・花園の3強に対し、各チームが挑戦していくという構図になった。

1位	摂南大	9勝0敗	入替戦で龍谷に勝利しA昇格
2位	大産大	8勝1敗	入替戦で近大に惜敗しB残留
3位	花園大	7勝2敗	3強の地位は守った

4位	京都大	6勝3敗	平成年度最高の戦績
5位	関西大	5勝4敗	リーグ序盤で京大に惜敗
6位	大経大	3勝6敗	京大・大教に不覚
7位	甲南大	3勝6敗	下位チームには総じて勝利
8位	神戸大	2勝7敗	大教に勝利し入替戦を回避
9位	大教大	2勝7敗	入替戦で大院大に辛勝しB残留
10	大阪大	0勝9敗	入替戦で帝塚山に敗北しC降格

◇**摂南**は序盤から他チームに対して圧倒的な強さで連勝していくと同時に、リーグ戦開幕の2週間前に昨年末A－B入替戦で戦った龍谷と練習試合を組むなど、その視線はすでにリーグ戦後の入替戦に照準を合わせていたといえる。そして、摂南はリーグ戦最終戦で大産に対し50点差近くの大差で勝利しBリーグ優勝を飾った。その後、A－B入替戦において昨年14・17で惜敗した龍谷に62・22で圧勝し、見事雪辱を果たして7年ぶりとなるAリーグ昇格を果たした。龍谷は、名将・記虎監督を擁しながらも19年ぶりにBリーグに降格することとなった。

◇**大産**はリーグ戦前から摂南に対する有力な対抗馬と目されていたが、その下馬評通り、最終節の摂南戦までは全勝で勝ち進んだ。摂南には大差で破れBリーグ2位に終わったものの、入替戦の切符を手に入れた。迎える相手は近畿大。体格では近大がやや上回っていたが、ゲームは最後まで接戦となり、一時大産は3点差まで詰め寄るも、最後は17・25で敗北し惜しくもBリーグ残留となった。

◇今リーグ戦で台風の目になったのは、やはり**京大**であろう。京大は昨年6位であったが、今リーグ戦で昨年6位以下のチームが同5位以上のチームに2勝以上挙げたのは京大以外になかった。京大は第2節・第3節で上位校の関大・大経大を破った。この2連勝は、他チームに脅威を与えた。結果、京大は平成年度で最高の成績を挙げ、3強に次ぐ第4のチームとなった。

◇昨年4位の**大経大**は、今年は些か不覚であった。京大のみならず、昨年8位の大教大にもまさかのトリプルスコアの敗北。かつてのAリーグ常連校は、近年徐々に順位を落とし続け、今年は6位に終わった。

◇下位チームは混沌とした争いとなったが、**甲南大**が一步抜け出して7位、**神戸大**が8位となった。**大教大**は、最終節の京大戦に勝利すれば最終順位を一気に6位にまで上げられるチャンスということもあってか、気迫を前面に押し出して戦い、京大は苦戦した。しかし、24・29の僅差で大教大は破れ、久々にB－C入替戦にまわった。入替戦の相手である大院大に対しては大差で勝つと目されていたが、結果は38・33の辛勝であり、辛うじてBリーグに残り続けた。

◇昨年25年ぶりにBリーグに昇格していた**阪大**は、今リーグ戦が始まる前から、入替戦を想定してかCリーグの有力校である帝塚山大・大院大を入念に分析していた。しかし、阪大はリーグ戦後のB－C入替戦において帝塚山に3・31で破れてCリーグ降格となり、替って帝塚山がBリーグに昇格した。

来季のBリーグは、上位に龍谷・下位に帝塚山大という新たなチームが加わってのリーグ戦となる。龍谷は19年ぶりのBリーグであり、帝塚山は平成15年のD2リーグから4季を経てのBリーグへの昇格である。大産・花園はすでにトンガ人留学生を擁し、今年6位に終わったかつての強豪・大経大もトンガ人補強を検討していると言われ、関大も負けずに上位進出を虎視眈々と狙っている。こうしてBリーグは目まぐるしい動きを見せており、来季はさらに白熱さ・面白さの増したリーグ戦となりそうである。

関東学士ラグー倶楽部新年会案内（学士幹事 白石）

恒例の新年会を下記の通り開催いたします。2008年は、学士ラグー倶楽部の発足から80年を迎える年に当たります。万障お繰り合わせの上ご参加頂きますようご案内申し上げます。

日時： 1月15日（火） 18:00～20:00
場所： 三菱クラブ 03-3216-5361
千代田区丸の内2-3-1 三菱商事ビルディング21F
会費： 本人7500円 同伴者3000円
参加申込は1/10までに 学士幹事 S54 白石まで
TEL/FAX 03-5722-4230 ryota@k08.itscom.net



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 19 年度 第 5 号 2 月 2 9 日発行

第 3 回 評議員会報告 2 月 23 日 於：京大会館

1. H19 年度の活動総括

和田会長の挨拶、議長（望月評議員）の選出に続いて、代表幹事、監督団および強化、総務、組織の各委員会、リクルート部会から、H19 年度の総括および H20 年度に向けた課題についての報告が行われました。

2. H19 年度の決算見通し

次の報告があり、決算見通しが承認されました。

■H19 年度の支出は、予算の 6,808 千円に対し、次期繰り越し金 278 千円を含め、ほぼ予算並みの 6,738 千円となった。

■一方、H19 年度の会費収入は平成 20 年 2 月 23 日現在 4,930 千円と会費収入予算の 5,800 千円に対し 870 千円の未達である。これに、前期繰越金 208 千円、特別会計からの繰入 800 千円、寄付金 800 千円等を加え、収入合計を 6,738 千円として、収支決算とする。

■このように H19 年度の実質的な収入不足分は 1,600 千円に上る。次年度以降に大幅な収入アップを計らないとクラブの活動に大きな支障を来すことになる。ちなみに全体の会費納入者率は 48%で、昭和年代が 60%であるのに対し、平成年代は 32%に止まっている。

3. 宇治グラウンド総合整備計画の実施状況と見通し

芝生化 WG の岡市委員から、宇治グラウンドの芝生化状況について、報告が行われました。これに続き、代表幹事から、総合整備計画に関わる寄付の状況と今後の計画について報告があり、この方針で進めることが承認されました。

■寄付の申込み金額は、H20 年 2 月 19 日現在、35,115 千円。（大林組 4 百万円、医学部 OB13 名 780 千円、他 7 名 765 千円を含む）。

■一方、支出は、天然芝の植付けの他、一部人工芝の練習スペース工事、夜間照明増強なども含め、約 25 百万円が支出された。（このほかに、H19 年度にグラウンド整備、水道管工事、などに約 400 万円が大学側の負担で行われた。）

■従って、現在の支出可能額は約 10 百万円であり、今後の計画には、H20 年度以降の収入確保が前提となる。

■現状の宇治グラウンドの練習・試合環境としては次の問題点が挙げられる。

合宿所が老朽化／ミーティングを行う十分なスペースがない／ビジター更衣室が必要／シャワー室の更衣スペースが不足／ウェットトレーニングの施設を充実したい／アフターマッチファンクションは、万福寺の研修所を利用／「クラブ」としての機能がない／観客席などの整備が必要

■そこで、今後の改善については、次のような認識で進めることとする。

合宿所の建替えは当面、困難（大学への働きかけを継続）との認識／更衣室、トレーニング室などフル機能をもったクラブハウスは財政的に無理／グラウンド横にミーティングのできる「クラブハウス」（Rugby Hut）を建設する／シャワー室、更衣室、トレーニング室は現在の RC 建屋の内装改善で対応／土手の植栽整備、簡易スタンドの設置などを検討

4. H20 年度の組織

H20 年度に向けた役員の交代等の概略は次のとおりです。なお、各委員会の委員は、評議員会終了後 1 カ月以内に、各委員長によって指名されることになります。

■現評議員は、規約によりこの第 3 回定期評議員会の終了時に任期満了となる。3 名の方が退任されるが、12 名が再任され、2 名が新たに任命された。

■退任された評議員は、新村重晴氏（S24）、柴垣復生氏（S25）、清水 卓氏（S33）の 3 氏。新任の評議員は、中島裕之氏（S43）、小野田昭英氏（S52）の両氏。

■会長、副会長、会計監査は、任期途中であり、変更なし。

■代表幹事は、H19 年度末で 2 年の任期が満了となるが、田代芳孝（S48）が再任の指名を受け、本評議員会で承認された。

■執行幹事も同様に任期満了となるが、石田徳治氏（S48）、瀬戸口哲夫氏（S55）、峯本耕治氏（S58）が再任され、亀岡友樹氏（S56）

が新たに選任された。

■各委員長には強化委員長に石田徳治氏（再）、総務委員長に瀬戸口哲夫氏（再）、組織委員長に亀岡友樹氏（新）が指名された。

■その他、エジンバラ大学戦実行委員会（委員長 和田会長）、宇治グラウンド総合整備プロジェクト（担当執行幹事 石田副会長）、宇治グラウンド運用管理グループ（岡市リーダー）などの組織体制が承認された。

5. エジンバラ大学戦

実行委員会の米良 GM から、受入計画の進捗状況が報告されました。エジンバラ大学一行は、今年 6 月 2 日に関西空港に到着後、京都には 5,6,7 日宿泊（宿泊は農学部グラウンドのスポーツ会館を予定）。6 月 7 日に京都宝ヶ池球技場で、オール京大 RFC と対戦する。（他に大体大・天理・東大・防衛大と対戦予定）

6. H20 年度予算案

収支の大幅増加を盛り込んだ予算案が承認されました。

来年度は、支出の大幅増に対応する収入をいかに確保するかが、クラブの運営にとって大きな課題になります。会員各位の各方面におけるご協力をお願い申し上げます。

■支出はエジンバラ大学戦に関わる支出を 500 千円見込む他、各委員会の活発な活動計画を反映して、対前年 850 千円アップの 7,588 千円

■収入は、前期繰越の 278 千円に会費収入 6,000 千円（対前年 1,200 千円アップ）に事業収入および寄付収入 1,300 万円を加えた 7,588 千円

宇治グラウンドの芝生化について S 5 9 岡市 光司



シーズン終盤の宇治グラウンドにて

「宇治グラウンドが芝生に」そんな夢みたいなことが寄付金をはじめとする多くの方の有形・無形の善意により実現しました。私はこの「宇治グラウンド芝生化プロジェクト」に WG から参画していただいたので、これまでの検討プロセスおよび経過について紙面をお借りして紹介したいと思います。

最近ではタフな使用に耐え、管理の容易な人工芝が多く採用されていますが、初期費用が高く早期実現が困難であること、ライフサイクルコストが高いこと等から天然芝での芝生化に着手しました。天然芝も専門業者に委託した場合はかえって高価となるので、コストを抑えるため、校庭の芝生化で実績のある NPO 法人「グリーンスポーツ鳥取（以下 GST）」に指導を仰ぎました。GST の芝生化コンセプトは「見た目にきれいな競技場の芝生」ではなく「身近にある安全な芝生」です。天然芝管理のポイントは芝刈りを頻繁にすること、施肥、散水と非常にシンプルなものでした。GST 指導のもと、芝生の植付けを多くの方のボランティアで行い（当日は大雨でしたが）、芝刈りや肥料散布、散水等の日常管理も自主管理で行っています。

6 月 24 日に 50cm 毎に植付けられた苗がほぼ 1 ヶ月で全面を緑で覆い、9 月 9 日にはグラウンド開きをすることができました。その後、冬芝も発芽し順調に育っていたのですが、10 月中旬にヨ

トウムシに芝生の葉が喰われ、わずか1週間で約半面が茶色になってしまいました。GSTに相談したところ急激な環境の変化による異常発生でそのうち収束するだろうということでした。また、やられているのは柔らかい葉の部分だけなので夏場には回復するというものでした。自然であるがゆえ虫にも喰われますが、自らの生命力で再生するようです。期待と不安が交錯する芝生化初年度でしたが、芝生効果で激しい練習ができ、現役もよい戦績を残すことができました。その分、芝生は傷みましたが、天然芝特有の生命力で再生し、今後も安全な練習環境を提供してくれると思います。

卒業生挨拶

※飯島佳英君、足立圭祐君は前号を参照してください。

◆小笠原 奨悟 LO 天王寺 主務

僕は1回生の夏を迎えて、充実した生活を送れていないと感じ、突然訪問するかたちでラグビー部に入学しました。今ではあの時の判断は間違っていないかと強く感じています。この京都大学ラグビー部でしか得ることのできなかった経験、友達を通して大きく成長することができました。さらに、今シーズンはいい結果を残すことができ、あまり試合に出ることができませんでしたが、チームの一員として満足しています。4年間ありがとうございました。

◆稲垣 貴行 PR 砺波

いろいろとしんどかった。ただ最終のクールでは6勝もできて良かった。最終学年において研究室関連で行けなかったり遅れたりして悪かったと思う。プレーに関しては高校のときに基礎はあったと思うけど大学生活でレベルがグーンとあがったように思います。つらいこともあったけど楽しい四年かんでした。

◆木村 肇 WTB 旭丘

私は京都大学ラグビー部に一回生の11月頃に入りましたが、それまでのあまり面白くなかった大学生活がラグビー部のおかげで楽しいものになりました。ラグビーは中学・高校としていましたが、自分はやっぱりラグビーが大好きだったことに気づきました。現役として活動した中でも、4回生としての一年間は本当に充実しており、学んだことの多い一年間でした。偶然京大ラグビー部に入った自分は幸せ者だと思っています。

◆小林 晋 FB 海城

京大ラグビー部に入学して非常に濃い4年を送ることができました。特に4年目は成績も素晴らしいものでした。その背景には練習量があり、それを支えてくれたのはOBさんの期待、後輩の信頼、過去3年間の悔しさがありません。勝つ喜びだけでなく、ラグビー部に入って人間的に大きく成長することができ、とても良かったと思っています。

◆松江 大吾 PR 茨木

入学直後に入学して練習に参加していたのは小林足立松江とやめたもう一人だったと思います。そして僕が怪我で離脱した後は稲垣飯島ヨゴ松江が行ったり行かなかったりで実質三人の状態でした。そのあとひょっこり木村と小笠原と川畑さんが現れて二回生になってやせている山田が入学してきました。その後三回生で遠藤がやってきました。こうやって振り返ってみると最初からずっといるメンバーは小林と足立だけというびっくり仰天の結果です。本当にラグビーが、そしてラグビー部が好きなメンバーが集まって残ったのだと感じています。同級生のみなさん楽しいラグビーライフをありがとう！！

◆山田 真也 HO 六甲

こんにちは。三年間HOを務めさせていただいた山田です。私は二回生から入学しましたので実際プレーしたのは三年間なのですがこの三年間は人生22年いきてきて一番密度の濃いものでした。特に最後の一年は格別で、どの試合も鮮明に記憶に残っています。京都大学ラグビー部で私はどんな辛いことも耐える忍耐力、目標に向かって努力を続けることの重要性、そしてかけがえのない仲間を得ることができました。これからはOBとしてラグビー部を支えて行きたいと思います。多大なるご支援ご声援ありがとうございました。

◆與吾 栄三 FL ラ・サール

僕にとってのラグビー部の4年間は、非常に価値あるとても充実したものとなりました。僕をラグビー部に招いてくださった上3つの学年の方々、僕を4回生のひとりとしてついてきてくれた下3つの学年のみんな、一緒に最後まで頑張ってくれた同期のみんな、そして様々な面で支えてくださったOBの方々に、本当に感謝しています。本当にありがとうございました。この4年で最高

の仲間ができました。やっぱりラグビーって素晴らしい！

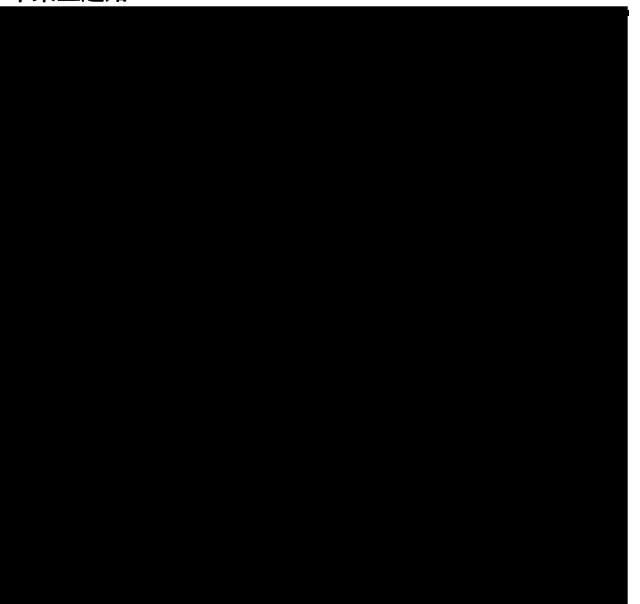
◆川畑友紀子 MG 同志社

今年のリーグ戦で、強豪相手に戦うみんなの姿を見て、私はこのチームを四年間、そばで見てこられた事を心から幸せに思いました。でもその一方で、みんなが頑張ってきた姿を、私はどれだけ見過ごしてきただろう、みんなのためにもっと自分に来ることがあったんじゃないか、と考えるようになりました。みんなは、私が四年前には想像もしなかった感動を味わわせてくれました。私は部員みんなが大好きです。できればもう少し一緒にいて、もう少し手伝いたい、それができないと事はやっぱり悔しくて淋しいです。この京都大学ラグビー部での四年間は、私にとって後悔がいっぱいでやりきれない、でも最高に楽しくて幸せな四年間でした。

◆遠藤進一 WTB/TR 旭丘

イギリス滞在時にラグビーを観戦し、今始めなくていつやるんだ！という気持ちから、北原組始動とともにラグビー部に飛び込みました。あいにく途中で心が折れてしまった時期がありましたが、結果として飯島組のチームに帯同した経験は、自分にとって本当のかけがえのない財産になりました。4回生をはじめとして、部員の皆さんには感謝の気持ちで一杯です。2年間本当にありがとうございました。

卒業生進路



新三役紹介

【主 将】森田 暢謙（もりた・まさのり）	
工学部工業化学科 天王寺高校 CTB, FB	180cm, 86kg
【副主将】今井 英之（いまい・ひでゆき）	
工学部物理工学科 清真学園高校 LO	180cm, 88kg
【副主将】大脇 克也（おおわき・かつや）	
工学部物理工学科 旭丘高校 SO	177cm, 80kg
【主 務】丹羽 政雄（にわ・まさお）	
法学部 旭丘高校 FL	175cm, 76kg

学士ラグビー倶楽部80周年記念行事概要

■日時 2008年4月20日（日） 13:00～
祝賀会 17:00～

■場所 秩父宮ラグビー場

■試合構成（試合時間は各20分）

- （A）年代別東西対抗（4試合）
60歳代以上、50歳代、40歳代、40歳未満
- （B）3地区対抗戦（若手選抜チームによる巴試合）
B-1：関東選抜 vs 関西選抜
B-2：関西選抜 vs 全国選抜
B-3：全国選抜 vs 関東選抜

■問合せ : 学士幹事 S54 白石まで
TEL/FAX 03-5722-4230 ryota@k08.itscom.net



K.I.U. Rugby News

www.kiurfc.com

2008/02/01 Vol.15 京都大学ラグビー部

拝啓

寒冷の候、貴校ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、受験生の皆様におかれましては、センター試験も終わり、いよいよ最後の追い込みに余念の無いことと存じます。

さて、京都大学ラグビー部は、12月23日の対東京大学定期戦をもちまして2007年度のシーズンを終了致しました。

関西大学Bリーグでは、6勝3敗で4位に躍進し、平成年代では最高の成績を残すことができました。

来シーズンこそはいよいよ永年の悲願であるAリーグとの入れ替え戦出場目指して、昨年9月に全面天然芝に生まれ変わった宇治グラウンドのもと、さらに努力して参りたいと思っております。

このK.I.U. Rugby Newsでは是非私たち京都大学ラグビー部について知っていただき、「京大の天然芝グラウンドでラグビーをやってみたい」と希望される貴校受験生の皆様のご参考となれば幸いです。

末筆ながら、貴校受験生の皆様の志望校合格を心よりお祈り申し上げます。

敬具



大教大戦に快勝し全員笑顔(2007/12/02 天然芝の京大宇治Gにて)



モールで前進する飯島主将(大教大戦)

京都大学ラグビー部へのお誘い

監督 湯谷博

受験生の皆さんは、厳しい寒さにも負けず大学入試に向けて勉学に励んでおられることと思います。見事、目標を達成されますよう願っています。

京都大学ラグビー部は、昨年末の東京大学との定期戦を以て、今シーズンの日程をすべて終了しました。最終戦ではフォワード、バックスともにバランスの良い多彩な攻撃が成功し、東京大学を73対15の大差で制し、シーズンの掉尾を飾るにふさわしい理想的なゲームとなりました。これに先立つ神戸大学、九州大学など有力国立大学との連戦でもすべて勝利を収め、国公立大学ではトップレベルの実力を示すことができました。

リーグ戦では、関西大学Bリーグで6勝3敗の4位となり、一昨年、昨年と次第に順位を上げています。今シーズンのBリーグは、1位の摂南大学がAリーグとの入替戦で龍谷大学に大勝して昇格、2位も大健闘するなど、上位チームのレベルの高いシーズンでした。それらの強豪を相手に良く健闘し、Aリーグにもう少しで手の届くレベルにまで来ていると感じています。

今シーズンの躍進は部員の弛まぬ努力の結果ですが、それを支えてくれたのは芝生の宇治グラウンドに代表される優れた練習環境です。昨春来、多くのOBの方々から多額の援助をいただき、グラウンドの芝生化、照明設備の拡充など、選手を取り巻く環境が著しく改善されました。もうすぐ創部90周年を迎える伝統あるチームにふさわしい活動環境が整いつつあります。芝生のおかげで、コンタクトスキルが格段に向上し、ケガが激減してシーズンを通し常に良いコンディションで戦うことができました。

天然芝の造成、維持は、練習による芝生の疲弊や、天候、害虫などによる損傷など、経験した

ことのない困難な課題が山積し、人工芝と違ってリスクの高い事業です。天然芝のグラウンドを持っている大学チームが極めて少ないことも、この難しさを示しています。

しかし、新しいこと価値あることなら敢えて失敗を恐れず、チャレンジして行くのが京都大学ラグビー部の伝統。リスクを賭けて数々の新しい戦法を導入し、日本のラグビーの地平を切り開いて来たのが私達のチームです。芝生化のアイデアもその伝統の精神から生み出されたものに他なりません。この精神を受け継ぎ、部員は力を合わせて良く考え、新しい優れたラグビーを求めて挑戦し続けています。

受験生の皆さんが見事、京都大学に合格された暁には、ぜひ私達とともに全国でも有数の優れた環境のもと、緑の芝生の上で存分に先進的なラグビーを満喫して頂きますようお願いしています。

FIGHT HARDな4年間

主将 飯島 佳英 (明和)

2ヵ月半に及ぶ長い長いリーグ戦がついに終わりました。

最上級生として、そして主将として戦った9試合で、京都大学ラグビー部は平成史上最高の戦績をあげ、仲間とたくさん感動し、笑うことができました。



この結果を残せたのは松下組(05年卒)、竹内組(06年卒)のときにリーグ戦で負け越す悔しさを体験していたからです。そして昨年、北原組(07年卒)でリーグ戦に勝てる自信を持てたからです。先輩方の頑張りなしにはこの結果は残せませんでした。

12月2日、リーグ戦最終戦の後の油田さんの、『今年1年現役復帰してラグビーしてよかった』って言葉は絶対忘れない、昨年迷惑かけっぱなしだった油田さんからの、なによりうれしい言葉でした。

『ここまで頑張って本当によかった』チームは今、そんなムードが充満しています。そしてそんなムードが、来年に向けてのさらなるモチベーションアップにつながると思います。そんな来年につながる結果が残せたことがとても幸せです。もうすぐ引退する僕らにとっては少しせつないけれど、少しずつ、来年に向けて3回生が活動を開始しています。頼りになる3回生を中心に、きっと新年度も今年度以上のチームになると確信しています。

受験生の皆さん、このような素晴らしい感動を味わうことのできる京大ラグビー部の仲間になりませんか。

私たちが普段練習で使用する宇治グラウンドは、昨年9月に強豪校でも珍しい全面天然芝に生まれ変わりました。その結果選手の故障も減り練習でも思い切ったプレーができるようになり、チーム力向上に大きく役立っています。このような素晴らしい環境でラグビーができるところは京大を他においてないと思います。

一人でも多くの新入生の皆さんが京大ラグビー部の新たな仲間となってくれることを願ってやみません。

素晴らしい仲間と感動を 副将 足立 圭佑 (六甲)



1年間副将をつとめさせていただきました足立圭佑と申します。

リーグ戦で6勝。九大、東大との定期戦で連勝、リーグ戦で大阪産業大学戦で悔し涙を飲んでから6連勝でシーズンを終わることが出来て、ほっとしています。

思い返せば、なかなか勝つことが出来なかった春シーズンがありました。例年以上にしんどい練習をやっているのに、勝てない、そんな中でも、下級生がしっかり4回生についてきてくれて、チーム一丸となることが出来ました。

厳しい春シーズンでの頑張りが、秋シーズンでの好成績につながったと思います。そして、スポーツ推薦のない京大でも、Bリーグで十分戦えるという自信を持てたと思います。

しかし、Bチームの強化という面では、今年はあまりいい結果を残せませんでした。Bチームのメンバーがレギュラーを狙い、Aチームを刺激していかないと強いチームにはなれないと思います。今年は叶いませんですが、来年こそはコルツリーグに参加し、チーム全体の底上げを図ってほしいと思います。

来年再来年と今年の成績に満足することなく、より強い京大ラグビー部になってくれるよう期待しています。

さて、受験生の皆さん。受験を目前に控え、最後の追い込みをかけているころかと思いますが、勉強の休憩時間にでも読んで、勉強に対するモチベーションを上げていただければと思います。

皆さんが期待しているように、大学での4年間はやはり素晴らしいです。僕がそう自信を持って言えるのは、京大ラグビー部に4年間在籍し、仲間とともに燃え尽きることが出来たからです。

京大ラグビー部の何がいいかといいますと、それはやっぱり雰囲気です。僕はとてもいい仲間恵まれました。そんな京大ラグビー部だからこそ、精神的にひとまわりもふたまわりも大きくなることが出来ましたし、試合の後にはその勝敗にかかわらず涙を流すことが出来ました。

皆さんも京大に合格された際には、ぜひ見学に来てその雰囲気を味わってみてください。

きっと素晴らしい大学生活が皆さんを待っています。

充実した大学生活 次期主将 森田 暢謙 (天王寺)

受験生の皆さん、はじめまして、京都大学ラグビー部、平成20年度主将の森田です。

現在、志望校合格のために猛勉強をしておられる時期かとは思いますが、息抜きがてらに読んで頂けたらと思います。



受験勉強は本当に苦しいものです。それを乗り越えるために楽しい大学生活をモチベーションにしておられるかと思いますが。そこで僕が3年間大学で過ごして感じたことを述べさせて頂きたいと思います。皆さんが充実した大学生活を過ごすための参考になれば幸いです。

よく言われるように、大学では自分で自由に時間を使うことができます。自分の好きなことに打ち込み充実感で満たされて卒業する人もいますが、4年間を何となく過ごし、何も残らないまま卒業する人もいます。僕は、大学では1つのことに思い切り打ち込むべきだ、と考えています。大学は今まで生きてきた中で人として最も大きく成長できる場であり、必死で何かに打ち込むことでそれが可能になると思うからです。もっと成長した新しい自分に出会うため、より大きな人間になるために大学生活を送るのがよいと思います。そんな大学生活を送るための1つの手段として僕は京都大学ラグビー部をお勧めします。

京都大学ラグビー部は現在、関西Bリーグに所属しています。

Bリーグと言っても他の私立大学は強豪校からの推薦で選手を獲得しており、簡単に勝つことはできません。でも、だからこそ目標である「Bリーグ優勝」は大学生活をかけて達成する価値がある、と僕は思っています。僕が入学した年は10チーム中8位と無念の結果でした。その後、部員一人一人が主体となって考え、弛まぬ努力を積み重ねてきた結果、今シーズンは平成になって最高の記録、リーグ戦4位を勝ち取ることができました。

仲間と共に辛い練習を乗り越え、試合に勝って抱き合い、惜敗して泣く。僕はそういう貴重な経験をすることで友情や信頼関係を築くことが出来ました。京都大学ラグビー部には素晴らしい環境とかけがえのない仲間たちがいます。

僕たちは一人でも多くの新入生と共にラグビーをしたいと心から思っています。皆さんが京都大学に御入学された日には、是非一度京都大学ラグビー部へ足を運んで下さい。

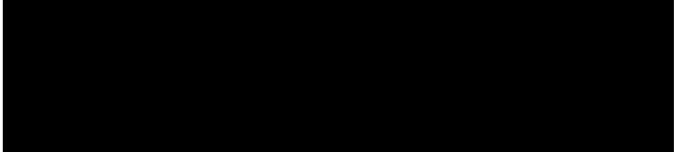
ご健闘をお祈りします。

2007年秋 主な試合結果

【関西大学Bリーグ 2007年度リーグ戦】

	摂南大学	大阪産業大学	花園大学	京都大学	関西大学	大阪経済大学	甲南大学	神戸大学	大阪教育大学	大阪大学	勝	負	分	順位
摂南大学		59-10	79-0	81-7	44-22	113-3	92-0	86-5	93-0	101-10	9	0	0	1
大阪産業大学	10-59		27-15	49-6	25-15	91-0	51-10	58-17	65-0	120-7	8	1	0	2
花園大学	0-79	15-27		51-29	24-22	75-34	54-10	38-10	52-7	79-14	7	2	0	3
京都大学	7-81	6-49	29-51		15-12	41-38	40-10	27-22	29-24	46-3	6	3	0	4
関西大学	22-44	15-25	22-24	12-15		42-28	46-5	60-15	28-23	102-7	5	4	0	5
大阪経済大学	3-113	0-91	34-75	38-41	28-42		36-19	39-13	15-43	80-5	3	6	0	6
甲南大学	0-92	10-51	10-54	10-46	5-46	19-36		32-17	20-12	55-0	3	6	0	7
神戸大学	5-86	17-58	10-38	22-27	23-28	13-39	17-32		43-10	63-17	2	7	0	8
大阪教育大学	0-93	0-65	7-52	24-29	15-60	43-15	12-20	10-43		45-0	2	7	0	9
大阪大学	10-101	7-120	14-79	3-46	7-102	5-80	0-55	17-63	0-45		0	9	0	10

日付	結果	試合区分
9/2	京都大学 7-28 同志社大学	定期戦
12/16	京都大学 36-27 九州大学	定期戦
12/23	京都大学 73-15 東京大学	定期戦



☆お願い

- このレポートを貴校ラグビー部員、あるいはその他のスポーツに取り組んでいる生徒の皆さんに回覧してください。大学進学後もラグビーを続けたい、ラグビーを始めてみたいとお考えの生徒さんの参考になれば幸いです。
- 当校に興味があったり受験を希望される生徒さん、見事合格された生徒さんがおられましたら、右記の地区担当者までご一報お願い申し上げます。

受験生の情報やご相談は下記の地区別窓口あるいは新歓担当まで

- 関東・東北・北海道地区：稲葉裕 (y-inaba@jbic.go.jp)
- 東海地区：梶田徹 (tokajita@aol.com)
- 近畿地区：南出聡 (stuminamide@yahoo.co.jp)
- 中国・四国・北陸地区：城田育士 (shirota844@royal.ocn.ne.jp)
- 九州地区：本田雅義 (zimasvingo@hotmail.com)
- 新歓担当 (現役学生)：大脇克也 (go_go_gacchaman330@c.vodafone.ne.jp)

当「K.I.U. Rugby News」に関するお問合せは下記の編集委員まで
大藤謙一 (k-ofuji@anglers.co.jp)



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 20 年度 第 1 号 7 月 1 5 日発行

エディンバラ大学ラグビーチーム来日！

OB 米良章生

6 月 2 日、英国はスコットランドの名門 エディンバラ大学（以下エ大）が来日し、大体大（4 日）、京大（7 日）、東大（12 日）、防衛大（17 日）等と対戦し、18 日 帰国する。
エ大はブラウン現英国首相を初め、進化論のチャールスダーウイン、作家コナンドイル等 多くの人材を輩出しているのみならず、ラグビー部も 1858 年創部、今年 150 周年を迎える古豪でこれまで数多くの名選手を生んできている。中でも最も有名なのが映画「炎のランナー」の主人公にもなった、1924 年パリオリンピックの 400 米 金メダリスト、リデル選手だ。このように、英国では Oxford, Cambridge と並ぶ文武両道の名門大学として知られている。

エ大は毎年欧州各国、南米、アジアに遠征し、学生として見聞を広めることにも努めているが、今年は創部 150 周年を記念して初めての日本遠征となった。ただ、近年はラグビーでは、強豪とはいえず Oxford, Cambridge に一歩譲っていることは否めない。それというのも、Oxbridge は学的水準も英国一だが、ラグビーとボートに関しては、体育奨学金制度（スポーツ推薦入学制度）があり、有望選手をリクルートできるが、エ大は純粋に学力のみで、学生を選抜しており、これが誇りでもある。このため来日時の対戦希望相手として、京大、東大の名前が挙がり、それならと京大、東大も受けて立つことになったもの。まさに「文武両道対決」（京都新聞）である。スコットランドのラグビーシステムは日本とかなり異なっている。詳細は省略するが、一方で、マクナブズリーグと呼ばれるトッププロのリーグを頂点とするクラブラグビーがあり、他方でスコットランド大学リーグがある。エ大は水曜日は学生リーグの試合をし、土曜日にはクラブリーグで試合をしている。昨シーズンまでは スコットランド大学一部リーグに属し、昨年の成績は 2 勝 4 敗で今年は 2 部リーグ転落といわれている。

このリーグに属するのは University Of Dundee, University of Stirling, University of St. Andrews, それに Edinburgh University の 4 校。なのに何故、2 勝 4 敗かといわれる向きもあるが、それは Season 中、Home and Away で 2 試合やる為だ。

余談になるが、京都府とエディンバラ市が友好提携を結び姉妹関係にあることを皆さんご存知でしょうか。のみならず、幕末から明治の初めにかけて日本はスコットランドに大変お世話になっている。（「国際日本を拓いた人々：日本とスコットランドの絆」或いは 「日本の近代化とスコットランド」等参照）その意味からも大変縁（ゆかり）の深い対戦といえる。両校 Fifteen の気合の入った熱戦を期待してやまない。

今シーズンの決意 2008 年度主将 森田 暢謙

“「A チームだけ頑張る、4 回だけ頑張る」では絶対にリーグ制覇出来ない！部員全員が常に成長し続けよう！”

ラグビーのプレーがどうこうの前に、この意識改革が僕たち 4 回が、まず目指したものでした。

部員全員に主体性を強調し、意識を変えるために自分で目標を書かせて、みんなの目に見えるところに張り出すなど、新たな試みもいくつもしました。

その結果、現在では、部員は自分の課題を自ら発見し、毎日個人練習で課題を埋めていくということが習慣になっています。そして、今までできなかったことができるようになった、ということがいたるところで起きています。

去年は B チームで試合にもほんの少ししか出られなかった部員が、チームで誰もできないようなすばらしいプレーをしたり、今まで自分からタックルにいかなかった部員が、誰よりも速く相手にタックルにいったり、筋トレをやれと何度言われてもしなかった部員が、自主的にやるようになるなど、大きな変化が起きています。

そういった変化で現在、チームはとても活性化されていて、いい

雰囲気練習ができており、また本当に日々チームが上達していることを実感しています。

チームは本当に成長していますが、僕たちの目指す B リーズ制覇には、まだまだ実力不足なのが現状です。これからも引き続き、日々全員が Break the Limit を体現し、今年こそ B リーズ No1 を勝ち取ります。

僕個人としては、見ている人の心を動かすような、ハートのこもったプレーでチームを引っ張ります。

今年のチームの成長を楽しみにして下さい。これからも応援よろしくお願いします。

新チームスタートにあたって 湯谷 博 監督

5 月のまとまった雨のおかげで、宇治グラウンドでは芝の緑がひととき鮮やかです。この優れた環境のもと、新チームは 3 月より

活動を始動し、走り込み中心の練習から次第に実戦的な練習に重点を移しています。

今年度は、攻撃については、接点での素早いボール出しから、テンポの速い連続攻撃を仕掛け、有効なスペースを作り出すことに重点を置いています。このためには、ボールキャリアーが安易に倒れず立ってボールを確実に支配すること、キャリアーとサポートがユニットとして素早く動くことが前提となります。安定したセットピースも攻撃の基礎となりますが、ことスクラムに関しては新しいメンバーの加入もあって、ほぼ強化の目処が立ちつつあります。

防御については、まずセンターより内側で組織的に強い圧力をかけ続けてボールを奪うことを目指し、その上でオーバーラップへの対策にも取り組んでいます。BK 攻撃では、SO、インサイドセンター、FB の攻撃力を軸に、他のポジションでの攻撃力を補強しながら、攻撃の幅を広げるよう努力しています。

ところで、今年 8 月より国内でも新しいルール ELV（Experimental Law Variations）が施行されます。Dan Luger 他著「Complete Conditioning for Rugby」（2004）には、1971 年（Scotland vs Wales）と 2000 年（Australia vs NZ）のテストマッチを比較分析した統計データが掲載されています。これによると、ラインアウトとスクラムの回数が、1971 年にそれぞれ 71、39 回であったものが、2000 年には 18、14 回へと激減しています。ゲームの中断回数が 151 回から 68 回に減る一方、30 秒以上継続する連続攻撃の回数が 3 回から 27 回へと大幅に増加。つまり、2000 年までの過去 30 年間にセットピースやパイルアップによるゲーム中断が激減し、ボールを持って攻撃する時間が飛躍的に増加しています。

ELV の目指すところもこの流れの方向にあります。ルール改訂によってプレーの継続性が増し、攻撃側により大きなアドバンテージが与えられるため、ゲームがますます攻撃的、スピードディーで面白くなる一方、選手にとっては体力的にとっても過酷なものになります。ELV が前提とする厳しい体力の要求に応えられる選手、ELV の概念に上手く適応出来たチームが優位に立ちます。ルール改訂でスクラムオフサイドラインが後退するのは、実に 40 年ぶりのことでしょうか。この歴史的な転換点に立ち会い、新しいラグビーにチャレンジできることは、私たちに取って大きな喜びであり、貴重なチャンスが与えられたと考えています。

日付	対戦大学	試合区分	結果
4/20	関西学院大学	定期戦	7ー 113
4/26	成城大学	定期戦	26ー 26
4/27	防衛大学	定期戦	31ー 17
5/3	京都工芸繊維大	新勧試合	7ー 17
5/11	慶應義塾大学	定期戦	14ー 81
5/18	帝塚山大学 A	練習試合	19ー 12
5/24	関西大学 A	練習試合	33ー 24
5/24	関西大学 B	練習試合	19ー 15
5/24	関西大学 B	練習試合	0ー 33
5/31	立命館大学	定期戦	33ー 52
6/7	京都大学 OB	練習試合	0ー 69
6/7	エディンバラ大	招待試合	21ー 52
6/15	花園大学	練習試合	45ー 26
6/15	京都大学医学部	練習試合	12ー 20

見えなかった ドロップ・ゴール！（続編）

昨年のクラブ便り 3 号に掲載された松尾勝吾氏のコラムは、私のラグビー人生にとっても最も印象に残る出来事だった。4 2 年と半世紀近くも前で、私は若干 2 0 歳の 1 回生、松尾さんは新進気鋭のレフリーだった。

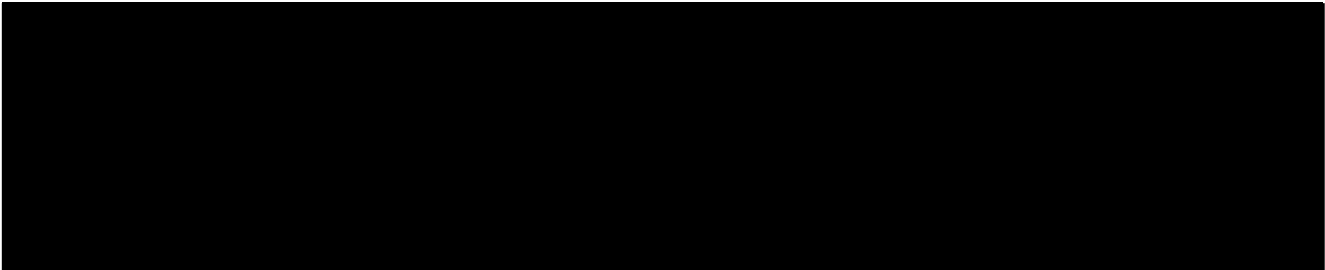
中京大に辛くも勝って関西第 3 代表の座を勝ち取っての第 2 回全国大学ラグビー選手権への出場で、元旦に行われた 1 回戦の相手が早稲田であった。当時の早稲田は、花園で全国優勝した時の天理高校出身の藤本をセブンエースとしたシステムを採用して、多彩な攻撃と完璧なディフェンスで社会人をも凌駕する最強のチームであった。

年の暮れ東京に遠征する前――北白川にある農学部のグラウンドでの練習中、当時 1 年生の私に突然星名先生が「中村君、東京に行った時には、ドロップゴールを狙いなさい。」といって、直伝のドロップキックの手ほどきを伝授され、何回もドロップキックの練習をした記憶が今もお鮮明に脳裏に焼きついている。東京に遠征した最初の試合の慶応との定期戦、試合開始直後に敵陣 2 5 ヤードの左中間マイボールのスクラムからでたボールを、星名先生から教えられた通りにドロップキックした。これが見事に決まり慶応に対して 3 点の先行をするという試合展開であった。星名先生の教えであり、約束をまずは守ったという思いであった。元日の早稲田との戦いは、強豪相手に全く引けを取らずに戦ったということで、負けはしたものの満足感のある試合であった。星名先生と石田主将の戦略だったと思うが、SH と WTB もスクラムに投入し、1 0 人スクラムで押しまくり早稲田を苦しませる試合展開であった。前半は 1 1 対 6 の全くの接戦で終了し、後半間もなく、敵陣 2 5 ヤード内やや左よりのラックから出たボールだったが、早稲田のディフェンス陣が多く右への展開が難しいと思った瞬間に、星名先生から教えられたあの「ドロップゴール」が閃きドロップキックを蹴った。慶応戦の時のようなクリーンヒットではなかったが、何とかゴールポストのバーを越えた。

後半は秩父宮ラグビー場の北から南に攻める方向で、松尾さんが書いているように当時はビルもなく太陽の日差しをともに受け青空が開いていた。多分松尾レフリーはラックの京大側の後方に位置していたと想像できるが、その位置からゴールポストは丁度太陽を見る方向になったと思う。松尾さんの記憶の中に、太陽光線のために「見えなかったドロップゴール」として、今だに存在しているということを知ることが出来たわけだが、私にとってもラグビー人生一番の出来事であるだけに、非常に不思議な気がしている。

S 4 4 中村孝太郎

※編集責任者の不手際で今回発行が遅れた事をお詫びします。





クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 20 年度 第 2 号 9 月 2 7 日発行

夏合宿を踏まえてシーズンへの展望

竹森 弘泰コーチ

菅平での夏合宿が終了し、チームは関西学生 B リーグへ向けた最終準備段階に入りました。

オフ明の練習は 8 月 1 日から開始しましたが、学生達が自主的に週 2 日の「オフ練」を実施してフィットネスの維持に努めたことから、例年よりも負荷の高い高密度な練習計画を消化することが出来ました。

この期間は、合宿の目的とする「チームの基本戦略の確立」に向けて、その構成要素となる個人スキル、ユニットスキル、個別戦術の精度を高めることを課題としました。特にタックルについては必ず毎日の練習メニューに組み入れて絶対的な練習量の増大を図り、合宿での成果に結びつけることが出来ました。

更に、夏季から導入された試験的ルールへの対応が課題となりましたが、まず、合宿前までにルールの変更点を正確に理解し、より効果的な戦術の考案を始めとした対応策については合宿での実戦を通して確認しながら詰めていく方針で取り組みました。

実際に試合を行った結果としての試験的ルールに対する主要な対応策のポイントは、

- ① 22m ライン外側から内側に持ち込んだボールを直接タッチに蹴り出した場合には蹴った地点でのラインアウトになることから、タッチキックが減少しキッキングゲームの重要性が高まることへの対応。
 - ② スクラムにおける B K のオフサイドラインがスクラムの後方 5m に引き下げられ、スクラムからの戦術が変化することへの対応。
 - ③ ラインアウトのクイックスローインの自陣側への投入が可能になり、クイックスローインが増加することへの対応。
- の 3 点が主体となりますが、①、③は同時に、ゲームが途切れずにプレーがより継続されることを意味しており、選手の身体的負荷が高まることへの対応、即ちスタミナの強化が必須となります。試験的ルールについては、同志社大学との定期戦やシーズンの前半戦を戦う中で、より効果的な対応策をゲームプランにフィードバックしながら、創造的に活用して行きたいと考えています。

合宿での A チームの試合結果は 5 勝 1 敗でした。

敗戦した学習院大学戦ではスクラム、ラインアウトで劣勢に立ったことが敗因のひとつとなりました。FW は昨年のレギュラーメンバーの大半が卒業し、弱体化が懸念されるなか、新しいレギュラーメンバーが目覚ましい成長を遂げて力を付けて来ましたが、学習院大学戦ではレギュラークラスの負傷欠場が多く、層の薄さが露呈しました。

但し、その他では初期の合宿の課題に対して概ね良好な成果を得ることが出来ました。具体的には、地域毎の戦略の組み立て、ディフェンスシステムの整備、ゲーム運びのリズムとテンポアップ、などの基本戦略についての意思統一を完了し、9 月当初から開幕までの 3 週間でシーズン前の走り込みによるコンディショニングを行います。

今シーズンは前半戦が下位チームとの対戦となるため、これを星取り・選手の怪我の状態共に無傷で乗り切ることが当面の課題となります。チーム力を引き上げながら後半戦に入ることが出来れば目標とする B リーグ優勝の目が出て来るものと目論んでいます。

現役メンバーの限らないポテンシャルに期待しながらシーズンに向かいたいと思います。

今シーズンの展望と決意

主将 森田 暢謙

去年の 4 回生が抜けたときにはどうなることかと思ったこのチームも、4 年間で最も自信の持てるチームに成長しました。全員が仲間のために体を張り、チームのために走り続ける。そんなチームです。リーグ優勝は部員全員が一年間拘ってきた目標で、絶対に成し遂げたいし、このチームなら成し遂げることができると確信しています。

チャレンジャーであることを忘れず、一試合一試合全力でぶつかっていきます。見てる人に感動を与えるようなラグビーをするので応援よろしくお願いします。

バックスの現状と今シーズンをどう戦うか

副将 大脇 克也 (BKS)

今年のバックスは、みんながとても努力して全体的にレベルアップしたと思っています。とくに選手全員がチームのために体を張れる選手であることが、1 番の武器だと思っています。試合でもそれを見ていただきたいです。

しかしレベルアップしたといっても、まだ今の段階では目標の優勝ができるほどとは思っていません。リーグ戦の一戦一戦に対してしっかりと準備し、全力で戦い、試合を通して成長していきたいです。残りの試合、とにかく悔いのないように、持てる力をすべて使って頑張ろうと思います。どうぞ、応援よろしくお願いします。

FW の現状

副将 今井 英之 (FW)

去年の FW から 6 人抜けたことや、合宿中に FW のけが人が多かったことで現時点の仕上がりは去年より劣ると思います。しかし、メンバーが固定されなかったことで選手層が厚くなりましたし、まだまだ伸びしろの多いチームです。リーグ戦を戦う中で成長し、最終的には B リーグ優勝を果たしたいと思います。

「今シーズンをどう戦うか」

ルール変更により京大の大きな得点源だったモールでのトライが非常に難しくなりました。でも、総合的に見ればそんなに影響はないと思います。京大の強みである DF 力を高め、ターンオーバーからのトライを増やしていきたいです。そのためにはブレイクダウンで如何にして勝つかが重要になってくるので、集散の早さと接点でのスピードを磨いていきたいと思っています。

リーグ戦 第一戦 大阪教育大に完勝！！

2008/9/21 (日) レフリー：加藤 真也

アシスタントレフリー：小島 光明 土田 豊

リーグ戦 対 大阪教育大学 14 : 00 K.O 40 分 × 2

先蹴：京都大学 AT.宇治 G

京都大学 34 - 0 大阪教育大学

前/後	前/後
2/3	T 0/0
1/2	G 0/0
1/0	PG 0/0
15/19	計 0/0
4/4	P 8/4

<メンバー>

【京都大学】

- 1 風岡 諒哉 (2) 明和
- 2 橋本 八洋 (3) 洛南
- 3 高橋 遼平 (1) 本郷
- 4 大淵 哲 (3) 明治学園
- 5 今井 英之 (4) 清真学園
- 6 丹羽 政雄 (4) 旭丘
- 7 森 春樹 (2) 長崎東
- 8 足立 圭佑 (M1) 六甲
- 9 宮田 朋弥 (3) 麻布
- 10 大脇 克也 (4) 旭丘
- 11 天井 洋平 (1) 新潟
- 12 森田 暢謙 (4) 天王寺
- 13 長谷川 弘樹 (3) 灘
- 14 西本 健哉 (4) 明治学園
- 15 小堀 充雄 (2) 膳所

【大阪教育大学】

- 1 中嶋 謙太郎 (4) 四条畷
- 2 高橋 宏規 (1) 東海大仰星
- 3 豊山 秀和 (2) 近畿大学付属
- 4 吉川 洋志 (3) 松山東
- 5 白石 涼 (3) 福岡
- 6 井濱 友輔 (2) 高津
- 7 河合 友介 (4) 三田学園
- 8 奥村 英生 (4) 高津
- 9 山田 洋彰 (1) 汎愛
- 10 土井川 功 (2) 茨木
- 11 田中 哲 (4) 神戸
- 12 松原 弘志 (2) 星稜
- 13 舟橋 遼 (1) 富田林
- 14 松浦 虎太郎 (2) 天王寺
- 15 長田 直真 (3) 桃山学院

- 16 中越 邁 (2) 湘南

17 井口 達也 (2) 六甲

18 但馬 晋二 (1) 膳所

19 高橋 一誠 (3) 北野

20 柳 良治 (3) 天王寺

21 米今 勇輝 (2) 神戸

22 並川 卓矢 (1) 茨木
- 16 三輪 雄輝

17 武林 元大

18 高橋 栄博

19 近藤 圭祐

20 宇都宮 靖人

21 田川 穂高

22 塩見 雄大
- (3) 川越

(4) 旭

(2) 高津

(1) 四条畷

(4) 柳学園

(1) 洛北

(1) 西宮香風

<試合経過>

3 分 京大 大教陣 2 2 M 内中央にて大教 6 のラックとなった
ボールを京大 7 がピックアップ。7-9-1 0-4 と右に
パスし、4 大淵が DF かわしポスト右中にトライ。
[1 2 c-○] 【7-0】

15 分 京大 大教陣ゴール手前右京大スクラムから京大番号不明
がラックとなり大教 9 がピックアップ。大教 9-1 0 と
左にパスし 1 0 のキックを大教陣インゴール内にて
京大 9 がチャージ。こぼれたボールを京大 1 0 大脇が
ポスト左中におきトライ。
[1 2 c-×] 【1 2-0】

16 分 試合中断：激しい雷雨のため→3 0 分後再開。
25 分 京大 大教陣 2 2 M 中央付近における大教ペナルティに
より 1 2 がゴールを狙う。キック成功。
[1 2 P G-○] 【1 5-0】

31 分 京大 大教陣 1 0 M 内右における大教ペナルティにより
1 2 がゴールを狙う。キック失敗。
[1 2 P G-×] 【1 5-0】

HALF TIME (15-0)

0 分 大教 戦術交代：3→1 6

10 分 京大 大教陣 2 2 M 内右にてラックとなり
9-1 0-1 2-1 3 と左に展開。
1 3 長谷川が DF かわしポスト左におしこみトライ。
[1 2 c-○] 【2 2-0】

12 分 大教 戦術交代：1 3→2 0

20 分 京大 大教陣 2 2 M 内右にて京大ラインアウトより
モール形成。そのまま優位に推し進め、7 森が
ポスト右隅にトライ。
[1 2 c-×] 【2 7-0】

21 分 京大 戦術交代：6 丹羽→1 8 但馬

33 分 京大 大教陣 2 2 M 外右にて京大スクラムを 2 2 M 外まで
推し進め 8-9-1 0-1 4 と左にパス。
1 4 ポスト中央に飛び込みトライ。
[1 2 c-○] 【3 4-0】

NO SIDE (34-0)

2008 秋・リーグ戦スケジュール

日付	対戦大学	試合開始	試合会場
9/21	大阪教育大学	14:00	京大宇治 G
9/28	帝塚山大学	14:00	京大宇治 G
10/12	大阪経済大学	14:15	大経大 G
10/19	神戸大学	12:30	龍谷大 G
10/26	関西大学	14:15	関西大 G
11/9	大阪産業大学	12:30	大経大 G
11/15	甲南大学	12:30	宝が池 G
11/23	龍谷大学	14:00	龍谷大 G
11/30	花園大学	12:30	龍谷大 G

天晴君を救う会より

金治伸隆(S58)

9 月初めに皆さまにお願いした「天晴君を救う会」への募金は、
2 6 日現在 292 件 14,324,490 円になりました。そのうち振込
名義のお名前で K I U R F C 会員と確実に確認できたものは
12,887,740 円です。
確認できなかったものには、明らかにクラブ以外の個人団体か
らのものもありますし、会員のご家族名義の口座と思われるもの
もあります。また一般用の募金口座にお振り込みいただいた会員
がいらっしゃることも数件確認しています。
いずれにしても、138,500,000 円の 1 割程度を京大ラグビーの
皆さんにお願いしたいと考えて設定した、目標額 (K I U R F C)
15,000,000 円はほぼ達成する見込です。

皆さま、本当にありがとうございます。

全体の募金額も既に 98,855,097 円(9/26 時点)になり、楽観的な
予想では 1 0 月半ばには目標額に達する可能性があります。天植
の勤務先 (博報堂)、地元 (P T A など) の力もありますが、こ
れまでの成果の多くをたくさんラグビー仲間が支えてくださ
っていることを、私たち天晴君を救う会メンバーは強く感じてい
ます。
K I U R F C の皆さまには、当初の連絡で「1 0 月末日までに」
という案内をしましたが、全体の目標額に達した時点で募金受付
を終了しますので、ご支援を予定してまだお振り込みをされてな
い方は、申し訳ありませんが早めの入金をお願いします。

K I U R F C 専用口座は次の通りです。
銀行名 : 三井住友銀行 (銀行コード: 0 0 0 9)
支店名 : 戸塚支店 (支店番号 7 9 1)
科 目 : 普通預金
口座番号: 7 1 9 9 6 1 9
口座名義: 天晴くんを救う会 会計 澤 直人
(デンセイくんヲスクウカイ)

岩田天植のことをよくご存知ない方のために、彼のラグビー略
歴は以下。北野高校でキャプテン、名スタンドオフでならしたあ
と、二浪して薬学部に入學、大学ではフランカーとして活躍、当
時関東社会人 1 部リーグの博報堂に入社後はさらにフッカーま
で経験。捨て身のプレーで皆に恐れられてました。最近
は糖尿病までわずらってますが、この個人的に厳しい状況でも博報
堂で大きな組織をまかされくじけずがんばってます。



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成20年度 第3号 1月31日発行

新年のご挨拶

和田 文男会長

新年明けましておめでとうございます。

会員各位におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は京都大学ラグビーフットボールクラブの活動に物心両面のご支援を賜り有難く厚く御礼申し上げます。

昨シーズンの京都大学ラグビー部は関西Bリーグに於いて6勝3敗と、来シーズンの更なる上昇に繋がる成績を残し、試合内容も多く感動を与えてくれるものであり、現役部員及びサポート頂いた監督、コーチ、マネージャーグループに心から御礼申し上げます。

また、東大戦をはじめ、定期戦も伝統を維持しながら、相手校チームとの友好関係を深め、好結果を挙げております。更に新しい試みとして初の外国大学チーム、エディンバラ大学を京都に迎え国際交流を行ったことも現役諸君に刺激を与えたものと考えております。

一方、現役の活動以外にOB有志の活動としまして、昭和58年卒岩田天植さんの息子さん天晴君の心臓手術に対する募金活動の中核として活動を推進され、目標額を達成するとともに先日米国にて運良く移植手術を実施することができた事、ご承知の通りで、皆様と共に順調な回復をお祈り致したいと存じます。

この様に、昨シーズンは当クラブの活動は多岐に亘り活発に行われ、クラブ活動への参加も徐々に各層に拡がってまいったと見ております。改めて会員各位のご協力に厚く御礼申し上げます。

しかしながら、現役活動強化の為に宇治グラウンド総合整備計画は道半ばであり、天然芝の管理やクラブ会員コミュニケーションを深める場としてのグラウンド敷地内クラブハウス建設等、何かと会員皆様のご支援が不可欠な活動も残っております。

引き続き会員各位のご協力をお願い致します。

新年に当たり、お願い方々ご挨拶申し上げます。

昨シーズンを振り返って

代表幹事 田代 芳孝

昨年度を振り返ってみると、春は、スコットランドから遙々やってくるエジンバラ大学のチームをどのように迎えるかが、クラブとしての最初の課題になりました。これに対して、会員の皆様から多大なご支援を頂き、記念ネクタイによる協賛金でなんとか、財政面の問題をクリアするとともに、若手OBの参加でオール京大として初めての外国人チームとの試合を実現することが出来ました。また選手たちは初めて国際試合を経験するとともに、交流の面でも、友誼を重んじるラグビーの真髄に触れる局面がいくつも出来て、大きな歴史の一ページになりました。これはまた、今後国際的な交流に活動を広げていく大きなきっかけになることでしょう。

また、秋のリーグ戦では最終戦の花園大戦において、体格に勝る相手FWと互角以上に戦って勝利したということが、京大のポテンシャルの大きさを示しているように感じられました。このことは選手諸君にも大きな自信となったと思いますし、来シーズンに繋がる成果であると思われます。これらの過程でOBの活動が活発化していることも大変心強いことだと思っています。

年末の東大戦では、芝生の宇治グラウンドに東大の方々も含め、かつて無いほど大勢のOBに集まっていたこと、年配OB戦から現役戦まで、各層が各様にゲームを楽しんで頂くことが出来ました。OBの皆様の京大ラグビーへの愛着心が天然芝化によって具現化され、年々の行事の中でラグビーを通じた交流の場として活用される姿を見た思いでした。この実績を是非クラブハウスの建設という次の目標に向けた活動に繋げて行きたいと思っております。実は、宇治グラウンド横にミーティングが出来るハウスを建てるという計画は、関係者の努力で具体化一步手前のところまで進んでいます。残るは資金の問題で、間もなく皆様の賛同をいただき、建設基金の募集を開始します。

一方、クラブ内のコミュニケーションの問題も提起されています。当クラブは早い時期からのメーリングリストの活用という技術革新によって、情報伝達網がよく整備されています。この力によって、岩田天晴君の命を救おうという意思も瞬時に仲間の下に伝達することが出来ました。しかし、この優れたコミュニケーション手段も問題がないわけではありません。情報伝達が一方通行になってしまうこと、あるいは、情報を受けた多数の人がそれぞれにメーリングリストで反論していると収拾がつかなくなるという問題があるということです。従って、メーリングリストは公的な伝達、報告に限ることとし、私的な見解を述べる場合は別にサイトを設けてそこで忌憚な

く意見を聞かせるという方向に持っていく、というのが本来の姿であると考えているのですが、現状はまだそこまで到っていません。当面は、ワン・フォー・オールの情報発信の場としてのメーリングリストの活用をお願いしたいと思います。

2008年度 森田組 戦績一覧

《定期戦》

日付	対戦大学	試合結果
4/20	関西学院大学	7 - 113
4/26	成城大学	26 - 26
4/27	防衛大学	31 - 17
5/11	慶応義塾大学	14 - 81
5/31	立命館大学	33 - 52
9/7	同志社大学	19 - 64
12/20	九州大学 A	36 - 12
12/20	九州大学 B	45 - 0
12/23	東京大学 A	38 - 5
12/23	東京大学 B	7 - 10

《招待試合》

6/7	エディンバラ大学	21 - 52
-----	----------	---------

《リーグ戦》

9/21	大阪教育大学	34 - 0
9/28	帝塚山大学	24 - 5
10/12	大阪経済大学	33 - 27
10/19	神戸大学	33 - 32
10/26	関西大学	14 - 39
11/9	大阪産業大学	0 - 76
11/15	甲南大学	30 - 22
11/23	龍谷大学	24 - 91
11/30	花園大学	31 - 22

2008年度 森田組 引退コメント集

◆主将 森田 暢謙◆ キャプテンを任されたとき、下の入替戦に出てもおかしくないと思った。飯島組の引退は大きすぎた。でも絶対に勝たなかった、勝たせなかった。

キャプテンとしてチームを勝利へ導かなければいけない重圧。春は厳しい練習で追い込んだ。それにみんなが頑張ってくれてきた。この仲間となら勝てるチームが作れると思った。全部員が出場した防衛戦で初勝利。春から頑張ってきた全員で勝ち取った初白星が誇らしかった。涙が出た。日々の練習ではみんなの成長を見るのが嬉しくて、毎日が楽しかった。

宮田が膝を怪我して歩けなくなると泣いて電話してきた。今まで見たことのない宮田の熱い気持ちを初めて感じた。同じグラウンドに立つ1人のプレーヤーとして本当に頼もしく思った。練習で守谷がすごいタックルをして相手ボールを奪った。嬉しかった。去年はちょっとした怪我ですぐ休んでいた長谷川が、目を切ってパンパンに腫らしながらも試合に出たいと言ってきた。期待通りのプレーヤーになった。他にもちゃきが喋るようになったことや、中越がBチームFWを引っ張るようになったことなど、みんなのちょっとした変化がキャプテンとしての喜びであり、プレーヤーとしても励みになった。

振り返れば今シーズンは、キャプテンとして悩み、喜んだ1年であった。素晴らしい仲間と巡り合えたことで一体感のある本当にいいチームができた。このチームのキャプテンであることを誇りに思います。みんなありがとう！最後になりましたが、今まで支えて頂いた監督・コーチ・OBの皆様、本当にありがとうございました。

京都大学ラグビー部で過ごした時間は僕の最高の宝物です！

◆副将 大脇 克也◆ 今までラグビーをやってきて、今年の一年が1番内容の濃い一年でした。苦しいことや楽しいこと、今振り返ればとてもいい思い出です。こんないい一年を送れたのも、チームメイトやOBさん、応援してくださった方々のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

ラグビーでのいろいろな経験を糧にこれからも熱くたくましく日々を送っていきたいと思います。京都大学ラグビー部に入ってプレーできたことを誇りに思っています。長い間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

◆副将 今井 英之◆ 春シーズンでは、丹羽と木内が怪我してしまい4回生のFWが自分一人になってしまいました。ラグビーの中でもFWは特にしんどいポジションなので、体を張ってチームを引っ張っていく4回生の重要性は計り知れません。丹羽のスタメン復帰戦となったエジンバラ戦で、自分よりはるかに体の大きい外国人選手相手に、

体を張ってタックルしている丹羽の姿に頼もしさを感じると同時に4回生FWと一緒にプレーできる喜びを感じました。さらに、エジンバラから学んだことを花園大学戦で発揮し、4年間で初めて花大に勝つことができ、いい形で春シーズンを終えられたと思います。

夏合宿では自分が怪我してしまい、学習院戦や同志社戦、FWで負けているにもかかわらず、見ていることしかできませんでした。特にセットプレーに不安を抱えたままリーグ戦に望むことになりました。リーグ戦序盤は何とか勝てたものの、昨年の上位校と戦う後半戦ではうまくいかず、関大戦ではFW戦で負けたことが原因でチームとしても負けてしまいました。しかし、この敗戦の悔しさを糧に必死に練習したことで、リーグ戦最後の花大戦の勝利につながったと思います。特に後輩たちの成長が非常にうれしく、毎日パワーをもらっていました。

今こうして振り返ってみても、多くの人に支えられて一年間やってこられたと思います。本当にありがとうございました。

◆主務 丹羽 政雄◆ 昨年の納会で、不安一杯でスタートした一年も過ぎるのはあっという間で。選手としては、Aチームのスタートメンバーで出場することができました。また、主務としてはエジンバラ大学との試合・交流を含めた様々な仕事を通じて、OBの皆さんの御支援を身にしみて感じられました。

昨年に比べれば一回り一人の人間として成長できた気がします。そんな自分を支えていただいた、全ての方々への感謝の気持ちを胸に、京都大学ラグビー部で過ごした4年間の経験をささやかな自信と誇りにして、京大ラグビー部の伝統に恥じないよう、社会人として頑張ります。ありがとうございました。

◆会計 窪田 峻◆ 4年間いろいろありました。

入学時は、正直、部活自体どこでもよいと思っていました。なんとなく雰囲気がよかったので入りました。今では、本当によかったと思っています。

4年間いいことばかりではなく、けがが多く、特に4年目で何回もけがをしてしまったのはとても残念です。試合にはあまり出ることができませんでしたが、学生として最後にとても充実した日々を送れたと思います。いままでどうもありがとうございました。

◆木内 悠介◆ この1年間を振り返ってみると、すべてがすべて楽しい思い出ばかりではありませんでした。しかし、同じ目標に向かって部員全員でベクトルをそろえて努力し、成功したときの達成感や喜びは他とは比べようのないほどに大きいものでした。そして、自身がこうしてグラウンドに立つことを全うできたのは、両親・仲間のみんな・OBの方々はもちろん本当にたくさんの方々を支えられてきたおかげであることを心から痛感した1年でもありました。

これからはこの大きな思い出・経験と、たくさんの方々への感謝を胸に、人生を歩んでいくとともに、来年も現役京大ラグビー部で戦っていく仲間たちの健闘・躍進を心からお祈りしたいと思います。

◆竹賀 章悟◆ 今年一年を振り返って、支えられていると感じる一年だったと思います。僕は、新歓係と備品係をやらせていただいたのですが、新歓のイベント一つ、備品一つとっても多大な費用と手間が必要でした。

そんな中で思いっきりラグビーというスポーツに打ち込むことができるというのは、ひとえにOBの方々の支援あってこそだと思います。新歓の方では、目標であった15人入部を達成できなかったことが心残りです。

今年は、楽しいことよりも辛いことや苦しいことが多かった年ではありますが、間違いなく今までで一番成長できた一年だったと思います。本当にありがとうございました。楽しかったです。

◆西本 健哉◆ 昨年は最上級生としての一年間であり、これまでとはまったく違うものであった。仕事を任せられ、また、先輩に頼ることができないことが、どれ程大変なことなのか、思い知らされた。ただ、その中で成長させてもらったことを実感し、貴重な経験をすることができた。そして、OBの協力を今まで以上に感謝する一年

間であった。

◆MG 宮田 留衣◆ 選手を一番近くで支える存在になりたい、そう思いマネージャーとなりました。今振り返ってみると本当にあったという間の4年間で、正直まだ引退したという実感はありませんが、この森田組が私の最後の年で良かったと思っています。

一番近くで選手の苦悩や成長を見ているからこそ分かち合える感動や喜びは何ものにも代えることはできず、私の一生の宝物となるでしょう。このチームで出会えた素晴らしい仲間、今まで御支援してくださったOB様へ感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。

◆トレーナー 坂田 政弥◆ この一年、トレーナーという役職でチームに関わらせてもらいましたが、平日は大学院での研究が忙しく、練習には週末のみの参加となり、トレーナーの仕事は満足行くようにはできませんでした。自分の仕事ができなくて、チームのみんなに迷惑をかけてしまい、今年は非常に悔いの残るシーズンとなりました。

しかし、この一年は、大学4年間プレーヤーとしてラグビーをやってきた自分にとって、プレーヤーとは違った立場でラグビーに関わるという経験ができ、勉強になることも多かったと思います。ここで学んだことや経験したことを今後のラグビー人生に生かしていきたいと思います。

一年間お世話になりました。ありがとうございました。

息子 天晴の心臓移植手術が成功いたしました。

岩田 天植(S58)

昨年2月に、特発性拡張型心筋症を発病しました息子の天晴は

- ・1/6 ニューヨークのコロンビア大学小児病院に入院し、3日後にドナーが見つかり
- ・1/9 心臓移植手術が無事に終わりました。その後2回の生体検査にて拒絶もなく
- ・1/28 退院することができ、11ヶ月半ぶりに病院から外の世界に出られました。

ここまで来られましたのも、9月からの「天晴を救う会」の活動において、地元、会社、学校、そしてラグビーという様々な領域、世代、地域での友人、仲間たちと、そのまた友人、仲間たちによるご支援、ご協力のおかげです。うまく言い表せませんが、ただ、ただ、ありがとうございました、の一言です。

救う会の共同代表には、同期の金治主将が公私共に忙しい中、参画してくれラグビー関係への働きかけを積極的に行ってくれました。京大ラグビーはもちろん、ラグビー協会を初めとして、社会人、大学、高校、クラブチームなどラグビーに関わる広くたくさんの仲間たちが、何とかしよう、何とか助けようと立ち上がってくれ、スピードとパワーを発揮して、ゴールラインに真っすぐ向かって、我々家族を押し進めてくれました。伝統ある京大ラグビーOBのタテ・ヨコのネットワーク、結束力、行動力に感謝、感服です。救う会のメンバーたちも京大ラグビーの仲間意識、絆の強さ、行動力に驚かれました。

秩父宮ラグビー場での募金活動に多くの先輩後輩が参加してくれ、募金の呼びかけやチラシ配布を毎週末、やっていただきました。感激して、感謝を言葉では言い尽くせなかったです。その結果、募金目標額も一ヶ月少しの短期間で達成することができました。

絶望と不安の中にありました天晴、家族にとって、皆さんからの励ましの言葉、力強い支援、本当に心強かったです。たくさんのフォローがあったからこそ、トライ、ゴールに結び付けたのだと思います。ALL FOR Tensei・・・本当にありがとうございました。



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 21 年度 第 1 号 9 月 29 日発行

「2009 年春シーズンの報告と今後の強化方針」 湯谷 博 監督

過去 3 年間、リーグ戦では中位の成績をキープして来たものの、上位 3 チームとは特にブレイクダウンで圧倒的な体力差があり、歯が立たなかった現実があります。この壁を破るには、先ずフィットネスの面で上位チームに追い付くことが必要不可欠と考えています。今年 3 月から、森永製菓に所属するストレングス & コンディショニングコーチの秋山昌俊氏と契約し、科学的な理論に裏付けられた本格的なフィットネストレーニングを開始しました。春の間、週 2 回はグラウンドを使わず、本部の体育館でトレーニングに専念しました。その結果、筋力は着実に向上し、例年ならシーズン中に落ちて行く体重が今年は殆ど変わらない、といった効果を生んでいます。一方、走力やスキル練習にける時間が制約されるため、春の試合では走力不足とハンドリング等のスキルの低さを露呈しました。ウエイトトレーニングは、秋のシーズンにピークを設定している上、獲得した筋力をラグビーに適した体力に転換するにも時間がかかるので、即効の成果は期待できません。こういったことが春の成績不振の要因にもなっています。しかし、リーグ戦で現状から飛躍するには、敢えてリスクを賭けてでも、多くの有力チームが行っている本格的なフィットネストレーニングに取り組まざるを得ません。正しいトレーニングの知識と獲得したスキル及びフィットネスは確実に選手の財産となりますし、系統的なトレーニングを続ける中でチーム力が着実に伸びて行くものと考えています。

春の試合を振り返って、ディフェンスでは京大の最大の長所として来たシャローディフェンスが殆ど見られず、相手に自由な攻撃を許しました。敵に鋭く圧力をかけ、特にセンター周辺での 1 次防御を固めること、2 次以降の防御網の整備、タックルスキル、キック処理の改善が秋のシーズンに向けての重点課題です。

攻撃では、セットからの 1 次攻撃で有利な状況を作れないことが、低い得点力の大きな原因になっています。中盤からは H B のキックで地域の獲得を試みるものの、チェイスのスピードと圧力不足でボールを再獲得できず、敵陣に入っても効果的な仕掛けが見られません。確実なペネトレーターの養成とともに、セットからの攻撃戦術を洗い直し再構築することが重点課題です。これにはまた、昨年のルール改正で重要度を増したスクラムの安定と強化が前提となります。

ブレイクダウンの局面では、ハンドリングミスを減らし

倒れずにボールを有効に保持することが、これまでからの継続課題です。ルール改正でドライビングモールが再び有効な攻撃手段になった今シーズン、モールの強化も欠かせません。

リーグ戦では、開幕からの 3 試合が下位チームとの対戦になるので、そこを取りこぼさず乗り切れば良い流れも生まれます。幸い 7 月末から始まる練習には、肩の手術やケガで春に離脱していた多くのメンバーが復帰します。先ず最初の 3 試合を確実に勝つこと、またリーグ戦を戦う中で着実に戦力を伸ばして行ける基盤を確保することを目標に、個人とチームのレベルアップに努めます。

「今シーズンへの決意」

主将 宮田 朋弥

去年の先輩方が抜けた穴が大きく、春シーズンの結果は全敗でした。

全敗したことは悔しく、また秋に対しての不安もあります。ですが、今の京大ラグビー部はリーグ戦を勝ち越していることしか知りません。春シーズンのうちにやられる経験で、現状を知ることが出来たことは良かったと思います。今のラグビー部に足りないものは「強み」と考えています。去年に比べ走り込みの量が減り、走り勝つというゲームがなく、強みになりませんでした。夏は合宿までに走り込みで自信をつけていきます。

そして秋は最初の 3 戦が勝負です。必ず勝ち、流れに乗っていきたいです。

副将 大淵 哲 (FW)

本年度、副将、FW リーダーをつとめさせていただいております、大淵です。今年の春は、苦しい試合が続ぎ、個人的にも、ケガによりラグビーができない中で苦しい時間が続きました。しかし、そのような中でも、FW についていえば、セットプレーの安定や、オーバーなど、成長も見られますので、春の結果と反省点は真摯に受けとめ、良かった部分はさらに伸ばしていきたいと考えております。夏からは、再びモールの引き倒しが禁止されるため、FW 近辺での攻防が激しくなるかと思われ ますが、夏の練習・合宿と、厳しい練習・試合を積み重ねることにより、上位校にも負けたくない、強い FW、そして強いチームを、宮田主将を中心にチーム一丸となって作りあげていきたいと考えておりますので、合宿での試合、そして、リーグ戦におきましては、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

今年の春シーズンは結果的に1勝もできずに終わってしまい、本当に今までにないくらい苦しいシーズンとなりました。

特にバックスについては、去年の主力メンバーが何人も抜けてしまったことによって、有効な戦い方がなかなか見いだせず、多くの課題が残りました。

ただチーム全体のレベルとしては、去年ほどの完成度ではないにせよ確実に上がってきており、春にやってきたことは決して間違っていないかと思っています。

これから8月、9月とチームが一番伸びる大切な時期に入ってきます。ここで春の遅れを取り戻せなければ、このチームは下手をすれば1勝もできないまま終わる可能性もあります。

そうならないためにも夏は例年以上に苦しい思いをして、リーグ戦が始まるときには春とは見違えるようなチームになれるように、日々頑張っていきたいと思っています

これまでの試合結果 (関西 B リーグ 2 戦 2 勝)

9/27 帝塚山大学	リーグ戦	44-26
9/20 大阪工業大	リーグ戦	55-12
9/13 同志社大学	定期戦	5-128
6/14 成城大学	定期戦	10-94
6/6 防衛大学 B	定期戦	5-43
6/6 防衛大学	定期戦	17-33
5/17 立命館大学	定期戦	0-79
4/26 慶應義塾大	定期戦	0-80
4/18 関西学院大	定期戦	7-102

今後のリーグ戦日程

10/4	甲南大学	12:30	於：関西大学 G
10/18	龍谷大学	14:45	於：龍谷大学 G
10/25	花園大学	12:30	於：関西大学 G
11/1	関西大学	14:15	於：関西大学 G
11/15	近畿大学	14:00	於：近畿大学 G
11/22	大阪教育大学	13:00	於：龍谷大学南大日 G

爽やかな汗、おもしろすぎる夜、筋肉痛。菅平で「非日常」にどっぷり浸る2日間は、一度参加したら、やめられなくなることを請け合いだ。

7月4日。昼過ぎに三々五々、集合した。懐かしいあの顔、この顔に会った瞬間、学生時代の序列に引き戻される。晴れ渡った高原の青々とした芝生のグラウンドでは、全国から集まった物好きがすでにボールと戯れている。気持ちのはやる。

一時は大会への参加そのものが危ぶまれたはずが、実際には助っ人も含めて35人ぐらいが集まった。ポジションによっては20分ハーフで3交代制を敷くほどの充実ぶりだ。

初戦は開始早々からスクラムが押され、先制トライを許す不安な滑り出し。しかし、ベテランを先発に起用し、若手を後からつぎ込む作戦が的中し、鮮やかな逆転勝ちを収めた。相手は普段の練習ぶりがうかがえる好チームだったが、わが方の地力、底力が上回った。士気はいやでも盛り上がった。

翌日は、早稲田と関東学院が戦うというメイングラウンドで、不惑クラブに挑んだ。新ルールに習熟度とまとまりの差は埋めがたく、完封負けを喫した。決して歯が立たない相手ではなかった。それだけに「欲求不満が残る」(某大先輩)結果だった。

しかし、なんと言ってもハイライトは、夜の部だろう。体育館に参加約30チームの全選手が集合したレセプションでは、壇上でクラブソングを披露した。流暢な英語は、ケンタッキーフライドチキンやモスバーガーをアテに酒をくらい続ける他チームの度肝を抜いた、はずだ。

宿舎に戻った2次会では、某大阪府立高のチームカラーが槍玉に上がり、50歳を過ぎても先輩の命令一つで芸を披露する強い絆が感動を呼んだ。

城田先輩は、時代と共に途絶えていた小唄を披露された。明治早稲田慶応をことごとく揶揄し、京大のスマートさを称えたうえ、「サルチョンチョン」という謎のフレーズで締めくくる。「復活させて、来年のレセプション壇上でぜひ」と一同、酔った勢いで大いに盛り上がった。

更に翌朝、試合後の円陣で「あの小唄には続きがある」と衝撃の告白。「知りたい人は来年、参加すべし」との檄を受け、再会と一層の精進を期しつつ、帰路についた。



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 21 年度 第 2 号 11 月 6 日発行

前半戦を振り返って

竹森 弘泰 ヘッドコーチ

シーズンの前半 5 試合を終えて、戦績は 2 勝 3 敗となりました。春シーズンが全敗となり、夏以降でチーム力の挽回を目指すも故障者の多発や新型インフルエンザの流行で思うようには強化が進まない状況下でのシーズンインを考えると、開幕からの 2 連勝については選手が大変良く頑張った結果と評価しています。

第 3 戦は、夏から続けた猛練習により選手の疲れがピークに達しており、強化の著しい甲南大に完敗を喫しましたが、その後の龍谷大戦、花園大戦については、負けはしたもの内容的にはチーム力の向上が現れています。

現在のチーム評価は、FW のスクラム、ラインアウト、及び BK の地域獲得のためのキック攻撃などの安定を基盤にして、地域ごとの戦術やゲームマネージメントについては良い成果が現れています。一方、攻防の局地戦でのタックルやボールの奪い合いに弱みがあり、これを後半の課題として重点的な強化テーマとして練習に取り組んでいます。

残すところ、関西 B リーグ戦と定期戦を合わせて 5 試合となりますが、後半戦の勝ち越しを必達目標として、更にもう一段のチーム力向上に向かって邁進いたします。

これまでの試合結果 (関西 B リーグ 6 戦 2 勝 4 敗)

9/27 帝塚山大学	リーグ戦 44-26
9/20 大阪工業大	リーグ戦 55-12
10/4 甲南大学	リーグ戦 19-60
10/18 龍谷大学	リーグ戦 25-50
10/25 花園大学	リーグ戦 17-27
11/1 関西大学	リーグ戦 3-71

今後のリーグ戦日程

11/15	近畿大学 14:00	於：近畿大学 G
11/22	大阪教育大学 13:00	於：龍谷大学南大日 G

久保田淳一先輩 (S16 年卒) の卒寿を祝う会 望月秀朗 (S33 年卒)

去る 9 月 29 日、平成 4 年から平成 7 年まで 4 年間、京大ラグビー部 OB 会会長を勤められ、創部 70 周年の記念行事を会長として主催された久保田淳一氏 (昭 16 後期卒) の卒寿を祝う昼食会が、現在お住まいの

川崎市宮前平の近くで開かれ、東西から長老代表、新村重晴 (昭 24) と岸田健 (昭 28) の両氏が、又現役時代、久保田氏から親しくコーチとして指導を受けた藤岡、諏訪、小池 (何れも昭 32)、川井、清水、田中康、望月 (何れも昭 33) の 7 名と和田 K I U・R F C 会長の計 10 名が出席した。久保田氏を含む出席者の平均年齢は 78 歳と、将に後期高齢 OB 会となった。

久保田氏は本年 3 月、満 90 歳になられたが、頭脳明晰、食欲旺盛、体調万全のご様子で、重量 FW 時代の体重・体格をそのままに、歩行は些か困難とお見受けしたが、牛歩戦術でカウ”アーされ、ただ軽い難聴であられるため、多勢が集まる盛大な祝賀会より、小人数で密度濃く、ゆっくり会話と食事を楽しんで頂く、との計らいで、ご夫妻と付き添いのご長女を、とうふ料理にご案内した。

当日は予想通り打ち解けた会話が弾み、笑い声の絶えぬうち、予定の 2 時間は瞬く間に経過、名残を惜しみつつ、益々のご健勝を祈って散会した。

久保田氏は、甲南中学、甲南高校、京大を通じてラグビーに親しまれた。京大での最終学年の昭和 16 年、大陸では泥沼の中華事変が続き戦時色の強まる中、12 月 8 日の日米開戦により、学生の徴兵猶予が急遽、半年ずつ繰上がったため、3 回生は 12 月末の東大戦 (14-3 で勝利) を最後に、正月の慶応、明治戦を 1, 2 回生に託し、後ろ髪を引かれる思いで 1 月半ばに入隊、南方へ出陣された。その後、久保田氏の部隊はビルマに派遣され、悲惨な結果を招くインパール作戦に巻き込まれたようだが、久保田氏は、選ばれて指揮官教育を受けるため、部隊と別れて教育機関のあるジャワ島 (現在のインドネシア) に渡り、そのまま南方軍幹部候補生隊区隊長として終戦まで勤務された。戦場への出陣に先立ち、ご夫妻は結納を交わしておられたが、武運長久の願いが叶いましたと、奥様ははにかみながら話された。

なお久保田氏は、昭和 15 年 1 月の第 14 回東西対抗ラグビーに西軍 FW として、又、紀元二千六百年記念アジア大会に出場の全日本代表にも名を連ねておられる。

処で、戦後の京大は他校に比し、有力選手の早期復員や食糧等資材の調達で優位に立ち、順調な滑り出しを見せたが、教育制度の改革により、旧制高校での経験者と言う、貴重な選手供給源を絶たれることとなり、昭和 27 年度を境に、新制高校卒の未経験者を交えたチーム編成を余儀なくされ、私学の後塵を拝して、3 年連続関西大学リーグの最下位に甘んじることとな

る。

昭和31年、見兼ねたOBの手で、戦後長らく続いた無監督時代に終止符が打たれ、巖栄一（昭2）総監督のもと、久保田FWコーチと堀江バックス・コーチによる監督団が誕生した。

久保田氏は入隊前、台湾拓殖（株）の内定を取っておられた。台湾なら、香港、上海、シンガポールの英国人とラグビーができるだろう、とアジアへの夢を描いておわれたためだが終戦で同社は解散。復員後、宇治に工場を持つ大手人造絹糸会社（後に合繊メーカー）労務係の募集に応じられた。ここなら時には京大でラグビーができるだろう、と考えての応募だったようだ。狙いは的中、特に監督団のコーチとなられてからは、殆ど毎日、宇治工場から、練習の始まる午後3時前には農学部グラウンドに到着され、我々が教室から駆けつけると、何時もお先に、久保田コーチのユニホーム姿があった。慌ててスタイルしてボールに空気を入れたものだ。

それにしても、京阪電車が加茂川べりを走って三条止まり、であった当時、どのようにして毎日定刻、短パンでグラウンドに立たれたのか？積年の疑問をこの度、恐る恐る投げて見たところ、社用車を使って行ったんだよ、との何気ないお返事だった。他から聞くと、宇治工場には社用車が4台あったが、当時労務係長の久保田さんが、その内の1台を、毎日使って京大へコーチに行かれることは、工場内では公然の事実として誰もが認めていたようで、神武景氣を謳歌したわが国経済が、高度成長期に差し掛かった鷹揚な時代背景が追憶される。

なおその頃、久保田氏の手で宇治工場に作られたラグビー部が、本年5月、創部50周年を迎えて記念行事が行われた。同チームは関西社会人Aリーグ経由、今やトップウエストA1リーグの強豪に育っている。

話を京大に戻そう。久保田、堀江両コーチのご指導のもと、その年、昭和31年、我々は立命に勝って最下位を脱出、翌年は立命を連覇、関大にも勝って関学、同志社に続く3位を確保した。4年ぶりに立命を破った日、久保田コーチは4回生全員を引き連れ静で祝勝の乾杯、労を労われたが、藤岡主将らには、生涯の思い出となっていることだろう。

昭和34年度まで監督団のコーチを勤められた後、星名、大楽、岩前監督の時代も、熱心に、正確に、練習やゲームの観戦を続けられ、監督・コーチを通じてアドバイスされるなど、京大ラグビーへの情熱を持ち続けて来られた。

御開きに際し、齢を重ねても何時までも、ラグビー仲間が集まって呉れることが嬉しい、と喜んで頂き、

また現役諸君は、学生チームの常として、毎年卒業生を送り出し、メンバーが変わるが、些かも怯むことなく、監督、コーチ陣の適切かつ情熱溢れる指導を受けて、懸命に努力を重ね、毎年、期待に応える成績を挙げている。その様子を見せてもらうことが、自分の長寿の秘訣になっている！とも話された。学生を含むクラブ全員が、楯門球を追った往年の集中力と堅い結束を再現し、一丸となって、現役チームの応援に当たり、久保田先輩にも喜んで頂こうではないか。

岩田天晴君、トップリーグを観戦 谷利 亮（S58年卒）

嬉しいご報告です。1月に心臓移植手術を受け、8月に帰国した岩田天晴くん（S58卒 岩田天植氏の長男）が、9月の秩父宮でのトップリーグを観戦しました。今回は、サントリーの部長を努められている夏山OB（S54卒）のご尽力と日本協会のご厚意により、天晴くん一家は、特別室でサントリー対九州電力他の試合を観戦しました。9月としては涼しい気候でしたが、ナイターに照らされたピッチを天晴くんは食い入るように見ていました。

試合後にはサントリーのロッカールームを訪ねて、去年の募金活動でお世話になった選手のみなさんにお礼を述べ、大きな拍手をいただきました。

なお、今回は、昨年、募金や支援活動をしてきた下記メンバーも一緒に観戦し、試合後は天晴くんの元気な回復に乾杯をして、さらに懇親を深めて心地よく家路につきました。

【参加メンバー】（敬称略）内田・衛藤・真田・中村・久野（九大OB）・松田（東大OB）・赤木（博報堂・救う会代表）・谷利

学士ラグビー倶楽部80周年記念誌が完成 白石 良多（S54年卒）

かねてより準備してまいりました年記念誌が10月に完成いたしました。会員の皆様の寄稿を中心に、散逸していた80年の歴史とともに、その時々楽しい懐かしい出来事、学士ラグビーに寄せる想いが見事に集った素晴らしい記念誌に仕上がりました。是非1冊お手元にお買い求め下さい。ご希望の方は、卒年、お名前、住所、電話番号をFAXか郵送でお知らせください。

153-0043 目黒区東山2-14-2

白石良多宛 FAX 03-5722-4230

・申し込み順に記念誌を送付します。

・代金（3000円）の支払い方法は記念誌に同封



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 21 年度 第 3 号 1 月 31 日発行

「2009 年度シーズンの総括」

監督 湯谷博

今シーズンはリーグ戦が 4 勝 5 敗の 7 位、定期戦が全敗と、不甲斐ない成績に終わりました。OB の皆様方の期待にお応えできなかったことを大変申し訳なく思っています。

当初の想定では、FW メンバーに変更が少なく攻撃起点での強化が見込まれる反面、BK の主要メンバーが卒業したため、獲得したボールを使った突破、得点に困難が予想されました。

リーグ戦は、1 試合当たりの平均得点が 28 点、失点が 47 点。得点は例年並みか少し上、失点は 10 点以上の超過でした。B リーグ上位の平均失点は例年 10 点前後であり、対抗するには、まず防御の立て直しが最重点課題になると考えています。

攻撃面では、上位チーム相手には余り点を取れないものの、中位以下のチームにはセットを中心に良く健闘し、BK もうまく連携してかなりの攻撃力を発揮しました。

一方、失点の多さは、防御面でやはり深刻な弱点があったことが分かります。ラインやサイドからの強い圧力、個々のタックルのスキルや強度といった面で、十分な威力を発揮できませんでした。キック攻撃で、防御が弱いためボールを再獲得できず、地域の支配力にも波及しました。相手キックの処理も最後まで不安定な試合が続きました。

これまで上位チームとはフィットネスで圧倒的な差があり、ブレイクダウンで歯が立たなかった反省から、専門のトレーナーを招き春シーズンには週 2 日を費やしてウエイトトレーニングに重点的に取り組みました。これにより、体重減少の抑制やスクラムの強化といった成果が得られた一方で、各種スキルや走力トレーニングにかかる時間が制約され、チーム作りが遅れた側面もあります。週 2 回のウエイトは有力チームでは普通ですが、経験に乏しい京大においては修正が必要かもしれません。全体スケジュー

ールの中で、ウエイトトレーニングを無理なく効果的に組み入れたいと考えています。

A リーグや B リーグ上位校は、経験豊かな新入部員を多数確保し、ジュニアチームを組織的に強化して、代表チームの実力を安定・維持しています。京大では新人リクルートに制約がある以上、低学年の時期に急速にレベルアップできるかどうかチーム強化の鍵を握っています。これまで以上に新入部員を獲得し、ジュニアリーグに参戦して経験を多く積ませるなど、ジュニアの系統的な強化システムを軌道に乗せたいと考えています。今後とも、OB の皆様方にご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

ヘッドコーチ 竹森弘泰

今年度は非常に厳しいシーズンとなりました。強化方針とした「真の基本スキルの習得」「フィットネスの強化」「プレーのテンポとスピードアップ、及びディフェンスの強化」について、いずれも十分な成果を上げられなかったことに対し、コーチとして深く反省しなければならないと感じています。

成績不振の原因は、練習への集中力を高め続けられなかったことに結論づけられます。

年間の強化計画、日々の練習メニュー、チーム戦術や戦略などについては、関西学生 B リーグ最終戦で非常に集中力の高い戦略的なゲームが出来ていることから、それほど大きな問題はなかったと考えています。しかし、その集中力を持続して更に高めていくことが出来ず、練習への取り組みに甘さが生じたことが、戦績に反映しました。

具体的には、練習での一つひとつのプレーでキーフクターが遵守できるかどうか、全力を発揮できるかどうか甘さがありました。シーズン当初から問題点として認識していながら、最後まで克服し切れませんでした。

練習での取り組みがそのまま試合の結果に直結す

る厳しさを改めて思い知らされました。しかしながら、チームとして貴重な教訓を得たシーズンでもありましたので、来シーズンへ向けた糧としたいと思います。

**秋シーズン試合結果
関西 B リーグ 9 戦 4 勝 5 敗（不戦勝 1） 7 位**

9/13	同志社大学	定期戦	5-128
9/20	大阪工業大	リーグ戦	55-12
9/27	帝塚山大学	リーグ戦	44-26
10/4	甲南大学	リーグ戦	19-60
10/18	龍谷大学	リーグ戦	25-50
10/25	花園大学	リーグ戦	17-27
11/1	関西大学	リーグ戦	3-71
11/15	近畿大学	リーグ戦	14-108
11/22	大阪教育大学	リーグ戦	49-21
12/20	九州大学 A	定期戦	10-17
	九州大学 B	定期戦	43-7
12/23	東京大学 A	定期戦	19-48
	東京大学 B	定期戦	31-29

東大戦後の 4 回生のコメント

▽ 宮田朋弥（麻布）SH 主将

最終戦を勝利で飾れなかったのは本当に悔しい。ただ B のメンバーがとても良い試合をしてくれたことがすごくうれしかった。特に 1 回生の成長が感じられた。来年以降が楽しみだ。今年 1 年間あまり勝つことが出来ず、しんどい思いをさせてしまい、本当に申し訳なかった。来年は今年の反省を活かして、たくさんの試合に勝って欲しい。これからは OB として現役のサポートと、新しい気持ちでラグビーを楽しみたいと考えてます。

▽ 大淵哲（明治学園）Lo 副将

最後に負けたことは悔しかったが、仲間にも先輩にも後輩にも OB のみなさんにも恵まれた、本当に素晴らしい 4 年間だった。今まで関わった全ての人に感謝したい。あとは後輩のみんなが頑張るのを心から祈りたいと思う。

▽ 柳良治（天王寺）CTB 副将

4 年間京大ラグビー部でラグビーをしてきて、本当に充実した毎日を過ごすことができ、とても楽しかった。最後の最後で負けてしまったのは残念だったが、来年はこの悔しさを忘れずに後輩たちには頑張ってもらいたい。今までご支援、ご声援を下さった OB 並びに関係者の皆さま、本当にありがとうございました！

▽ 守谷隆一（海城）FL 主務

チームの全員が勝利に向かってまとまれた試合だったと思う。一人一人が素晴らしいプレーをしてくれて、みんなには感謝しきれない思いです。来年以降の後輩の成長が楽しみです。

▽ 高橋一誠（北野）FL

A は負けてしまいましたが、B では勝てて本当に良かったです。AB で合計 120 分間の出場は疲れましたが、最後の試合でたくさん出られた自分は本当に幸せだと思います。これまでお世話になった方々に心から感謝したいと思います。

▽ 橋本八洋（洛南）HO

4 年間の総仕上げを勝ちで飾れなかったのは残念だった。良かったのは、今年こだったスクラムが圧倒出来たこと。来年はスクラムでの圧倒を勝ちにつなげられるよう、後輩達に頑張ってもらいたい。

▽ 長谷川弘樹（灘）CTB

4 年間ありがとうございました。やっぱり負けたことは悔しいですけど、自分たちが 4 年間やってきたことは無駄ではないと思います。これからは頼もしい後輩を応援する立場になって社会人として前を向いて keep going していきます。

「三高蹴球部創部 100 年を祝う会」の報告

監督 湯谷博

京都・下鴨神社糺の森で昨年 9 月 23 日、「三高蹴球部（ラグビー部）創部 100 年を祝う会」が開催されました。京大ラグビー部を代表して、私と城田育士様が招待を受け出席しましたので報告します。

三高蹴球部は、慶応義塾蹴球部に続き日本で 2 番目のラグビー部として 1910 年に創部されました。この年、三高生の堀江卯吉氏と友人数名が、堀江氏の許婚の兄である慶応義塾副主将・真島進氏に糺の森で

ラグビーの手ほどきを受けたことから三高蹴球部が誕生しました。

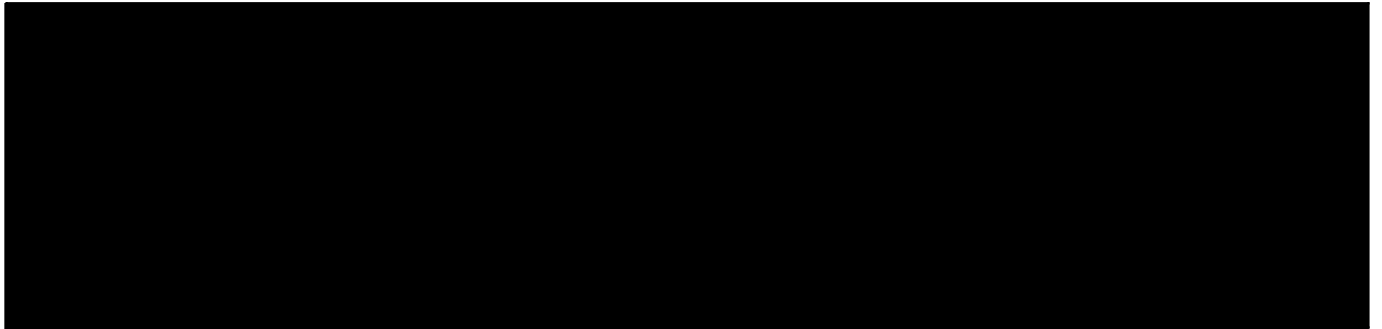
関西で初めてラグビーボールが蹴られたことを記念して、1969年に「第一蹴の地」の記念碑が糺の森に建立されました。この地は関西におけるラグビー発祥の地として広く知られています。

祝う会には、京大ラグビー部OBで三高蹴球部OBでもある清水祥一様、高野瀬宏様、真継隆男様をはじめ、三高蹴球部OBの方々約20名が全国から記念碑前に集いました。三高蹴球部歌など、ゆかりの歌の数々を斉唱したあと記念撮影。場所を清滝の老舗旅館「ますや」に移し、懇親会が開かれました。

参加者一同すき焼き鍋を囲み、夜の更けるのも忘れ談論風発して賑やかに交歓が続きました。終戦直後のすき焼きは、肉が少なく松茸が山盛りだったとか。皆様とても瑞々しい感性をお持ちで、三高時代のエピソードの数々など気さくに話してくださり、楽

しく拝聴しました。旅館のご主人には、「ますや」と三高蹴球部や多くの文人に関わる逸話など披露していただきました。

当初は、この日を最後にOB会の活動を終える予定だったそうですが、祝宴が盛り上がり過ぎて継続を望む声が高く、今後も活動を継続される運びとなったようです。なお、祝う会の模様は翌9月24日付の京都新聞に掲載されました。





クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 22 年度 第 1 号 3 月 23 日発行

「2010 年度シーズンの抱負」

主将・井口達也

「平成で最強・最高のチームになる」が今年度の目標です。リーグ戦の成績はもちろん、日々の練習の内容、部員のモチベーションにも重きを置き、部員全員が最高だと言えるチームを作っていきたい。1 年間宜しくお願いします。

主務・酒井俊太郎

主務としての抱負は「部員がよりラグビーしやすい環境を整える」です。春シーズンに関東遠征があったり、創部 100 周年の同志社大学と春に定期戦があったりとイレギュラーなことがあります。適切な時期に適切な相手と試合を組み、最も効率良く強化できるようにスケジュールを管理していきたいです。

OB の方々とも密に連絡を取り合い、クラブをより強固な組織にしたいと思います。

4 回生 MG・岡市由衣・加藤朋・中原みなみ

3 人で、力を合わせて日々頑張っています。今年は MG を 2 人以上入れたいので、新歓に力を入れていきたいと思っています。また、今年度より練習時のタイムキーパーという大きな役割を担うことになり、以前に増して、やり甲斐とともに責任を感じています。MG もチームの一員として、リーグ戦 6 勝超えという目標に向かって、全力でサポートしていきます。応援よろしくお願いします。

「新人勧誘の進展具合と意気込み」

新歓リーダー・風岡諒哉

新人勧誘の現状について報告します。

高校でラグビーを経験し、大学では何かやろうと考えている新入生は毎年 30 人ほどいます。この経験者 30 人をいかに早く見つけ、早くアプローチをかけ、囲い込むかが重要です。今年はラグビー経験者の事前情報が多く、現在はその情報をもとに合格者にアプローチをかけたり、これとは別に事前情報のない有望新人の発掘を行ったりしています。

コルツリーグへの参加を視野に、16 人の入部が目標です。近年、B リーグでは関大や帝塚山大、甲南大が急激に力をつけていますが、部員増が原動力の一つになっています。

今後とも OB の皆さんには新勧活動への一

層のご支援・ご協力をお願いします。

春シーズン試合予定

4/11	帝塚山大学戦（練習試合）	宇治 G
4/29	花園大学戦（練習試合）	宇治 G
5/5	同志社大学戦（定期戦）	宝ヶ池
5/16	立命館大学戦（定期戦）	草津 G
5/23	慶應大学戦（定期戦）	日吉 G
6/6	防衛大学校戦（定期戦）	宇治 G
6/13	成城大学戦（定期戦）	成城 G

「2010 年度シーズンに向けて」

監督・湯谷博

これまでの反省を踏まえ、B リーグ優勝を目指して以下の事項について重点的に強化していきたいと考えています。

(1) 基本スキルの向上

昨シーズンは、スクラム・ラインアウトでは健闘したものの、確保したボールの継続支配に多くの反省点があった。セットプレーを引き続き強化するとともに、強いプレッシャーの下でも正確にプレーできるよう、基本スキル全般の精度向上が最重点課題。

(2) ディフェンス

失点の増加が昨シーズンの成績不振の大きな原因。ラック・モールのサイドやラインから連携して強く圧力をかけること、各個人の強く正確なタックルが課題。春シーズンの早い段階で改善のめどを付けたい。

(3) 攻撃・地域支配

これまでと同様、ブレイクダウンからテンポの速い連続攻撃を仕掛けて突破することが基本戦略。ブレイクダウンで正確にボールを保持できるよう、強く精度の高いコンタクトスキルの養成に取り組む。昨シーズンは、キック攻撃による地域確保やキック処理に難点があった。キックとキャッチのスキル、キッカーとチェイサーの連携を改善して、地域とボールを継続支配できるようにする。

また、有効な攻撃オプションが不足して攻撃が単調にならないよう、シンプルな戦術を洗練させ、表裏のオプションを使い分けることにより攻撃力を向上させる。適切な攻撃を選択できる判断力の養成も重点事項。

(4) フィットネストレーニング

練習全体の中にバランス良く配置し、昨シーズン不足した持久走、短距離走、敏捷性の能力についても重点的に取り組む。

(5) Bチームの強化

昨シーズンは2年前より秋の試合が増加し、1回生の志気も高かったが、Bチームの戦力はまだCリーグ下位相当。多くの新入部員を確保し、コルツリーグへ参加できる体制を作りたい。

【中長期強化プラン】

一方、中長期にわたる実現可能な強化プランとしては、以下の対策を考えており、強化委員会とも連携して実現を図っていきます。

(1) ジュニアチームの強化

ジュニアチームがBリーグレベルの実力を持つ様になれば、代表チームに相応の実力を持った選手が安定して供給される。その結果、B上位の戦力を継続して維持でき、Aリーグへの筋道が見えて来る。

(2) 部員数の増加

上記とも連動するが、2スコッドあるいは3チームの編成ができる部員数が確保できれば、新入生ではなく、中堅部員が中心のジュニアチームが構成できる。AリーグやB上位校ではそういった体制が整備されている。

(3) 海外遠征・研修

海外遠征を機に、海外の有益な情報にアクセスし、情報の導入ルートを確認して強くなった例は多く見られる。チーム遠征が無理なら、代表選手あるいはコーチを派遣することも有効。（選手派遣は近大で既に実施）

(4) AV機器の活用

パソコンやAV機器を活用すれば、日本協会やIRBから通知される技術やルールの情報を利用できるほか、試合の分析や練習でのスキル改善が図れる。準備が進んでいるクラブハウスのスペースと機器が有効な資源となる。

(5) 女子チームの創設

2016年オリンピックから男子とともに7人制女子ラグビーが正式種目に採用された。いま活動を始めると五輪出場の大きなチャンス。女子学生が比較的多くて芝生グラウンドのある京大は、条件が揃っている。男子部員獲得にも良い影響を与えるだろう。問題はいかに最初のメンバーを獲得するかだ。

(6) その他

大学院生・留学生を選手やコーチとして登用。有力進学校との連携・支援。若手OBからコーチやレフリー希望者を募り支援。

ヘッドコーチ・竹森弘泰

今年の春シーズンは、3～4月はじっくりと練習に取り組み、5月から始まる定期戦で勝ちに拘るゲームをしながらチーム作りを進める計画です。

いくつかの新しい試みを取り入れています。まず、練習の質を高めるため、ミーティングを増やしてチーム強化の考え方や練習への取り組み方などをしっかりと理解した上で練習を行っています。

次に、ウェイトトレーニング日を昨年の週2日から1日に減らし、代わりに日々の練習に体作りのメニューを組み入れています。筋肉をバランス良く鍛えることで怪我をしない強い体作りを目指します。

また、春の早い段階からミニゲームなどの量を増やし、状況判断力とプレーヤー間の連携能力を高めたいと思っています。

強化委員長・三浦広道（昭和49年卒）

強化委員会は、現役・監督コーチ団を、少し長いレンジや広い視野で支援・アドバイスしたり、手のつけにくい課題に取り組んだりする役目と考えています。

できるだけ現役・監督コーチ団との接点を増やし、現場の要望に耳を傾けながら、リクルートをはじめ山積する課題に取り組みたいです。人手不足で取り組めないことがたくさんあります。多くのOBに、参加をお願いしたいと思っています。

組織委員長・谷利亮（昭和59年卒）

活動の柱は3つ。「OBが現役のゲームを見る機会を増やす」「年代を超えたクラブメンバーがラグビーを介して懇親を深める」「物心両面で現役をサポートする」です。

組織委員会そのものの若返りを図り、現役に関わる機会を増やして行きたいと思っています。平成年代の精鋭が多数加わり、委員会を活性化してくれると大いに期待しています。



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 22 年度 第 2 号 9 月 1 5 日発行

「春シーズン試合結果およびコメント」

■4/11 (日) 京都大 26-40 帝塚山大学 (宇治 G)

・湯谷 博 監督

前半は攻撃のテンポが良く、バックスによる突破もある程度成功していた。タックルやキック処理など、3月から重点的に強化したところでも成果が見られた。次第にハンドリングミスが増え、接点での倒れ過ぎが目立ち、ディフェンスの出足が悪くなった。今後、体力面も含めてレベルアップを望みたい。

・安田 達也 (2 回生 大手前) CTB

ノミネート、タックル、ハンドリングでミスを連発したが、センターとして必要なスキルも見えてきたし、試合も楽しんで挑めた。これから体作りに励んでいきたい。

■4/29 (祝) 京都大学 7-60 花園大学 (宇治 G)

・下平 憲義 コーチ

秋のシーズンで対戦するので、接点の厳しさを印象付けておきたかったが、残念ながら自由に前でプレーさせてしまった。個人のタックル力は、今日の試合結果のレベルであることを各自が自覚して、日々の練習で厳しさを持って取り組んで行こう。

・加藤 佑介 (2 回生 六甲) PR

一本目に出してもらったが、あまりついて行けず、経験不足を感じた。スクラムは組み合った後の強さが大事だと思った。

・並川 卓矢 (3 回生 茨木) CTB

去年の反省から、キックを蹴らずにマイボールの継続を徹底するというゲームプランだった。チーム全体の意識は今までより統一できていたが、テンポが出てきた時や、ゲインした所での安易なミスが多く、全員がチャンスを見極めることが出来ていなかった。ディフェンスでは予想していた通り外国人選手に再三ゲインを許してしまい、それを起点に何度もトライされてしまった。秋にはリベンジしたい。

■5/5 (祝) 京都大学 5-69 同志社大学 (定期戦) (宝ヶ池球技場)

・湯谷 博 監督

タックルでは踏み込みとバインドが弱いため外される場面が多かった。攻撃ラインからの突破は何回か成功しているので、サポートに正確につないでトライに至るフィニッシュの部分ができるになれば得点は取れるはず。同志社大ラグビー部 100 周年の記念試合とあって、様々な年代の懐かしい OB の方々が顔を揃え、同志社、慶応両チームのかつての対戦仲間とも旧交を温めることができた。

・中越 邁 (4 回生 湘南) HO

今季最初の公式戦ということで気合を入れて試合に臨んだが、暑さから徐々に走れなくなり、DF が崩れてしまった。ラインアウトからのモールでトライを取れたのは練習の成果。スクラムが後半に押し込

まれたのが反省点。

・日原 由博 (4 回生 甲陵) WTB

キックオフのチェイスは初めてで不安だったが、2 本いい感じで入れたのでよかった。更に入る精度と強さを上げていきたい。

■5/16 (日) 京都大学 20-77 立命館大学 (定期戦) (BKC クインススタジアム)

・湯谷 博 監督

前半はディフェンスラインが揃って良く前に出ていたが、次第に出足が止まりタックルも甘くなった。単独の突破から得点は取れたものの、全般にミスが多くてマイボールを有効に支配できなかった。キックやハンドリングの精度を上げたい。けが人が多くて 1、2 回生も出場したが、ほぼ違和感なく活躍していたので今後が楽しみ。

・下平 憲義 コーチ

スクラム、ラインアウトのセットプレーが安定せず、DF 中心のしんどい展開になった。前半は内側からの組織的な DF ができ、FW が良く帰り、評価できる点があったが、後半は運動量が減り、相手に自由にさせる結果になった。FW を出来るだけ前に出し、あまり負担を掛け過ぎないゲームマネジメントと根本的なフィットネスのアップが必要。新入生の 4 名を含め新しいメンバーにとって、A リーグのレベルのプレーを体感できたと思う。

・森 春樹 (4 回生 長崎東) FL FW リーダー

FW はセットプレーの安定と接点でボールを奪われないことを目標としていた。しかし、達成できなかった。この 2 点をしっかりやることは FW の義務なので、立て直していきたい。個人的にはモール DF とスクラムからの球出しでチームに迷惑をかけたので、しっかり練習していきたい。

・小堀 充雄 (4 回生 膳所) FB BK リーダー

もっと練習しないと、定期戦の相手に申し訳ない。でも強いチームとの試合はすごい楽しい。

■5/23 (日) 京都大学 22 - 52 慶應義塾大学 (定期戦) (日吉グラウンド)

・湯谷 博 監督

1911 年に三高・慶応の定期戦が始まって今年で 100 年目。記念の年に、後半途中まで「あわや勝つのでは」と思わせる展開を見せ、良く健闘した。スクラムやブレイクダウンで負けて、圧倒的にボールを支配されたが、いつになくラインディフェンスが崩れず、粘り強く圧力をかけ続けて敵のミスを誘った。スクラム、キックチェイスや後半に弱点の出たキック処理、持久力といったところを改善したい。

・下平 憲義 コーチ

前半は、気持ちが入り、内側から前に出る DF が機能して、相手のミス誘った。キックを効果的に使い、エリア・マネジメントが上手いきき、リード

して終えた。今シーズンで一番の出来だった。ただその展開の中でも、完全にペースに乗り切れなかったのは、スクラム、ラインアウトのセットプレーの不安定さにあったことは、大いに反省すべき。このままでは、善戦は出来ても、勝ち切るのは難しい。上を目指すためには、個人のフィットネスの強化・基本プレーのスキルアップを各自が地道に、日々精進していくしかない。

・井口 達也 (4 回生 六甲) LO 主将

結果的に負けたものの、自分たちの目指しているラグビーが体現されたゲームだった。早くセットして、前に出るタックルを 15 人全員が実践していた。ただ、不安定なセットプレー、後半の後半まで持たないフィットネスは大きな課題として残った。

・但馬 晋二 (3 回生 膳所) HO

全然思ったプレーができず、メンタル的に苦しい試合だった。反則も増えてしまったので、次回からは気を付けたい。

・天井 洋平 (3 回生 新潟) SO

先制し、前半をリードして終わり、後半に自分達が点を先取したところまで 理想のゲーム展開で、試合中でもワクワクした。あとは「勝ち」に貪欲になりたい。定期戦で初めてトライを取れてうれしかった。

■5/30 (日) 京都大学 B 41 - 26 大阪国際大学、追手門大学 (大阪国際 G)

・湯谷 博 監督

久し振りの B チームの試合とあって良く健闘した。倒れずにもっと立ってドライブしていけば、効果的にスペースを作り出せるはず。キックスキルやキック処理については一層の上達を望みたい。

・岡本 大和 (4 回生 岡山城東) SO ゲームキャプテン

みんながのびのびプレーできるよう気を配った。DF はコミュニケーション不足が目立ち、ターンオーバー後などにガタガタになり一気に崩されたのが課題。

・真嶋 雄二郎 (1 回生 仙台一高) PR

セットプレーはだいたい安定していたが、個人的にはスクラムで割れてしまったのが残念。集中が切れてしまっていた場面があったので改善したい。

・藤田 朗人 (1 回生 日比谷) LO

初めてフル出場してとても疲れた。モールやタックルで課題が残ったので、春シーズンのうちに修正したい。

・永田 良輔 (1 回生 茨木) FL

今日は勝ったけれど、個人的には満足いかないプレーがチームでも個人でも沢山あった。でもトライ獲れたのでまあ良かった。

・杉本 康平 (2 回生 金沢泉丘) FB

何回か抜けたのが良かった。取りきれなかったのが残念。あとキック頑張ります。

■6/6 (日) 京都大学 15 - 41 防衛大学 (定期戦) (宇治 G)

・湯谷 博 監督

スクラムが劣勢となりブレイクダウンも支配された。キック攻撃や反則の繰り返しから地域を奪われ

て、自陣ゴール前の接点で負けて押し込まれる展開。スクラムと接点の強化、反則をしないこと、キック処理、持久力アップなどが課題となる。

・下平 憲義 コーチ

ラグビーの原点に帰り、セットプレー、フィットネス、接点の強さの上に色々なプレー、戦術が成り立っている事を再認識すべき。

・風岡 諒哉 (4 回生 明和) PR

スクラムが全く安定せず、ラインアウトのスローミスでアタックに流れをつくれなかった。改善して次につながるようにしたい。

・稲垣 貴彦 (2 回生 東海) FL

ロックとしてスクラムを安定させられず残念だった。

・中桐 洸太 (2 回生 県立千葉) CTB

自分のところで抜かれることはあまりなかったが、自分のミスからトライにつながってしまった。一つ一つのプレーを正確に行えるよう、スキルアップに努めたい。

■京都大学 B 17 - 29 防衛大学 B

・下平 憲義 コーチ

試合に対する闘争心が防大より劣っていた。ラグビーは格闘スポーツ。闘争心の集中力を磨く事も大事だ。

・安井 裕紀 (4 回生 明和) SH ゲームキャプテン

接点の激しさに負けた。もう少し試合中に修正できれば良かった。

・石井 大 (1 回生 仙台第一) CTB

アタックでは相手のディフェンスミスをつくことができたが、ディフェンスでは抜かれることもあり、まだまだ課題が山積していると実感した。

・鏝塚 翔太 (1 回生 桐蔭) WTB

僅差で負けてとても悔しい。トライをとれそうな場面でとりきれなかったことを改善できれば次は勝てる気がする。

■6/13 (日) 京都大学 25 - 48 成城大学 (定期戦) (伊勢原 G)

・湯谷 博 監督

攻撃のテンポアップを目指し、クイックスローインや PK の速攻などで一定の効果を上げた。前半はキックでかなり地域を支配でき、ブレイクダウンでも倒れずにドライブする意欲があった。ただ、長い連続攻撃を受けると防御ラインが次第に崩れ、先行を許す展開となった。ミスで攻撃のリズムを崩したことも響いた。スクラムが次第に安定してきたこと、時々見られた攻撃的なタックル、ドライビングモールからの得点などが収穫。終盤に逆転を焦って無理な攻撃を仕掛けたため点差が付いたが、後半の中盤までは良く追い上げて健闘したといえる。

・中村 亮太 (2 回生 洛星) HO

セットプレーは最低限の働きが出来、素直に嬉しい。ただ、スクラムは全てを安定させられたわけではないので、まだまだ修正しなければいけない。フィールドプレーでもタックルなどでもっと存在感を出していきたい。

・北村 祐太 (3 回生 熊谷) WTB

春シーズン最後の定期戦で、絶対に勝ちたかった。

これから夏合宿、そして秋シーズンとなるが、よりプレーに自信が持てるように頑張りたい。

・市橋 溪 (1 回生 北野) SH

DFで粘れず簡単に点を取られる場面が多すぎて、負けた。エリア・マネジメントがうまくできていただけに残念。プレッシャーのかかる場面でパスミス連発するなどまだまだ練習が必要だと感じた。

■6/27 (日) 京都大学 A 19 — 61 Imperial College London A (JR 西日本神戸総合 G)

・湯谷 博 監督

スクラムとモールがひどく押され、接点でもマイボールをたびたび敵に拾われた結果、圧倒的にボールを支配された。地面のボールへの反応の速さ、正確なハンドリング、長旅の疲れを見せない走力、的確にスペースを捜してユニットで攻撃を仕掛ける能力など、いずれも京大や B リーグのチームにはないので、今後のチーム作りにぜひ生かしてほしい。試合後の懇親会では、MVP へのプレゼントなどもあり、両チームの和やかな交歓が遅くまで続き、部員一同ラグビー本来の醍醐味を満喫してくれたと思う。お世話になった OB には厚くお礼申し上げます。

・下平 憲義 コーチ

春シーズンの締めくくりとして、自分達の力がどれくらいかが、はっきりと見えた。大きくて懐の深い外国人に対し、よくタックルには行くが倒しきれず、余裕を持ってボールをキープされ、連続攻撃されて耐え切れなくなって突破された。接点での突き抜ける激しさがさらに必要だ。また、ポイントが出来た時の内からの DF セットが遅く、後手後手の展開になった。早いアライブを意識して、大きな相手には、運動量で上回り人数で勝たないと話にならない。AT では、マイボールをキープしての連続攻撃が全く出来なかった。接点でのボディコントロール、ダウンボールのまずさ、2、3 人目の寄りの遅さが露呈した。この貴重な経験を生かして、秋に向けてさらに精進しよう。

・井口 達也 (4 回生 六甲) LO 主将

このような国際交流試合ができ、OB の皆様の尽力に感謝します。ラグビーの素晴らしさを強く感じることができた。春シーズンは一勝もすることなく終わった。これから 1 ヶ月間のオフで、4 回生はスイッチを切ることなく、勝つために何が必要か、考え続けなければならない。あとわずか半年だが、突っ走りたい。

・酒井 俊太郎 (4 回生 長崎東) FL

タックルやスweep等FWのすべき仕事がありできていなかった。持ち込んだボールをBKに供給できず申し訳なかった。練習してきたつもりだったが、成果が出ず残念。



■京都大学 B 34 — 19 Imperial College London B

・下平 憲義 コーチ

外国人相手に勝ち切ることは簡単ではない。全員の気持ちが一つになった結果だ。B のレベルがどんどんアップして、A との差がなくなってきている。下からの押し上げがチーム全体のレベルアップに繋がる。

・山本 洋祐 (4 回生 明和) No.8

体は大きい足は以外に細く、タックルで倒す事ができたし、ポイントでのプレッシャーもそれほどかけてこず、エディンバラに比べてそれほど強くない印象を受けた。しかし自分の軽率なプレーで相手にチャンスを与えてトライを取られてしまった事もあり、反省しなければならない点がいくつもあった。オフ中にできる事をしっかりやり、いい状態でシーズンインを迎えるように頑張りたい。

・渡邊 優介 (3 回生 安積) PR

海外のラグビーに触れる貴重な経験ができた。これを今後に生かしていきたい。

・森 淳希 (2 回生 長田) LO

フィットネスに課題を感じた。相手のボール際の激しさは見習っていきたい。



今春卒業生の就職先

◎平成 19 年卒

新林祐介 住友商事 (高槻)
船瀬悠太 マッキンゼー (四條畷)
志野敬久 野村総合研究所 (西大和)

◎平成 20 年卒

松江大吾 電通 (茨木)
山田真也 伊藤忠商事 (六甲)
足立圭祐 三井不動産 (六甲)

◎平成 22 年卒

宮田朋弥 アサヒビール (麻布)
長谷川弘樹 伊藤忠商事 (灘)
橋本八洋 サントリー (洛南)
高橋一誠 三井住友銀行 (北野)

試合結果

夏合宿@菅平

8/17	A	10-21	北海道大学 A
8/17	B	41-0	北海道大学 B
8/18	A	47-42	一橋大
8/19	A	17-92	早稲田大
8/20	B	19-35	仙台大
8/21	A	5-43	東京都市大 A
8/21	B	12-15	東京都市大 B
8/22	B	0-63	京大 O B
8/22	A	35-64	成城大

秋シーズン

9/4 関西学院大学 定期戦 12-48

今後の予定

■リーグ戦

9/19	14 時	vs	関西大学	(関大 G)
9/26	14 時	vs	大阪産業大学	(甲南大 G)
10/ 3	12 時	vs	帝塚山大学	(関大 G)
10/17	12 時	vs	大阪教育大学	(鶴見緑地)
10/24	14 時	vs	神戸大学	(京大 G)
10/31	14 時	vs	龍谷大学	(龍大 G)
11/13	14 時	vs	大阪市立大学	(京大 G)
11/21	14 時	vs	花園大学	(京大 G)
11/28	12 時	vs	甲南大学	(甲南大 G)

「春、夏の総括と秋にかける決意」

井口 達也 主将

京都大学ラグビー部主将の井口達也です。ご存じの通り、春シーズンは全く結果を出すことができませんでした。ですが、今年最初に掲げた【リーグ戦 7 勝】という目標を下げるつもりは全くありません。この目標の達成は容易でないことを自覚し、今部員一同危機感を持って追いこんでいます。これから長いリーグ戦を戦っていくにあたって、OBの皆様の応援は欠かせません。是非試合会場まで足を運んでいただき、応援していただきたいと思います。



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 22 年度 第 3 号 12 月 10 日発行

「試合結果およびコメント」

【定期戦】

■ 9/4 (土) 京都大学 12 - 48 関西学院大学 (関学 G)

・湯谷博 監督

前半はセットが安定してブレイクダウンも互角。BK が何とか突破できた時には FW が前に出て攻撃がうまく機能していた。前半は反則が多くて自陣から脱出できず、後半は次第にタックルが甘くなった。

・下平憲義 コーチ

猛暑の中で、点差は最終的に開いたが、目指す方向性が明確になった。夏の走り込みの成果も出た。反則が多過ぎる。BK はタックルミスが肝心なところで出る。敵陣でゲームをして FW に楽しませるべき。

・井口達也 (4 回生 六甲) Lo ゲームキャプテン

DF セット、ラインアウトモールとやりたい事が少しずつ体现できてきた。ペナルティの多さ、後半の入り、残り 15 分での粘りが今後の課題。

・森春樹 (4 回生 長崎東) No.8 フォワードリーダー

前半は接点でもセットプレーでも戦えていた。後半途中から運動量が落ちたのが課題。モールで 1 本トライをとれたが、2 本トライをとられたので修正したい。

【リーグ戦】(2 勝 7 敗 0 分 8 位)

■ 9/19 (日) 京都大学 29 - 60 関西大学 (関大 G)

・湯谷博 監督

開幕戦の緊張か相手もミスが多く、前半の終盤までは均衡した試合展開になった。キック攻撃後のカウンターや連続攻撃を受けた時に、防御の連携とタックルが甘くなった。数少ないマイボールを確実に生かせないと、上位に勝つのは難しい。2 本目のトライのように FW、BK が連携し、連続攻撃から得点できたことは、今後の可能性を感じさせた。

・下平憲義 コーチ

昨年のリーグ戦 2 位との初戦。集中できている時間帯は対等の戦いが出来た。関大は接点での圧力があり、勝負どころでのノックオンで流れを引き寄せられなかった。攻撃については、BK での接点ポイントがゲインラインを超えず、連続攻撃に繋がらないケースが多かった。

・井口達也 (4 回生 六甲) Lo ゲームキャプテン

勝てると信じて 3 月からやってきたが、結果はついてこなかった。本気で一緒に戦ってくれる部員には本当に感謝している。7 勝という目標を達成し、皆と勝利を喜び合いたい。

・小堀充雄 (4 回生 膳所) FB バックスリーダー

久しぶりに強いタックルを受けてノックオンを量産してしまった。ノックオンがゼロだったら勝つチャンスもあったので悔やまれる。修正力で他大学との違いをみせたい。

■ 9/26 (日) 京都大学 8 - 136 大阪産業大学 (甲南大 G)

・湯谷博 監督

相手は昨シーズン A リーグを経験しているチームだけに、個々の選手の接点での強さと寄りの速さ、その裏付けとなる筋力と走力に圧倒的な差があった。接点での倒れ過ぎや押し込み不足のためしばしばターンオーバーされ、ほぼ完全にボールを支配された。

・下平憲義 コーチ

相手がタッチキックを使わず、フィットネス勝負になった。防御で人数をかけざるを得ないため、体力を消耗して全く走れなくなった。体感した違いを真摯に受け止め、個人のレベルアップに取り組もう。

・井口達也 (4 回生 六甲) Lo ゲームキャプテン

大産大のコンタクト、広いラインに翻弄された。次は絶対に落とせない。気持ちを切り替えて臨む。

・森春樹 (4 回生 長崎東) No.8 フォワードリーダー

防御では相手に少ない人数で簡単にボールを出され、攻撃では簡単にマイボールをターンオーバーされた。FW の寄りの速さ、オーバーの強さが相手に負けていた。防御ばかりで苦しい試合になった。

■ 10/3 (日) 京都大学 5 - 12 帝塚山大学 (関大 G)

・湯谷博 監督

防御は良くなったが、BK 攻撃にミスが多く、攻撃が FW 周辺に偏重して単調になり、相手に容易に防御されて点を取れなかった。BK がケガなどで戦力を欠き、変則的な戦術になった事情もあった。次のリーグ戦まであと 2 週間あるので、攻撃の弱点を補強し、バランスの取れたゲーム運びをしてほしい。

・下平憲義 コーチ

気持ちが入った締まった内容の試合だった。前半 FW のサイドにこだわり過ぎた。BK の縦攻撃、ハイパント、ロングキックを交え、うまくゲームマネジメントすれば勝てた。タックルのスキルアップを心がけて欲しい。大事な場面でのノックオンが多過ぎてリズムに乗りきれない。低い姿勢とボールを大切に扱う執着心を練習中から全員が持ち、ミスを許さない雰囲気作りをしてほしい。

・井口達也 (4 回生 六甲) Lo ゲームキャプテン

防御の厚みは出てきた。課題は攻撃。モール以外にトライをとる方法をあと 2 週間で作る。

・森春樹 (4 回生 長崎東) No.8 フォワードリーダー

もっと FW で圧倒したかった。FW サイドアタックで敵を崩さなければならない。ただつつこむだけではなく、変化をつけられるように考えたい。

■ 10/17 (日) 京都大学 36 - 43 大阪教育大学 (鶴見緑地 G)

・湯谷博 監督

キックで地域を確保し、ドライビングモールを中心に得点できたが、失点が多すぎた。終盤の勝負どころ、相手ゴール前の攻撃で単調になり得点できず、勝敗に響いた。チーム力は向上している。来週こそ必勝を期してほしい。

・下平憲義 コーチ

残り 10 分まで常にリードしながら、2 本続けて取って突き放せなかったことが悔やまれる。1 本取った

後、更に集中してほしかった。ゴール前で FW 戦に固執し過ぎず、ボールを動かしながら崩すべきだった。常に前にプレッシャーをかけ続け、球出しのタイミングを遅らせたり、ターンオーバーにつなげようとするファイトが必要だ。

・井口達也 (4 回生 六甲) Lo ゲームキャプテン

僕の甘さが、チーム全体に出てしまった。ゲームマネジメントも来週までに改善する必要がある。完全に後が無くなった。なにがなんでも次、勝つ。

・森春樹 (4 回生 長崎東) No.8 フォワードリーダー

スクラム、ラインアウト、モールと安定したプレーはできた。今後も続けていきたい。個人的にはミスが多かった。もっと周りを見れるようになりたい。

■ 10/24 (日) 京都大学 39 - 12 神戸大学 (宇治 G)

・湯谷博 監督

勝たなければいけない重圧からか前半はミスが頻発した。後半になるとボックスキックからの攻撃が成功し始め、ブレイクダウンから前に出てスペースが生まれ、想定した攻撃ができた。防御で前に出る圧力と、ライン全体としての攻撃力を高めてほしい。

・下平憲義 コーチ

エリアマネジメントがうまく行き、敵陣での時間帯が長く、接点、運動量でも勝っていた。同等以上の相手に対しても、今日のようにチーム全体として意思統一できた戦いをしてほしい。前半に苦戦したのは、敵にサインを研究されてラインアウトが取れず、リズムに乗れなかったから。課題の防御はまだまだ。「早く、前に、内から、常に、全員が」という意識を高めてほしい。

・井口達也 (4 回生 六甲) Lo ゲームキャプテン

やっと勝てた。勝てなくて苦しい中、部員全員が腐ることなく練習に尽力してきた成果がようやく実った。試合内容もチームとして機能し出した。

・小堀充雄 (4 回生 膳所) FB

前半は堅くてミスばかりだった。後半、岡市さんにアドバイスをもらい、思い切りよくプレーできた。

■ 10/31 (日) 京都大学 12 - 66 龍谷大学 (龍谷 G)

・湯谷博 監督

80 分間守り続けるスタミナをつけることが肝要。攻撃では、ラックで押し込みが弱くて相手に絡まれ、ボールを生かせなかった。攻め込んだ好機で、反則やミスからボールを失ったことも響いた。

・下平憲義 コーチ

前半はタックルミス以外は、チームとして防御も機能し、チーム力アップを感じた。後半はスクラムが安定しなくなるとともに、足が動かなくなった。次戦まで走り込み、心肺機能をもう一度上げてほしい。フィットネスの上にスキルは成り立っている。セットプレーの安定性の見直しも徹底してほしい。

・天井 洋平 (3 回生 新潟) SO バックスリーダー

後半に相手の主力選手が入ってからセットプレーが崩れた。80 分やり切る集中力が必要だ。

・岡本大和 (4 回生 岡山城東) WTB

後半、防御で出遅れた内の選手を無視して外の僕が前に出過ぎるシーンが数回あり、試合の流れを決めた龍谷のトライはそこをやられた。攻撃にバリエ

ーションを持たせるために、1 度くらいはブラインドを仕掛ければ良かった。

■ 11/13 (土) 京都大学 77 - 7 大阪市立大学 (宇治 G)

・湯谷博 監督

セットが安定し、FW、BK ともによく走ってブレイクダウンも支配し、チームとしての機動力で圧倒できた。今日はモールによるトライが多かったが、残り 2 試合は厳しいプレッシャーを受けるので、接点での精度を高めてよりテンポを上げ、BK の活躍を期待したい。

・下平憲義 コーチ

前に出る力、接点でのパワーで格の違いを見せつけての快勝。ただ、個々の単発の攻撃になるケースが多く、FW、BK が一体となってボールを速く動かし続けて取るパターンが少なかったのは課題だ。まだまだこのチームは伸びしろがある。

・森春樹 (4 回生 長崎東) No.8 フォワードリーダー

先週走り込んだからか、テンポのいい攻撃が継続できた。最近トライがとれていなかったモールで何本もトライをとれた。

■ 11/22 (月) 京都大学 7 - 24 花園大学 (宇治 G)

・湯谷博 監督

終盤までは互角の展開。好機にミスで得点できなかったことが勝敗に響いた。来週は、チャンスを確実に生かして最終戦を飾って欲しい。

・下平憲義 コーチ

トンガ人を止めなければ勝機がないことを全員が理解して、指示通りに 1 人目が勇気を持ってタックルに入り、2 人目、3 人目でよく止めた。ただ、同格の相手になぜ勝ちきれないか、気づいた点は次の通り。▽良い形でゴール前までは迫るが、フォローが足りない。焦ってミス、反則をするなど、トライを取らないといけな場面、個人プレーになりがち。▽後半、接戦なのに自陣から仕掛けたが上手く行かず、FW が体力を消耗した上に、反則を犯し何度もトライを取られた。接戦の時は堅実にキックを使い、敵陣で試合するべき。▽徐々にブレイクダウンへの集散が遅くなってオーバーが出来なくなり、反則を繰り返すのはフィットネス不足のため。

・飯島佳英 (平成 20 年卒)

結果は残念だったが、日原君をはじめとする 4 回生の体を張ったプレーや、高橋君、天井君、稲垣君、市橋君をはじめとする 3 回生以下の後輩たちの頑張り、心のこもったプレーに、観戦した OB は感動した。「負けたけど良い試合だったね」では、現役のみんなは全然うれしくないと思うが、観客を感動させるアツい試合ができたことに誇りをもって、残り少ない京大ラグビー井口組をエンジョイしてほしい。

・井口達也 (4 回生 六甲) Lo ゲームキャプテン

たくさんの OB に応援してもらったのに勝てなくて申し訳なかった。チームとしてかなり出来てきた、との感想を多くもらったが、結果が伴わなければ意味がない。迷惑をかけた監督・コーチ陣、一緒に頑張ってきた仲間のために最後、勝って恩返ししたい。

・岡本大和 (4 回生 岡山城東) WTB

留学生選手を自由に走らせないという目標は達成できた。チームで防御できた。終盤、縦への連続攻撃からオーバーラップを作られ攻め込まれたのが敗

因。個人的には、留学生に 1 対 1 で 2 度も抜かれたことと、ブラインド攻撃でイージーミスをし、流れを引き寄せられなかったのが悔しい。

■ 11/28 (日) 京都大学 10 — 46 甲南大学 (甲南 G)

・湯谷博 監督

前半からモールを押され、強風下でキックなどのミスも多くて、自陣ゴール前に押し込まれる苦しい試合展開が続いた。BK がゲインラインを突破できず、攻撃の起点が前進せずボールを生かし続けられなかった。現役、スタッフ共にこれまでの強化プロセスを洗い直し、来季はぜひ雪辱を期したい。

・下平憲義 コーチ

最終戦で 6~8 位を決める試合だったが、接点の強さ、ブレイクダウンへの集散とオーバー、立ってプレーする意識、プレーの選択と正確性が足りなかった。個人のパワー、フィットネス、スキル不足が、リーグ戦の戦績になった。日頃の練習で激しさ、厳しさ、緻密さを持って全員がレベルアップに取り組んでいくしかない。

・井口達也 (4 回生 六甲) Lo ゲームキャプテン

リーグ戦が終わった。目標には遠く及ばなかったが、なにが駄目だったのかをしっかりと見直して、後輩たちに伝えていかなければならない。

	大阪産業大学	関西大学	龍谷大学	花園大学	帝塚山大学	甲南大学	京都大学	大阪教育大学	神戸大学	大阪市立大学	勝	負	分	順位
大阪産業大学		○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	0	0	1
関西大学	●		○	○	○	○	○	○	○	○	8	1	0	2
龍谷大学	●	●		○	○	○	○	○	○	○	7	2	0	3
花園大学	●	●	●		○	○	○	○	○	○	6	3	0	4
帝塚山大学	●	●	●	●		○	○	○	○	○	3	6	0	7
甲南大学	●	●	●	●	○		○	○	○	○	4	5	0	6
京都大学	●	●	●	●	●	●		○	○	○	2	7	0	8
大阪教育大学	●	●	●	●	○	○	○		○	○	5	4	0	5
神戸大学	●	●	●	●	●	●	●	○		○	1	8	0	9
大阪市立大学	●	●	●	●	●	●	●	●	○		0	9	0	10

【B チーム練習試合】

■ 11/7 (日) 京都大学 46 — 15 大阪大学医学部 (宇治 G)

・湯谷博 監督

前半は防御の出足が悪かったが、後半になると良く前に出るようになった。接点でのボールコントロールやラックの押し込みが強くなれば、テンポの速い連続攻撃ができる。

・石田徳治 副会長 (昭和 48 年卒)

久しぶりに B チームの試合を見たが、なかなかの好ゲーム。後半は BK もよく前に出ていたし、FW がつないで抜けるプレーもいくつかあった。気になったのは次の 3 点。①走り込んでボールをもらう時に失速している。トップスピードでもらうこと。②タックルで相手にあたって後の腕のバックが弱い。もっと腕で相手を締め付けて倒す意識が必要。そうすればタックルゾーンがもっと広がる。③立ってプレーする意識が足りない。タックルされるとすぐ倒れてしまい、倒れこみを取られても仕方ないラックへの突っ込みも多い。これらの 3 つは意識の問題が

大きい。練習からもっと心がけてほしい。

・岡本大和 (4 回生 岡山城東) WTB ゲームキャプテン

FW はスクラム、ラインアウト、モールとも良かった。BK は前半、人数が余っているのにラインが浅くて外を突破できないシーンが多かった。縦に仕掛けるプレーは両 CTB とともにいい。

■ 11/23 (火) 京都大学 89 — 0 京都芸術大学 (宇治 G)

・湯谷博 監督

ボールはいつも両手でしっかり持つこと。ペネトレイターへの速く忠実なサポート、攻撃ラインのスピードアップ、モールを低く組むこと、なども改善してほしい。

・安井裕紀 (4 回生 明和) SH ゲームキャプテン

もっとテンポを早くしたかった。ボールの置き方やオーバーで相手を掃き切ることを改善したい。個人的にはもう少し周りを見なければならぬ。

■ 12/4 (土) 京都大学 7 — 67 甲南大学 (甲南 G)

・湯谷博 監督

甲南大は 4 回生を除いた来季のメンバー、京大は 2 回生主体。防御がほとんど前に出ないため、甲南 BK に絶えず攻め込まれる。キックの精度、距離がともに不足。スクラムは互角だがモールが劣勢なため、相手ゴール前の好機も得点に至らなかった。後半は改善されたが、精度が悪くて攻撃が継続せず。次第に防御に穴が増え、失点が相次いだ。

・安井裕紀 (4 回生 明和) SH ゲームキャプテン

タックルが全て。いつも言われているが、前に出てプレッシャーをかけることができなかった。

・藤田朗人 (1 回生 日比谷) LO

課題がたくさんみえた。九大、東大戦までに直したい。

・森野寛文 (2 回生 東大寺) FL

思い切りいくタックル、確実性を重視するタックルの使い分けの必要性を実感した。

・中桐洸太 (2 回生 県立千葉) CTB

試合を通して相手に主導権を握られ、堪えきれなかった。

・鍛塚翔太 (1 回生 桐蔭中等) SH

相手は来年の仮想甲南 A。色々と足りない部分があった。相手の速いテンポに後手に回ったことが最大の反省。リズムのいい攻めができた時間帯もあった

訃報

1970 年から 85 年までラグビー部長を務められた西島安則・元京大総長が 9 月 3 日、虚血性心疾患のため亡くなりました。83 歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

京大工学部卒。69 年に京大工学部教授となり、蛍光法による高分子の分子運動研究に取り組まれました。85 年から 6 年間、総長を務められました。

11 月 28 日 (日) に開かれたお別れの会には石田徳治副会長 (昭和 48 年卒) が出席し、以下の文を寄せていただきました。

西島先生は我々のころの部長でした。私の現役時代は教授になられたばかりで、40歳そこそこだったということになります。夏合宿にはスイカを持って来ていただき、決まって「青年とは熱であり意気であり、振り返る時の微笑みである」と話され、我々を激励して帰られたものでした。晩夏の空に赤とんぼが飛び交うのを見ながら、インパクトを受けて聞いたことを今でも鮮明に記憶しています。

お別れの会では、京都市長や京大総長の追悼の辞でも先生の業績や人柄をしのぶことができました。晩年は奥様に先立たれ、お子様もおられなかったこともあり、社会貢献に努めておられたようです。お別れの会に列席して、心洗われるような時間を持つことができました。心からご冥福をお祈りいたします。 合掌

定期戦

■ 対 九州大学定期戦

日時 : 12/19 (日) 場所 : さわやかスポーツ広場
(福岡市東区香椎浜 3-21 香椎パークポート緑地内)

A チーム 13:00 キックオフ

B チーム A の試合終了次第

交通アクセス : 博多駅交通センター1 階から西鉄バス 29 系統で香椎浜営業所行き香椎浜 3 丁目下車、徒歩 10 分

■ 対 東京大学定期戦

日時 : 12/23 (木) 場所 : 黄檗グラウンド

OB 戦 11:00 キックオフ

A チーム 12:30 キックオフ

B チーム A の試合終了次第

新年会のお知らせ

今年も各地区で新年会を開催します。現役を含め、OB 各位の出席をお待ちしています。

▽ 関東地区

- ・日時 : 1 月 7 日 (金) 18:30~20:30
- ・場所 : NEWS キャフェテリア (昨年と同じ)
千代田区内幸町 1-1-7 NBF 日比谷ビル
- ・電話 : 03-5251-5432 ・会費 : 5000 円
- ・連絡 : 池城俊郎 (S58) のアドレス
(ikeshiro-t@itcchem.co.jp) 迄

▽ 中部地区

- ・日時 : 1 月 8 日 (土) 18:00~
- ・場所 : Nagoya Dining SAYURI
<http://r.gnavi.co.jp/n178403/>
名駅店名鉄名古屋本線名鉄名古屋駅 徒歩 5 分
- ・電話 : 052-563-0040 ・会費 : 5000 + α円
- ・連絡 : 梶田徹 (S61) のアドレス
(tokajita@aol.com) 迄

▽ 関西地区

- ・日時 : 1 月 28 日 (金) 19:00 (受付 18:30~)
- ・場所 : Bier Bitte ! (ビア ビッテ!) (例年と同じ)
大阪市北区 2-4-53 大阪弥生会館 1F
- ・電話 : 06-6373-1841 ・会費 : 5000 円
- ・連絡 : 奥村健一 (H2) のアドレス
(okum8046@yomiuri.com) 迄



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 22 年度 第 4 号 2 月 4 日発行

「試合結果およびコメント」

【定期戦】

■ 12/19 (日) 九州大学戦 (コカコーラさわやか G)

京大 A 20 — 5 九大 A

京大 B 12 — 8 九大 B

・湯谷博監督

(A 戦) 前半は苦しい場面が続いたが、集中力を切らさず、粘り強くディフェンスできたことが勝因。攻撃では、FW が接点で前に出て圧力をかけ、BK も簡単に倒れず、ゲインラインを越えて FW につないだ。後半は風上を生かして地域を獲得、敵陣ゴール前の展開から BK がトライして勝利を決定づけた。

(B 戦) 前回の甲南大 B 戦の反省から、防御では厳しく前に出て圧力をかけるよう促したが良くできていた。タックルミスもあったが全員で良くカバーできた。接点で劣勢なためボールを支配できなかった。

・下平憲義コーチ

(A 戦) キックを織り交ぜてうまく地域を取り、試合を運べた。欲を言うと▽ラインアウトが大事なところで不安定▽接点からの前への食い込みが少なく生きた球が出ない▽2 人目の寄りの早さ、強さが足りない▽ゴール前の勝負どころで焦ってミス——などが改善できれば、もっと楽に勝てた。

■ 12/23 (木) 東京大学戦 (宇治 G)

京大 A 36 — 5 東大 A

京大 B 27 — 5 東大 B

・湯谷博監督

(A 戦) 前半は接点で東大の圧力が強く攻撃のテンポを上げられなかったが、スクラムやラック・モールを押し込んでいたのでゲームをおおむね支配できた。最後は今年出場機会に恵まれなかった 4 回生の安井君の独走トライでノーサイド。理想的な形で最終戦を飾ることができた。

(B 戦) ラック・モールでは強く押し込めなかったものの、概ねボールを支配できていた。キックの精度が良くなれば、地域も効果的に獲得できる。4 回生山本君の 2 トライもあって快勝できた。

・下平憲義コーチ

(A 戦) 昨年ミスが多くて敗因であったキック処理も良かった。ミスを少なくすることが勝利につながる。日頃の練習で、基本プレーを確実にこなす意識を全員が持ち、ミスを許さない雰囲気作りが重要だ。来季以降のために、特に練習で気になるところは下記の通り。▽ボール際、接点の姿勢が高い▽接点でボールを片手で持つ▽愛情のあるパスをキャッチャーの前に放れない▽簡単にノックンする (ボールへの執着心が足りない) ▽タックルで背中が丸くなり高い▽接点の先を意識した押し込みが足りない▽ボールをもらう時のスピードとその変化が足りない▽一つのプレーから次への動き出しが遅い。

・代表幹事 田代芳孝 (S48 卒)

A 戦の「谷村楯」、B 軍「高島杯」の両方とも京都

に残すことができた。A 戦は、ゴール前 22 メートル付近の京大ボールのスクラムから、京大が一気に押し込み、No.8 が右サイドを突いて大きくゲイン。ラックからの早い球出しで左オープンに展開、左ウイングの独走トライになった。イメージどおりのトライがようやく出来た。チームの成長を物語り、来年につながる。OB 戦はシニアと若手の 2 試合生まれ、懇親会も開かれるなど、伝統の一戦にふさわしい交流の場を持つことができた。宇治の芝生は、この時期としては上々のコンディション。ミーティングやビデオによる分析、ケータリングや食事の場など、積極的な強化策を講じるには、クラブハウスは不可欠だと改めて感じた。

・岡市由衣 (4 回生 同志社) MG

部員の泣いて喜ぶ姿に 4 年間マネージャーを続けて良かったと心から思った。

・加藤朋 (4 回生 中津) MG

4 年前はラグビーを全く知らなかった私が、4 年後にラグビーの試合を見て涙を流すとは思わなかった。選手から一番近い所で、苦しいことも嬉しいことも見てきた。最後に勝利で終わられ、本当に嬉しい。

監督団、新旧 4 回生に聞く

- ① 今シーズンを振り返って一番よかった点。
- ② 一番の課題と感じた点。
- ③ 来シーズンの抱負・目標と、その達成のためにすべきこと。

湯谷博監督

- ① 負け試合が続いた中で、全部員が緊張感を切らさずに良く努力した。シーズン後半になると徐々に戦力が整い、最後の定期戦では A、B チームとも快勝。セットスクラムは東大戦でも勝利に貢献した。
- ② 防御では、個々のタックルスキルと、粘り強く圧力をかけ続けられる組織的な防御力が足りなかった。攻撃では、BK の突破力とボール保持力が十分でなかった。スキルを精度よく発揮する裏付けとなる走力も、年間を通した持続的な強化が不十分だった。
- ③ A リーグへの入れ替え戦出場を目指して、個人およびチームの強化に努める。そのためには基本スキルをはじめとする様々なスキルの精度・威力の向上に地道に取り組むとともに、基礎体力を科学的、計画的に強化する。次世代を効果的に育成するため、B チームはコルツ・ジュニアリーグに加盟して B リーグレベルでの試合経験を積ませる。その前提として、多数の部員確保が必要。新入生が入部しやすいように練習の時間・場所を見直すことも考えている。

竹森弘泰コーチ

- ① 九大、東大との定期戦で全勝できた。シーズン中盤からメンバーが安定し、チームとしての戦い方が定着してきたことが実を結んだ。
- ② 最後まで克服できなかったのはスタミナだ。後半に力の差が顕著に現れ、接戦で競り負けるゲームが

多くあった。年間を通してスタミナ作りに取り組まなければならない。

③ 少なくとも B リーグ上位に入るチーム作りを目指す。そうでなければ、優勝や入れ替え戦進出という目標に挑めない。そのために個人の能力を高める。年間の強化計画を基に、3 回生までに私学の選手に負けないフィットネスを作るプランを確立、徹底する。チームの中での個人の役割やプレーに対するコーチングを強化し、選手の責任能力を高める。

下平憲義(コーチ)

① 春からけがが多く、リーグ戦の終盤まではチームのまとまりが見られず結果が出せなかった。しかし、最後まで気持ちを切らさず、チームとして成長を続け、次年度へ立派にバトンを渡してくれた。

② スキル系の取り組みが中心になり過ぎて、フィットネス系の取り組みがおろそかになった。練習中の 1 つ 1 つのプレーに対する正確さと厳しさが足りず、接戦の大事な場面で軽いプレーやミスをした。

③ 入れ替え戦への進出が目標だ。B リーグ上位校に勝つには、個人の能力(フィットネス・スキル)をアップさせ、1 対 1 である程度勝負できる基礎を築き、その上に全メンバーが戦術を十分に理解して、チームが効率的で集中した動きをする必要がある。現役と監督団がコミュニケーションを取りながら、1 日 1 日を大事に考えて練習プランを作り、実践する。

▼4 回生

主将 井口達也(LO)

① ハイパントが有効に使えるようになった。九大戦、東大戦でチームが形になって終わることができた。

② 防御。点を取られだすと止められないメンタルタフネスの欠如、修正力のなさ。それぞれがラグビー部にいる理由が違い、まとまりづらい。

③ 結果の出ないチームが 2 年続いたが、心機一転、もっと上を目指してほしい。目標に対するこだわりをもっとチームで共有する。

副将 小堀充雄(FB)

① トライの取れるモール。4 回生のケガが少ない。

② ケガが多く、個人の練習量が基本的に少ない。

③ 練習や試合でキツくなった時に、頑張れるかどうかは仲間次第だ。自分のために頑張るのは限界がある。でも、チームのためと思える仲間がいれば、その限界を超えていける気がする。お互い信頼し、支え合えるチーム作りを目指してほしい。

主務 酒井俊太郎(FL)

① モール。FB のキックカウンター。SH のタックル

② WTB のキック処理。ライン DF。ラインアウト。敵の変則的な動きに対応が遅い。春シーズン前半にセットプレーを固められなかった。試合前日から試合まで、緊張感がなさすぎる感じがした。それを 4 回生が注意できなかった。話し合いが少なかった。

③ 1 年間にやれる事は少ない。特に秋から新しい事をするのは難しい。春にできるだけチャレンジする。けが人をちゃんと管理し、無理させない。

岡本大和(WTB)

① エリアマネジメントが上手くなった。場面に応じ

て「無理せず陣地をとる」「攻め続ける」と意識を統一できた。練習の意図と目的を理解・共有できた。

② BK の決定力に欠けた。敵陣まで行くものの FW のゴリ押しがメインで、小堀や天井の個人プレーでしか点が取れなかった。天理大学のようにあらゆる場所からトライが狙えないと強いチームにはならない。下級生の意見やチームの課題を、主将や FW リーダー以外の 4 回生は知らないことがよくあった。

③ 練習時間は限られている。毎日の練習で「今日はこんなプレーができるようになった」という結果と目標を積み重ねて、1 回の練習を大切にしてほしい。

風岡諒哉(PR)

① 前年度より接点・地域・ボール支配の意識が向上し、トライを取りにいく意図が明確になった。自分たちが考えたものを中心に練習したので、練習からゲームへのイメージが向上した。

② カウンターアタックが小堀ありき。ある程度の相手には通用したが、強い相手には通用しなかった。3 回生の意見や不満をフィードバックできなかった。

③ 「もっとこうしたいほうがいいのでは」ということを積極的にチームメイトとぶつけ合ってほしい。

中越邁(HO)

① FW のモールが得点源になった。最終的に FW のセットが安定して攻撃の起点となり、BK のスピードを生かすアタックができた。負けが続いても一人一人が明るい雰囲気を作ろうとしていた。

② 強豪校を止められる DF 力をつけられなかった。春のフィットネス軽視が最後まで響いた。フルタイムのコーチ不在で練習中に緩い空気が時々生まれた。

③ 他人の甘さを許すな。そのために、まず自分の甘さを許すな。

森春樹(No.8)

① 1、2 回生が多く試合に出てどんどん成長した。リーグ戦途中で天井(3 回生)が BK リーダーになり、心配もしたがうまくはまってくれた。

② ブレイクダウンでのボールの確保が悪すぎた。全体練習後のアフター練を自分も含めて徹底できなかった。練習中の雰囲気をもっと締まったものにできた。遅刻やジャージ返却忘れなど練習以外の部分が甘かった。

③ どんなに小さいことでも毎日の練習に目標を持つ。絶対に A で出るという気持ちを持ってほしい。

安井裕紀(SH)

① シーズン中盤からハイパントなどのキックを使って幅広い攻撃ができた。BK はフォローの意識が高まり、誰かが突破した後、捕まる前につなぐことができた。1 回生も上のレベルを経験できた。

② FW と BK の連携がうまくいかなかった。防御で FW がラインに入り、ギャップが生じて抜かれることが何度もあった。試合で勝てず、イライラしている者が多かった。怪我ですぐ練習を抜けてしまう。少ない人数でいかに練習するかが課題だ。

③ リーグ戦を意識して春から練習・試合をするべき。このプレーはどのくらいの相手に通用するかなど。あつという間に時間が過ぎてしまうので、毎日その日を振り返る時間を作るのがよい。

山本洋介 (LO)

- ① 同等の相手にプラン通りの手堅いラグビーができた。積極的に部員の意見を取り入れたので、練習への不満がほとんど出なかった。今年の練習は楽しいという意見を聞いた。
- ② けが人が多く、実力のあるメンバーが試合に出られず残念だった。強豪校相手にタックルで止めることができず、DFに課題が残った。
- ③ 反省を活かして今年を上回るチームを作ってほしい。

米今勇輝 (CTB)

- ① ハイパントを積極的に使った。練習時間の管理。
- ② 得点力。
- ③ 頑張ってください。

加藤朋 (MG)

- ① 後輩マネージャーに仕事を覚えてもらえるよう、上回生がついて後輩が動くシステムができた。
- ② 現役マネージャーが1人辞め、かなり危機だった。マネージャーは目に見える成果や評価が少なく、苦しい事やつらい時、うまくいかない時に、目標や成果を自身で見いだす必要がある。授業・実習で練習に参加できないマネージャーもいる。部全体での理解や支えが必要だが、意識が低いと感じる。
- ③ 4回生が抜けた後のマネージャーは3人となり、今までの仕事の維持は大変難しくなる。マネージャーの勧誘をより手厚くするのか、仕事のあり方を変えていくのか、部全体で考えていてもらえたら。

▼新4回生

新主将 並川卓矢 (CTB)

- ① キックで確実に陣地をとる戦略。厳しい上下関係のない和気あいあいとした雰囲気。
- ② FWとBKが別々に動いている。甘い雰囲気で怒る人間がいない。
- ③ FWとBKが一体となった攻撃、防御をするチームを目指す。1人1人が責任を持ち、練習では自分にも周りにも厳しくお互いを高めあう。

新副将 天井洋平 (SO)

- ① シーズン終盤からハイパントの攻撃がはまった。
- ② 戦術が決められておらず、意識の統一がなされなかった。チームの方針をまず固め、全員が意識した状態で試合中も考えながら動く必要がある。セットプレーだけで、フィールドで役に立っていない選手がいたのは変えていくべき。防御では、働いてない人の負担が別の人にかかっていることを考えるべき。
- ③ ランニングラグビーが好きなのでボールを動かしていきたい。最高学年がしっかり引っ張る。下の学年にテーマやゴールを提示し、厳しい練習を妥協せずこなせるよう、厳しい態度を貫く。

新副将 高橋遼平 (PR)

- ① チーム作りに工夫しようと努力していた。
- ② コンタクト、特にタックルを怖がる面がある。普段から、気持ちを鍛え、慣れるためにもフルコンタクト練習が必要。
- ③ 京大ラグビーはかくあるべきといった育成のシステムをスクラムに関しては僕が作り残したい。気持ち

ちと肉体の両面を鍛える。

新主務 北村祐太 (WTB)

- ① モールでのトライやシーズン終盤のハイパントの攻めがよかった。
- ② コンタクトの弱さ。あまりに走らない選手もいた。ゴールライン前でFWがゴリ押しするも結局取れずじまい。基礎練習を全然していなかった。BKの防御。
- ③ 今年うまくいった戦術は今後もうまく生かしていく。FW一辺倒になるのは、BKの展開力のなさも一因。BKのパス、ランのスキル強化。基本的なコンタクトの強化。4回生が頼れる存在になる。もっとストックな練習環境を4回生が作る。

但馬晋二 (FL)

- ① 後半戦になるにつれハイパントなど有効なキックが多くなった。最後の定期戦などは集中力のある良い雰囲気 で戦えた。
- ② 攻撃が単調。アイデアを持った選手が少ない。練習の雰囲気が甘く、試合でのミスや集中力がとぎれることにつながった。
- ③ ハイパントは継続して使いたい。キープレーヤーが抜け、FW、BKともに攻め手に欠くので、モールやBKにFWを絡めた攻撃パターンなどを強化したい。全員が個人・チームの目標を理解し、それに向かって練習する。

渡邊優介 (PR)

- ① ハイパントでの攻めがある程度できた。チームとしては、後半どうにかまとまっていた。
- ② FWとBKがばらばらで、15人として力が出せていない。上回生のいら立ちがチームに伝播した。学生だけで練習管理などがすべてできると思うのは間違いだとも思った。
- ③ 15人の力をフルに出せるようにする必要がある。チーム全体の雰囲気をつくる上回生が盛り上げる。

大井川英 (MG)

- ① 始まりが良くなかった。
- ② 最高学年が最高学年らしくいること。
- ③ みんなが責任感を持つ。特に4回生は皆がキャプテンのつもりでチームを引っ張っていくべき。練習メニューなどは分からないが、マネージャー一同、できる限り協力したい。

新チームの個人目標

- ① 来シーズンに向けて、個人的な課題は。
- ② 課題克服のために具体的に何に取り組むか。

▼新4回生

並川卓矢 ①下半身強化 ②筋トレ、ランニング

天井洋平 ①キックの精度を上げる。フィットネス、特に筋力を上げる ②筋トレを継続。キックをひたすら蹴る。

高橋遼平 ①ベスト15 ②ポジションがおそらく変わる事から、スタミナの向上と肉体改造

北村祐太 ①Aで出るのが当たり前だと周りからも自分でも思えるような力をつける ②ケガのケア。基本的な技術の練習 (タックル、オーバー、ランパススキル、キック処理)。今までとは違い、かなり強

い責任感を持つ必要がある

但馬晋二 ①肩の手術をするので、新入生や他のFWプレイヤーを指導したい。リハビリ期間中に体を大きくし、復帰時に昨年以上のプレーをできるようにする ②筋トレによる体づくり。ビデオを見てラグビーの理解を深める

渡邊優介 ①セットプレーのほかに自分の弱点をつぶす ②もっと走ってタックルをうまくなる。瞬発力をつけたい

大井川英 ①マネージャーが3人になるので、新人マネージャーを少なくとも3人は入れたい ②他校にビラ配りに行く。後輩と相談して対策を考える

▼新3回生

稲垣貴彦 (LO) ①状況に応じたタックル。ヒットの姿勢。ラグビー理解 (主に攻撃の理解)。体重85キロ ②体重を増やすため朝食をしっかりとりたい。練習後の弁当を続けたい。トライネ이션ズ等のDVDを借りて毎日少しでも繰り返し見ている

加藤佑介 (PR) ①ラグビーの理解を深める。責任を果たす ②試合のビデオでの反省。常にコンディショニングを整える。走る

杉本康平 (WTB) ①防御とキック ②防御は練習の中で、キックは反復

高矢和馬 (FB) ①チームの防御を引っ張れるような存在になる(流れを変えるタックルやターンオーバーをできるようにする) ②自信を持ってコンタクトできる体格と瞬発力と精神力を身につける

寺床俊樹 (PR) ①体力、筋力を取り戻す。もっとラグビーを知る ②オフはランニングと筋トレを定期的に行う。筋トレはシーズンインしても続ける。試合のビデオを見直す。スクラムの技術などを先輩などから聞いて役立てる

中桐洸太 (FL) ①怪我を治し、怪我しにくい体を作る。来シーズンはまたFWとしてプレーしようと考えているが、今年BKとして積んできた経験を生かしたい。攻撃では、立って一歩でも前へ出る。自分の関わった接点では必ずボールを出す。防御では、BKに比べおろそかにされがちな、一人ひとりの責任を強く持ってタックルを重ねたい ②体幹の強さ、上半身の強さ、走力、持久力が必要。自分で状況判断し、周りとのコミュニケーションを取りながらプレーする

中村亮太 (HO) ①Bリーグで通用するスクラムを作るためにフッカーとしてFWをまとめる。フィールドプレーで存在感を出す ②3回生としての自覚をしっかり持つ。筋トレに励み83キロを切らずに走れる体を作る。スローイング、スクラムといった期待されているプレーの質を落とさず、向上し続ける。そのための個人練を怠らない

森淳希 (LO) ①タックル、サイドアタックの向上。大幅な体重アップ ②個人練習を継続し、本などを

参考に内容も改善していく

森野寛史 (FL) ①頭を使ってプレーする。体格の向上 ②ビデオを繰り返し見てイメージを定着させる。練習への集中力を去年より増し、毎回何かを学んで帰る。春にどれだけ成長出来るかが勝負。筋トレをして食事に気を遣う。次期3回生は食への意識が薄いので、学年を巻き込んで食生活の改善に取り組む

安田達也 (SO) ①体幹、足腰の強化。怪我をしない。プレー経験を積む。3回生の並川さんを越える ②地道な練習の継続

守田媛 (MG) ①グラウンド以外での仕事をもっときちんと ②スケジュール管理を徹底する

▼新2回生

鍛塚翔太 (SH) ①コンタクトレベルの向上。球さばきのスピードを上げる ②先日母校の練習に参加して、基本が大事だと実感した。球離れを早くする。誰よりも早くポイントに到着する。オフ期間中にプラス5キロを目指す

石井大 (CTB) ①体を大きくする。ラグビーについて知る ②試合のビデオを見る

市橋溪 (SH) ①どんなポジションでもできるような身体づくりやスキルアップをし、チームの中心プレイヤーに成長する ②トレーニングをしっかりする。食事をしっかりとる。個人練習を大切にする。

永田良輔 (FL) ①Aでの出場。フィットネスを落とさずにパワーアップ ②ウエイトトレーニング

藤田朗人 (LO) ①接点でもっとチームに貢献する。最低限のタックルスキルを身につける ②接点でのフルコンタクト練習を多くこなす。全体練習で足りなかったらフリー練で補う

真嶋雄二郎 (PR) ①攻撃にも積極的に参加。今シーズンはあまり攻撃に参加できなかった ②スクラムはエンゲージの出足とその後の姿勢(膝が伸びて腰が浮く)に注意して改善。コーリングを意識してプレイする。攻撃はハーフからボールをもらうタイミングをつかみたい

安井立 (LO) ①引き続き体作り ②筋トレの回数を増やす。食事の量やメニューを見直す。

鈴木佳穂 (MG) ①マネージャーとしてチームで出来ることを増やす ②テーピング・試合の準備等、先輩から常に学び、身につける姿勢を忘れない

お詫びとお願い

メーリングリストを通じ、会員各位に現役時代を振り返って印象深い「練習」「言葉」「プレー」を寄せていただきましたが、紙面の都合上、次号に回させていただきます。今後、継続的に掲載していきたいと考えていますので、どしどし奥村健一(平成2年卒)のメール(okum8046@yomiuri.com)にお寄せください。



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 23 年度 第 1 号 3 月 29 日発行

「現役へのメッセージ」

サンゴリアス部長 夏山真也

サンゴリアスは 9 年ぶり 4 回目の日本選手権を獲得することができました。シーズン最後のゲームで、最高の結果でシーズンを終えることができました。日本一のお酒はとてもおいしい！部関係者として優勝までの過程で印象に残ったことをいくつか、クラブ便りに報告させていただきます。

年間を通じて取り組んだのはチームスタイル「アグレッシブ・アタッキング・ラグビー」の追求。日本で最も攻撃的なチームになるために実践した大きな柱は次の 5 点です。

- ① 試合中の走行距離を増やす。(分厚いフォローとカバーディフェンス)
- ② 個々のプレー強度を高める。(練習時間を増やすのではなく、練習強度を高める。)
- ③ 相手ディフェンスを崩すまで、攻撃(フェイズ)を繰り返すだけのスタミナづくり。
- ④ チーム規律、ディシプリンの確立。(当たり前のことを自分でする)
- ⑤ コミ・ノミニケーション(チームの一体感とクラブスピリッツを創り上げる)

トップリーグと大学リーグの環境と競合状況の違いはありますが、対戦するチームに対してどんなラグビーで臨み、どの点で相手を凌駕するのか、そのためにどんな練習を積み重ねるのかというチャレンジは、サンゴリアスでも京大でも変わりはありません。原点はシンプルなはず。新しいシーズンは既に始まっています。サンゴリアスも日本選手権の翌日から個人トレーニングを開始しました。昨年平均 10kg 体重を絞ったプロップは、このオフの 2 ヶ月で、絞った体脂肪率はそのまま 2kg の体重増加と筋力基礎強化(Pump Up)を目指して個人練習を行っています。現役の皆さんも目標は高く、厳しいトレーニングに挑んで下さい。

京大ラグビー部の新チームの活躍を心から祈念しています。

S54 卒 夏山真也

「記憶に残る練習、言葉、プレー」

① 現役時代、印象に残っている「練習」

S54 卒 白石良多

「三角ダッシュ」

S52 年シーズン吉田キャプテン、新任の福田ヘッドコーチ(S39)の春、「鍛練期」と称して徹底的にスタミナをつけようという方針の中で採用された練習。当時は「ランパス」をどのチームでもやっていたが、ポジション別などでチームを作ると足の速い人が楽になるという問題があった。また、横に並んでパスを往復させるので、パスを受けてスピードを上げる頻度が多い内側の人が負担が多い。

そこで、タイム順に 3 人ずつチームを作り、パスをしたら必ず外にフォローする形で次のパスを受けるように、ショートパスを繰り返しながらゴールか

らゴールをダッシュする練習があった。

「インターバル走」

S52 年頃、夏合宿を新日鉄釜石で行ったが、釜石のチームが 200m のインターバル走をしていたので、一緒に走った。それを宇治に帰ってからも続けていた。陸上の選手がやっているように、2 名ずつ目標タイムを各自決めて(30~35 秒)、インターバルは一定にして 200m 走を決められた本数繰り返す。これはやってみるとかなりきつく、また根性だけの走るランパスより、各自に合った負荷になり合理的なトレーニングだったと思う。

S54 卒 石井暁

「AB 戦」

毎週木曜日の A、B の試合形式での練習は、真剣勝負だった。B チームにとっては対面をつぶせば自分が試合に出られるということで、鬼気迫るものがあった。今はそんな練習をしているのかどうかかわらないが、A と B が拮抗しているときの方が、チームとしては確実に強かったように思う。それと、三角ダッシュは本当にきつかった。

S55 卒 真継伸男

「がらんこ練習」

2 年、3 年のころは木曜日の AB マッチ以外にも FW は、AB でスクラムからのサイドアタックに対するディフェンスの攻防を、「がらんこ」で繰り返していた。出血もよくあったし、下名も常に膝と肘にはサポーターをして練習に臨んでいた。AB マッチでは、頭蓋骨陥没のような怪我也あった。

がらんこ練習で「技術」が飛躍的に向上することはないと思うが、部内での「ポジション争い」というか、よい意味での競争意識と激しさが熟成されたと思う。

「外の強い相手とスクラム練習」

三菱自工京都、京都市役所、ユニチカ等に行って、社会人にあわせて夜遅くスクラム組むこともしばしばあった。同志社の V3 時代、立命館の B⇒A 昇進した勢いの時期は、三菱自工京都によくスクラム組みに遠征にきた。吉田監督の時は、京大も三菱自工京都にスクラム練習に結構来ていた。今は、京都の社会人は弱体化したし、同志社、立命は遠いし、なかなか「遠征」できないと思うが、B リーグの学生チームでも、練習試合した時に、試合後にスクラム練習するのはどうか。

H2 卒 柴野恭範

「ラインアウトのリフティング」

89 年度春からシーズン終了までの年、三好監督体制になり、フランスのリフティングを取り入れた。当時は国内では反則とされていたので、非常に画期的かつ先見の明のある試みだった。練習の成果で、ラインアウトの確保率が格段に上がった。レフリーに反則を取られたことはほとんどない。

H15 卒 横山修一郎

「スクリューパスの練習」

市口さんの当時の考えを一番反映している練習だ

った。大学から始めようとしている素人にいきなりスクリュースパスから教えて、しまいにはグランドの中央からライン際までスクリュースパスで届かせるという練習もやっていた。練習の名前は特になかったかと思う。そのような外に展開という意識が試合でフォワードバックス一体となったワイドラインによる攻撃につながっていったと思う。

② 現役時代、印象に残っている「言葉」

S60 卒 鈴木浩之

「ラグビー10則」

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| 1. Rugger Man is a Gentleman | (心 構) |
| 2. Always on Move | (グランド) |
| 3. Always on the Ball | (試 合) |
| 4. With Anticipation | (プレイ) |
| 5. Without Hesitation | (プレイ) |
| 6. 極 意 〈無〉 | (プレイ) |
| 7. 要点への戦力集中 | (戦 術) |
| 8. Attack is the Best Form of Defense | (戦 術) |
| 9. Tackle is the Best Form of Attack | (戦 術) |
| 10. Better Side Won | (反 省) |

“球心身の一致”

1973-6 岩前 博

戦前にジャパンのハーフとして活躍され、戦後、KIU の監督もされた岩前さんの言葉。名刺大のカードになっていて、4 回生の合宿の時にある OB の方からいただいた。

昭和 59 年のシーズンは、前年に A から B に落ちて初めて B リーグで戦うことになり、A リーグ復帰をめざして、OB のみなさんも沢山グランドに来られて力が入っていた。

S56 卒 願野行弘

「吉田を潰したら 1 軍や」

大学 1 年の釜石での合宿で 4 年生の森岡さんに言われた。当時、私は 1.5 軍で楽勝な「成城」「防衛」「立命」との定期戦には 1 軍で出ている。合宿で捻挫し、午後の練習を休んだら森岡さんから「お前は吉田を潰したら 1 軍や」と言われた。当時は秋シーズンに入ると木曜日に 1 軍対 2 軍の練習試合をして、その週のリーグ戦に出るメンバーを決めていた。練習試合では吉田さん（キャプテン）をいつも潰してやろうと思っていたが、リーグ戦には出れなかった。当時の 1 軍のメンバーからは「リーグ戦より木曜の練習試合の方が恐ろしい」と言われていた。

H1 卒 山形幸嗣

「頑張ってもしゃあないねん。上手くならんと意味ないねん。」

某 OB 氏が発せられた呟き。言葉の主は記憶不確かだが、S62 の大藤氏であったかと思う。宇治 G での試合の際、OB として観戦に来られていたときに発せられた言葉であったと思う。

「頑張れ」というのは非常に便利な言葉。私もこれまで、下級生や仲間を叱咤激励する際は、事ある毎に「頑張れ！」と叫んでいた。でも、OB 氏の仰有るとおりで、意味もなく「頑張る」というのは根性論中心かつ自己満足以外の何ものでもなく、目的意識をはっきり持って練習に取り組む、あるいは取り組ませることが重要なんだと、当時の私の脳裏に深く刻

み込まれた。以降、私は「頑張れ！」という言葉で封印した。「頑張れ」の代わりに、「元気出して行こう！」や「気合い入れて行こう！」を多用した記憶がある。

「頑張れ」を封印してから、それまで持久力最低クラスだった私自身のスタミナが飛躍的に向上した。「自覚」の面で効果大だった。例えば、夏合宿練習 G までのランニング、3 年生まではビリ 3 ぐらいだったのが、4 年生のときは必ずベスト 5 前後だった。

H2 卒 柴野恭範

「練習は悲観的 (stoic) に、試合は楽観的 (optimistic) に」

89 年度溝口主将の言葉。当時は C リーグまで落ちたこともあって、試合中に流れが悪くなると、弱気というか悪いイメージが選手の間に蔓延するようなムードがあった。春に彼が主将になってから、彼は楽観的な性格もあって、この言葉を口走るようになる。すると、練習で精神的にも戦術の追求においてもストイックになることはもちろんのことだが、試合中に「まあ、なんとかなるやろ」と吹っ切って考えることが出来るようになった。

成果は入れ替え戦での大産大戦。戦況が膠着し、しかも反則が多くて乗り切れない中、ラインアウトで 1 番に並んでいた私がナット 5 メーターをとられまくった。「いつかは逆転できる」と思いながら黙々と走り続け、最後に逆転トライを取り（麻植君だったように記憶するが）、B に上がることが出来た。練習でイメージトレーニングと言うほどのことをしていたわけではないが、溝口主将はじめ、三好監督、夏山コーチ、小田コーチなど optimist が多かったおかげで、部員みんなが常に前向きな雰囲気になれたことで、うまくセルフコントロールにつながったのだと思う。

③ 現役時代、印象に残っている「プレー」

S52 卒 林伸治

1975 年（昭和 50 年）11 月 16 日、花園ラグビー場で行われた天理大学とのリーグ戦でのタックルは、私にとって、生涯、忘れることができないプレーになった。

3 回生の私は、フランカー（6 番）で出場した。当時の京大は、2 年連続全国大会に出場した主力メンバーが卒業したために、リーグ戦では苦戦を強いられていた。対する天理大学は、天理高校で全国大会優勝を経験した主力メンバーが 4 回生になり、関西 A リーグでの優勝を目指していた。試合では、実力差はいかんともし難く、天理大学が、着実に得点を重ねる状況になっていた。このような状況で、天理大学ボールのラインアウトになった。この試合で、私は、ラインアウトでバックスラインに加わってディフェンスすることになっていた。ラインアウトのボールを確保した天理大学は、バックに展開し、ライン参加したフルバックにボールを回した。フルバックをマークしていた私は、パスを受けたフルバックに対して、躊躇することなく飛び込んだ。その瞬間、相手選手は、パスすることもできずに倒れた。試合は天理大学の圧勝に終わったが、なぜか、そのタックルは、強く印象に残った。週明けの火曜日に宇治のグランドに練習に行くと、先輩から、私がタックルしている写真が毎日新聞に掲載されていること

を教えてもらった。まさか、大敗した試合に自分のプレーしている写真が掲載されているとは思ってもよらず、おそらくは、相手チームの選手がトライする瞬間の片隅に自分が映っている程度の写真と思っていた。次の日、京大ラグビー部に関する記事のスクラップブックを作成してくれていた大学近くの喫茶店で、その写真を確認した。写真の説明では、タックルをしている選手名は間違っていたが、まさしく、私が相手選手にタックルしている瞬間の写真だった。私は、自分のプレーしている写真が新聞に掲載されたこと、しかも、その写真が、自分としても印象に残った会心のタックルであることに感激し、密かに喜んだ次第。週末に、当時ヘッドコーチをしておられた岩前さんに、「あの写真のタックルしているのは君かね」と尋ねられ、「せっかくなのでいいタックルをしたのに、試合に負けて残念だったね」と、一言声をかけていただいた。そのときは、少しは褒められたのかなと思った程度だった。

このようなことがあって、そのタックルは自分自身にとって忘れることができない思い出のプレーとなった。しかし、そのタックルは、それだけではなかった。歳月は流れ、岩前さんが亡くなられて数年が経過した頃に、4年後輩の清野君から、思いがけないことを教えてもらった。それは、監督をしておられた岩前さんが、私のタックルの写真を見せて現役を指導しておられたということ。自分がタックルしている写真と聞いて、新聞に掲載されたあの写真を思い出した。しかし、岩前さんからは、写真のタックルに関して一言だけ声を掛けられただけだったので、まさかその写真が後輩たちの手本になっていたとは夢にも思わなかった。現役のころ、岩前さんがボールをキャッチするために横っ飛びにダイビングした野球選手の写真を見せられて「これがタックルの極意である」と指導されていたことを思い出した。私のタックルの写真では、相手選手のほぼ正面から撮影されていたが、確か両手が相手選手の腰のあたりをバックしており、両足も地面から離れた状態になっていたと記憶している。おそらくは、相手の選手に対して躊躇することなく飛び込むことにより、手の先から爪先までが伸びた状態になっていたと思われ、そのような体勢になっていることを、岩前さんは「いいタックル」と言われたのだと思う。

この話を聞いて、自分自身の思い出の一つにすぎなかったあのタックルは、ラグビー選手としての「誇り」となり、まさしく生涯忘れることができないプレーになった。しかしながら、嘆かわしいことに、そのタックルの写真は自分の手元にはない。まことに残念。

S56 卒 願野行弘

大学2年の同志社戦で林敏之に1発のタックルで倒された。私は足腰が強く、タックルを受けても中々倒れなかった。ラインアウトからのピールオフで「抜けた！スタンドオフに当たってやろう」と思った瞬間、

林のタックルを受け、3m ほどぶっ飛ばされた。私の長いラグビー人生の中で1発のタックルで後ろに倒されたのは、これだけ。

H2 卒 柴野恭範

89年度 同志社大学定期戦 最後のスクラム。この年度は、小田コーチの方針で、フッカーが左右の肩をオーバーで組むことになった。1番も3番もアンダーで肩を入れるわけだが、これも5カ国対抗の研究によると記憶している。これによってバインドが格段に強くなり、プッシュした時にくさび形になって相手に突き刺さり、うまくいくと相手スクラムを割ることができた。

同志社戦では、序盤でスクラムトライをとることができ、かなり優位に試合を進めることが出来た。しかし、ここから同志社が怒った。すべてのスクラムをがむしゃらに押し、揺さぶり、回してくる。疲弊が大きなものになっていった。そして、あとワントライで逆転できるところまでできたロスタイム。相手22mの少し手前でスクラム。同志社戦の金星目前、大チャンスだったが…。結局、スクラムが潰れ、そのままノーサイドの笛。相手のコラプシングかこちらの力不足か、やはり結果から見れば後者であろう。以後数年、自分が情けないやら、みんなに申し訳ないやら。痛恨の一事である。

今回、メッセージを下さった皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。これからも随時、掲載しますので、奥村健一（H2 卒）のメール（okum8046@yomiuri.com）まで、どしどし投稿ください。

春シーズン試合予定

4/3	大阪府立大学（練習試合）	宇治 G
4/9	新歓イベント	
4/10	神戸大学医学部（練習試合）	宇治 G
4/16	関西学院大学（定期戦）	宇治 G
4/29	新歓合宿	
4/30	京都工繊大（新歓試合）	宇治 G
5/4	大阪工業大学（練習試合）	宇治 G
5/8	帝塚山大学（練習試合）	宇治 G
5/28	立命館大学（定期戦）	宇治 G
6/4	慶應大学（定期戦）	日吉 G
6/5	防衛大学（定期戦）	横須賀 G



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成 23 年度 第 2 号 8 月 17 日発行

春シーズンの総括と合宿での重点課題

主将 並川 卓矢

春シーズンは開始から走力アップに取り組み、まずスタミナで優位に立とうという方針だったが、なかなか直接結果に結びつかず、途中から疑心暗鬼になってしまっていたと思う。また、怪我人も多く、試合をするのがやっとという状態が続いたことも苦しかった。そんな中ではあるが、今年は新歓リーダーを中心としてメンバー集めに力を入れ、たくさんの有望新人を獲得できたことは本当に良かった。

苦しかった春シーズンを終え、8月からまた新たな気持ちで合宿の予備練習に取り組んできた。春動けなかったメンバーも戻ってきて、ようやくチームとして形になりつつあると思う。ただ、実践経験が足りていないので、合宿ではチームとしての試合勘を取り戻し、勝ち癖をつけたい。リーグ戦までもう一カ月ほどしか残されていないので、春の遅れを取り戻すべく、実りある合宿にしたいと思う。

平成 23 年度新入生一覧

本年度は選手 13 名、MG 2 名の新人が入部いたしました。

① 氏名／② 出身校／③ ポジション／④ 学部／⑤ 身長／⑥ 体重／⑦ 経験スポーツ

① 赤塚 駿一（あかつか しゅんいち）／② 北野高校／③ WTB／④ 理学部／⑤ 167 cm／⑥ 63 kg／⑦ ラグビー、陸上

① 井上悠太（いのうえ ゆうた）／② 埼玉県立浦和高校／③ CTB、WTB／④ 工学部物理工学科／⑤ 170 cm／⑥ 65 kg／⑦ 水泳、陸上

① 飼沼 徹（かいぬま とおる）／② 一宮高校／③ SH／④ 工学部電気電子工学科／⑤ 162 cm／⑥ 55 kg／⑦ テニス、ラグビー

① 片山 裕太（かたやま ゆうた）／② 洛南高校／③ PR／④ 理学部／⑤ 170 cm／⑥ 90 kg／⑦ 柔道

① 木村 博紀（きむら ひろき）／② 開明高校／③ SO、WTB／④ 文学部／⑤ 176 cm／⑥ 67 kg／⑦ ラグビー

① 田中 岳（たなか がつ）／② 茨木高校／③ FB／④ 文学部／⑤ 177 cm／⑥ 74 kg／⑦ ラグビー

① 中島 徹哉（なかじま てつや）／② 前橋高校／③ CTB／④ 総合人間学部／⑤ 170 cm／⑥ 67 kg／⑦ 野球、ラグビー

① 中山 希昂（なかやま きこう）／② 大阪星光学院高校／③ No. 8／④ 工学部物理工学科／⑤ 182 cm／⑥ 78 kg／⑦ 水泳、陸上

① 西澤 亮（にしざわ りょう）／② 生野高校／③ FB、SO、SH／④ 工学部工業化学科／⑤ 172 cm／⑥ 60 kg／⑦ ラグビー、バスケットボール、水泳

① 丹羽 滉生（にわ ひろき）／② 桐蔭学園中等教育学校／③ PR／④ 工学部物理工学科／⑤ 178 cm／⑥ 82 kg／⑦ ラグビー

① 濱岡 弘晃（はまおか ひろあき）／② 茨木高校／③ WTB／④ 総合人間部／⑤ 173 cm／⑥ 60 kg／⑦ ラグビー、陸上

① 三島 康二（みしま こうじ）／② 茨木高校／③ CTB／④ 工学部地球工学科／⑤ 168 cm／⑥ 65 kg／⑦ ラグビー

① 宮内 大輔（みやうち だいすけ）／② 大手前高校／③ WTB／④ 経済学部／⑤ 172 cm／⑥ 66 kg／⑦ ラグビー、サッカー

① 池田 愛（いけだ めぐ）／② 芦屋国際高校／③ MG／④ 同志社女子大学 表象文化学部

① 庄司 佳奈（しょうじ かな）／② プール学院高校／③ MG／④ 京都ノートルダム女子大学 英語英文科学科

夏合宿試合予定

- 16（火）＜14～15 時ころ到着予定＞
（午後）練習
- 17（水）（午前）練習
（午後）16 時 ★成城大戦★
【定期戦@サニアパーク】
- 18（木）（午前）北大戦（AB 2 試合）
（午後）練習
- 19（金）（午前）東北大戦（A）
（午後）東京理科大戦（AB 2 試合）
- 20（土）（午前）練習
（午後）★OB 戦★
- 21（日）（午前）早稲田大戦（A）
（午後）一橋大戦（AB 2 試合）

台湾大学との試合のお知らせ

合宿明けの8/27（土）、「台湾大学」との国際親善試合を宇治Gで行います。先方の日本遠征に際し、オファーがあったものです。秋シーズンに向けて合宿の成果を試す絶好の機会です。在阪OBを中心に多数の応援参加を重ねてお願いします。

8/27（土）台湾大学戦 15:00 K.O. 宇治G

春シーズン試合結果

4/3（日）京都大 24-5 大阪府立大（宇治G）

湯谷 博 監督

3月にしっかり走り込んだ成果で、後半にもスタミナと集中力が切れずに攻撃をよく継続でき、勝つこと

ができた。ラックに入る選手はボールに覆い被さるのではなく、強くドライブしてボールを押し残すよう心がけてほしい。攻撃の起点を前進させることにより、防御の出足を押さえスペースを生み出せる。タックルを受けた時の体とボールのコントロールも、まだまだ改善が必要と思う。防御では、全般にタックルは良かったが防御の圧力が不足していた。密集サイドやラインからもっと鋭く前に出て、ボールを奪いに行っていた。

並川 卓矢（4回生 茨木）CTB ゲームキャプテン

立ち上がりは、相手のフィールドを広く使った攻撃とボールへの絡みに対応しきれず、苦しい展開となったが、徐々に自分たちのペースを取り戻し、後半は3月の走り込みの成果が出て、走り勝つことができた。3月の練習でフィットネスの土台はある程度出来たと思う。ただ、場面場面では課題も多く出たので来週の試合に向けて修正したい。

天井 洋平（4回生 新潟）SO バックスリーダー

戦術やひとつひとつのプレーにはまだ雑な部分もあり課題であるが、3月でポイントとした運動量をこの試合で確かめられたと思う。これから一試合走り続けるスタミナとメンタルを上げていきたいと思う。

市橋 溪（2回生 北野）CTB

今日は今年度初の試合でチームも熱い気持ちで臨めました。内容は初め相手SOのキックからずっと自陣に釘付けで粘り切れずトライを取られたがその後は相手のプレッシャーにも負けず走りつづけることができて前半のうちに追いつき後半は逆転できてよかったです。これまで1ヶ月間練習は走りまくりその成果がきっちり出たかと思います。なによりしんどさに勝つ精神力が身についたかと思います。チームとしては完成度は低くシステムもばらばらにはなっていましたがそれはこれからでも全然できるしそれをするだけの土台はできてきたかと思います。これからしっかりキャプテンを支えて目標に向かっていきたいです。とにかく今日は勝ててよかったです。

加藤 佑介（3回生 六甲）Pro

今シーズン初の実戦ということで、様々な課題が見つかりました。個人的には、ポイントの判断や接点の強さが課題となったので、これからの練習で改善していきたいと思います。

森 淳希（3回生 長田）Lo

各所で練習の成果を感じられる試合でしたが、一方でまだまだ足りない部分が多いと感じました。練習でやっていることを信じ、よりレベルの高い練習ができるように努力したいと思います。

永田 良輔（2回生 茨木）FL

今日の試合は並川組の初陣であり、また3月の練習の成果を試すとても大切な試合だったと思います。「勝利した」そして「ある程度走れた」という点は良かったと感じています。しかし接点での激しさやDFの出足など、課題も多かったように思います。これからの練習で改善していきたいです。

4/10（日）京都大 34 - 7 神戸大医学部（宇治G）

湯谷 博 監督

ディフェンスでは、先週よりも積極的に前に出て圧力をかけていたところが良く、時にはチャンスも生まれていた。ブレイクダウンを支配するには、FWがユニットとしてもっと速く集まり、低い姿勢で激しく押し込む必要がある。ライン攻撃では、長いパスでチャンネル3からの突破が数回成功したものの、他のチャンネルでは縦横の動きのスピード不足。FW、BKともハンドリングミスが多くて攻撃が続かなかったが、一層の精度向上を望みたい。

4/16（土）定期戦 京都大学 0-156 関西学院大（宇治G）

湯谷博監督

接点では常に倒れずドライブ、速くボールを出してミスをしない、といった我々が目指してきた攻撃の基本を、関学はAリーグレベルで披露してくれた。苦い体験の中でも、こうすれば点が取れるという理屈を理解できたのではないかな。

並川卓矢（4回生 茨木）CTB ゲームキャプテン

全てにおいて数段上のレベルの相手に、内容的にも結果的にも大敗してしまった。情けない気持ちでいっぱいだが、今日の試合の経験を糧に1から出直して、個人的にもチームとしても成長しなければならないと思う。この負けをこれからの繋げたい。

永田良輔（2回生 茨木）FL

関西トップクラスのチームとの試合で、結果は厳しいものだが、学べた事も沢山あった。プレー1つ1つの精度や質の差が積み重なり、点差になった。

高矢和馬（2回生 府立桃山）FB

自分なりに強豪選手のコンタクトプレーを肌で感じられた。基本プレーの質を高め、強いチームになりたい。

5/4（水）京都大 29-38 大阪工大（宇治G）

湯谷 博 監督

接点へのサポートの速い寄りとドライブが重点目標だったが、最初は良かったものの次第にFWの運動量が落ちてブレイクダウンへの集まりが遅れ、ボールを生かし続けられなかった。防御では、全般に相手を掴むだけのタックルが多くてボールを奪えず、ますます劣勢になり体力を消耗させる結果となった。個人の走力を生かした得点や優れたタックルも散見されたので、ブレイクダウンへの集まり、セット等からの球出し、タックルスキルが少し良くなれば、ゲームの流れは大きく変わると思われる。

5/8（日）京都大 12-27 帝塚山大（宇治G）

湯谷 博 監督

先週の反省から、ディフェンスで強く圧力をかけること、接点へ速く集まってドライブすることをテーマにしたが、前半はハードタックルからのターンオーバーも見られ、攻撃でもしばしばセットから良い形で攻撃を継続できた。残念ながら後半はディフェンスの圧力が弱くなり、接点で倒れることが多くてボールの確保が難になり、ボールを支配できなかった。これまでに引き続き、走力、タックル、サポートと接点の強化に

努め、速いテンポでゲームができるようになって欲しい。

5/28 (土) 定期戦 京都大 29-84 立命大 (宇治G) 湯谷博 監督

スクラムとモールが押され、ブレイクダウンでボールを競り負け、前半の後半からは一方的な展開になった。接点での基本スキルと強さ、走力が不足していた。数少ないマイボールを生かして得点を取れたところは、進歩が見られた。多くのタックルでは体格の良い相手にバインドが弱くて外されていたが、しっかり当たって腕で強くバインドすることが大切。

並川卓矢 (4 回生 茨木) CTB ゲームキャプテン

ディフェンス主体の試合となったが、やはり一人一人が食い込まれる場面が多く、依然としてタックルに入るタイミング、強さが課題となった。雨の中でお互いミスが多かったが、思い切ったプレーでトライをとれたのは良かった。来週も強い相手だがディフェンスをこの一週間で修正して臨みたい。

杉本康平 (3 回生 金沢泉丘) WTB

今回のチームのテーマはライン DF だったが、今年でいちばんコミュニケーションの取れた試合になったと思う。後半のマイボールが続いた時間にたたみかけることができれば尚更良かった。個人的にはタックルのバインドを外されまくった。

6/4 (土) 定期戦 京都大 14-71 慶應義塾大 (慶應日吉G)

湯谷博監督

前半はディフェンスの圧力が良く効き、相手ミスを誘ってこぼれ球を奪ったトライも生まれた。スクラムがひどく押されて攻撃の機会が少なかったが、これまでより試合運びが速くなり、FB の突破などにより何回かは得点機を作ることができた。後半はポイントへの集散が遅れて防御が乱れ、FB の負傷退場もあって攻撃にも精彩を欠いた。80 分間持続できる走力アップ、防御ラインの内側を先ず固めること、スクラムの強化が当面の課題。

並川卓矢 (4 回生 茨木) CTB ゲームキャプテン

前半はディフェンスで前に出ることができ、相手にペースを掴ませなかったが、後半になって内からの押し上げとコミュニケーションが不足し、点差が開いた。フィットネス不足はもちろんだが、80 分間集中力を切らせずにプレーするという部分も足りていない。練習からテンポを上げて克服したいと思う。

6/5 (日) 定期戦 京都大 0-51 防衛大 (防衛G)

湯谷博監督

慶応戦で少々だったスクラムは改善されたものの、ブレイクダウンで当たり負けて次第に劣勢になった。そのため球出しが乱れたこともあるが、後半の BK 攻撃ではハンドリングミスを繰り返した。失点の多くは防御のミスよりも BK 攻撃のミスから逆襲されたもの。後半風上からのキックも精彩を欠き、攻撃のテンポも上がらなかった。BK 攻撃の練習では、防御の厳しい圧力をイメージながら修正してほしい。

下平憲義コーチ

前日ひどかったスクラムは、かなり改善でき攻撃の機会が増えた。その攻撃で相手の早く前へ出るプレッシャーをまともに受け、前に出られずにミスを多発、ターンオーバーされて失点を繰り返した。早いプレッシャーの DF 下での AT の練習を行い、その中でも精度の高いプレーを継続できるように取り組もう。相手に DF 的を絞らせないように、ゲームメイキングする必要がある。DF では、外への動きについていけないケースがあった。相手の足の速さやラインの動きに対して、臨機応変に BK の最初の DF の立ち位置や出方をゲームの中で修正できるように、日頃の練習から考えて準備しておこう。関東での 2 試合で、多くの OB が応援に駆けつけて下さったのに、不甲斐ない試合内容に終わった責任を痛感している。結果を真摯に受け止め、現役と日々の練習に精進していきたい。

並川卓矢 (4 回生 茨木) CTB ゲームキャプテン

バックスの陣地戦略と攻撃精度の差が大きな敗因だと思う。敵陣になかなか入れず、入っても相手のディフェンスのプレッシャーに押され、ボールを継続できなかった。強いプレッシャー下でも自分達の形を作ること、もっと粘り強いディフェンスをすることを目標に残された春の練習をしていきたい。

森淳希 (3 回生 長田) Lo フォワードリーダー

例年武器にしているモールで取りきれない、ラックから良い形で球が出ない、という点が直接勝敗に繋がった。

渡邊優介 (4 回生 安積) Pro

個人としてチームとして攻撃、防御、セットプレー全ての面で多くの課題が見つかった。特に全体的に相手にじりじりと押され失敗する場面が多かった。少しでも多くの課題を修正できるようにしたい。

稲垣貴彦 (3 回生 東海) No.8

防衛の激しく、ひた向きのプレーに押された。FW として見習わなければならない点が多かった。

天井洋平 (4 回生 新潟) SO バックスリーダー

完全に相手の思う試合展開にさせてしまった。試合の運び方を考えていきたい。

6/18 (土) 京都大 22-52 龍谷大

京都大 B10-50 龍谷大 B (宇治G)

湯谷 博 監督

前半は、強敵を意識したのか魂のこもらない無気力なプレイが多く、攻防ともに精彩を欠いた。後半になると防御で強く圧力をかけてミスを誘い、モールからのトライも成功して均衡した展開になった。敵陣でラックサイドの攻撃に固執してボールを失っていたが、もっと BK を絡めて全員で攻撃を組立てたい。技術云々以前に、相手がどこであれ、代表メンバーとしてのプライドを持って強い気持ちで立ち向かって欲しい。

新歓試合および新人練習試合

4/30 (土) 新歓試合 京都大 14-19 京都工芸繊維大 (宇治G)

S52 卒 南出聡 (リクルート部会長)

試合は青々とした素晴らしい状態のグラウンドで行われました。前日から合宿に参加した新人 (入部宣言あり) が 10 名、当日試合に来て参加した新人が 4 名、

これに2回生1名を加えて試合に臨みました。ラグビー以外のスポーツ経験者3名を交えてのチームで、少し不安を覚えました。試合が始まってすぐにその不安は払拭されました。15分ハーフ、スクラムはノーコンテストで行われました。

試合開始から、暫くは一進一退。即席のチームでもあり、防御にチグハグがあつて相手にトライを奪われましたが、個々には素晴らしいアタックもあり見ごたえのある前半でした。

後半5分過ぎから、まとまりがでてきて、京大ペースになってきました。FWの球出しのテンポもタイミングもよく、BKの裏へのキックや広いオープン攻撃など、新人即席チームとは思えない攻撃になってきました。後半10分過ぎにとった2トライは、BKとFWがうまくかみ合い、観戦したOBを唸らせるものでした。1本目は、FWから出たタイミングのよいボールをBKでオープンに早く展開し、FBがライン参加し、ウイング（濱岡）までまわって理想的なオープン攻撃でした。2本目は、同じくFWから出たタイミングの良いボールをウイングまでまわし、そのさらに外についたFB（西澤）がショートキックを相手ラインの裏のインゴールに転がし、自分でグランディングしました。トライ後のコンバートは、サッカー部出身の宮内君がタッチライン付近の難しいものを決め非凡なものを感じさせました。また、ラグビー未経験者の3名は数日の練習に参加しての初試合ですが、まわりと遜色なくプレーできていました。彼らの運動能力の高さがわかりました。

新人の試合を楽しみに見に来ていただいた、和田会長はじめ、北は北海道（加藤さん）から鹿児島（村上さん）まで、多数のOBにお礼を申し上げます。

最後に、夜には有志が「静」に集まり、新人戦を肴に大いに盛り上がったことを付け加えておきます。

5/15（日）新入生練習試合 京都大 81-0 京都市立芸大（宇治G）

三浦 広道 新人担当コーチ

新歓試合では、惜しくも苦杯を喫したが、2戦目では各メンバーの動きも数段良く、ラック・モールへの集散、バックスのユニットとも、レベルがアップしていた。好タックル・好ランも随所に見られ、各自スキル・センスの良さを感じた。相手レベルが上がっても通用するよう、練習で各自課題を持って、高い目標にチャレンジして欲しい。

三島 康二（1回生 茨木）FB ゲームキャプテン

皆がボールを持って前に出るプレーが出来た。

片山 裕太（1回生 洛南）PRO

試合では当初の目標だったボールを持って走るというのが達成できたので良かったです。次はトライできるまで走りたいです。

井上 悠太（1回生 浦和）FL

チームメイトとコミュニケーションが充分にとれず、ミスを誘発してしまった。敵との間合い、パススキル、ランニングスキル、判断等課題を多く認識できた。

宮内 大輔（1回生 大手前）FL

今日は僕個人は試合の入りからボケてて、あまり走れず悔しい出来になってしまいました。チーム全体としては80点も入ったのだからいい出来だったんだと思います。コンバージョンも今日はたくさん外してしまいました。自分の中でしっかりとしたイメージを持てないからだと思います。一つ良かったと思うのは、タックルを受けた後に立ったまま井上に繋げたことです。初心者の僕ですが、東福岡がそのように繋ぐラグビーをしていて、攻撃にリズムがでていたと思うからです。

飼沼 徹（1回生 一宮）SH

ラックによるのが遅く、はやく出さなければならぬ場面でも球を出すのが遅れてしまった。前半はまわりを見ることができなかったけど、後半はフォワードの声も聞けてまわりを見る余裕もできて、球を捌くのが楽しかった。

西澤 亮（1回生 生野）SO

フォワードが安定した球出しをしてくれたおかげで気持ち良くボール回しができました。30分ハーフでしたが、かなりしんどかったのもこれからは体力をつけていきたいと思います。

赤塚 駿一（1回生 北野）WTB

今日の試合はまず勝てたということがよかったです。まだまだミスも多く、やるべきこともたくさんあるので、しっかり練習を頑張っていきたいと思います。

中島 徹哉（1回生 前橋）CTB

久しぶりにトライをきめて気持ち良かった。

5/22（日）新人練習試合 京都大 52-0 WIND MILL（宇治G）

三浦 広道 新人担当コーチ

先週に続き、失点0の完勝で、この2試合、十分にラグビーを楽しめ、また今後の課題も把握できたのではないかと。後半、テンポアップし崩すには、個々の体の強さが足りず練習で積み上げる必要性を感じた。

西澤 亮（1回生 生野）SO/FB ゲームキャプテン

今日はあまり動けてなかったり、中途半端なプレーがいくつかあったので次に試合に出るときはそこを修正していきたいです。

田中 岳（1回生 茨木）FB/WTB

今日はグラウンドのコンディションが悪かったけど久しぶりの試合で楽しかったです。ただ自分のプレーには納得できていないので、もっと練習で上手になりたいです。



秋シーズンに向けて

監督 湯谷 博

攻撃の戦略としては、セットピースを安定化させ、ラインおよびサイドから精度の高い攻撃を仕掛けてゲインラインを突破。接点ではサポートにボールをつなぐが、それが無理なら倒れずにサポートと共に強く激しくドライブして防御側の人数を集め、外にスペースを作り出す。こういった攻撃を速いテンポで仕掛け続けることにより、防御網を崩してトライを奪うこと。先日のワールドカップ、フランス戦での日本代表チームの攻撃は、単にテンポが速いだけでなく精度が高く、これまでの代表チームとは一味も二味も違う見事なものでした。こういった速くて緻密な攻撃を指向しています。

一方、ディフェンスでは、鋭く前に出て相手の攻撃スペースと時間を奪い強く圧力をかけ続けること。ゲインライン到達前に確実に倒してボールを奪い、素速く逆襲する、といった戦略を徹底していきたいと考えています。

残念ながら春シーズンでは、セットが不安定で接点への集まりが遅く、BK 攻撃では前に出られず、タックルは弱くてディフェンスの連携が悪い、といった数々の弱点が露呈しました。秋にはこの様な課題を克服して理想型に近づけていきます。

チーム戦略の前提となる基礎体力を評価するため、6 月の春シーズン終了時に走力測定を行いました。特に、3000m 走では平均で FW15 分 34 秒、BK は 13 分 42 秒の結果でしたが、これは例年より相当低い値で、チーム全体の持久力不足が懸念されました。有酸素運動能力の低下が春シーズンに見られたブレイクダウンへの集散や、ライン形成の遅れなどの原因にもなっていると思います。

そこで夏季練習では、ポジション毎に目標値を設定し、精力的に走力トレーニングに努めた結果、9 月 8 日の時点で FW、BK とも 6 月より 1 分程度タイムが短縮されました。FW は目標レベルにまだ 1 分ほど遅いものの、BK についてはほぼ目標を達成できたと思います。ちなみに、Complete Conditioning for Rugby (by D. Luger & P. Pook 2004) によると、アマチュアラグビー選手についての 3000m 走の基準 5 段階のうち、チームの平均値は FW で上から 4 段階、BK は 2 段階のレベルとなっています。A チームに限ると、もう少し上のランクになると思います。

夏合宿初戦の成城大との定期戦では、久しぶりに勝つことができましたが、接点への集まりもまらずで倒れるプレーが少なく、うまく攻撃が継続しました。一連の走力強化が一定の効果を上げたものと考えています。

その後の試合では連戦の疲れもあって、スクラムが不安定になり、接点への集散も遅れて、BK が前に出られないなど、春シーズンの悪い側面が出ていますが、引き続き走力強化に努め、弱点の克服とチームスキルの強化に励みリーグ戦に向けて準備を進めています。

なお、チームを継続的に強化するためには、次世代の選手を組織的、系統的に強化していかなければなりません。これまで慢性的な部員不足もあって、次世代の戦略的強化が思うに任せず、このことが B リーグ中位以上の成績を安定して確保できない要因にもなっています。幸い今シーズンは多くの 1 回生が入部し、センス豊かな新人も多いので、強力な B チームを作る格好のチャンスです。

リーグ戦との兼ね合いで、シーズン中は B チームの試合を組むことが難しくなりますが、大学院などに在籍する若手 OB の協力を得て、定期的に練習試合を行い B チームの強化に努めます。新人担当コーチには三浦強化委員長に兼務をお願いし、計画的に強化プランを実行していくことで、創部 90 周年となる来年以降の確実な戦力基盤を構築していきたいと考えています。

OB の皆さまには A、B チームとも、応援をよろしくお願い致します。

主将 並川 卓矢

3 月に新チームの練習がスタートした時は、リーグ戦まではたっぷり時間があると思っていましたが、それから半年、もうリーグ戦開幕かという印象です。先輩方がやってきたように、京大のラグビーの基本は、DF で粘り、テンポとスピードで走り勝つというものだと思います。今年も春から継続して走り込みを行い、フィットネスの向上に努めてきました。残念ながら、まだ試合中にその成果を明確に実感はできていませんが、必ずリーグ戦で生きてくると信じています。DF については、デジタルニュースなどのコメントにも数多くあるように、個々のタックルを始め、組織としての動きにもまだまだ問題があり、現在も修正を急いでいます。今年は去年の上位チームと先に当たるので、前半からなかなか厳しい試合になると思いますが、諦めずになんとか食らいつき、また試合の中で成長していきたいと考えています。今年のスローガンである「ONE」を体現できるように、精一杯頑張りますので、応援して下さい。

国立台湾大学との国際親善試合

監督 湯谷 博

3 年前のエディンバラ大、昨年の ICL に続き、今年は 8 月 27 日に台湾から国立台湾大学を宇治グラウンドに迎え、国際親善試合が行われました。この試合は台湾大学のヘッドコーチ荘氏が、5 月に宇治に来られて提案されたものです。荘氏は三菱自工水島で勤務経験があり、竹森コーチとも懇意の間柄です。

既に田代代表幹事からメーリングリストに報告のあった通り、親善試合後のアフター・マッチ・ファンクションでは、両チームの選手が和やかに交流して友好を深めることができました。両校の OB はその後、場所を「静」に移し、夜更けまで交歓会が続きました。

台湾大学は学術教育面で台湾随一のエリート校です。かねがね台湾の若い人の豊かな国際感覚と優れた実務能力については聞いていましたが、皆さん英語が堪能

で、中には日本語までできる部員もいて、京大の部員も舌を巻くほど。とても良い刺激になったと思います。

今回の遠征は、台湾大学 OB が費用の大部分を負担して実現したそうですが、台湾社会一般には、若い人に国際交流を促して、グローバル社会で活躍できる人材をしっかりと育てようとするコンセンサスがあるように感じました。

リーグ戦はとても重要ですが、こういった親善試合を通じて異文化を理解し友好を深めることもラグビーの大きな目的の一つです。多彩な活動が部員を活性化させ、ひいては多くの新入部員を引きつけることにもなります。台湾大学からは台湾遠征を強く薦められていますが、今後とも海外遠征や国際試合などを積極的に企画して、国際感覚豊かな部員が育っていく環境を作っていくことができれば素晴らしいと思います。

秋シーズン試合予定

9/18 (日) vs 龍谷大学 @龍谷大 G 14:30
9/25 (日) vs 関西大学 @関西大 G 14:00

10/2 (日) vs 大阪産業大学 @甲南大 G 14:00
10/16 (日) vs 帝塚山大学 @大経大 G 12:00
10/23 (日) vs 花園大学 @龍谷大 G 13:30
10/30 (日) vs 大阪経済大学 @龍谷大 G 13:30

11/13 (日) vs 甲南大学 @甲南大 G 14:00
11/20 (日) vs 大阪工業大学 @京大宇治 G 12:00
11/27 (日) vs 大阪教育大学 @大教大 G 14:00

夏季試合結果

8/17 (水) 定期戦 (vs 成城大学@サニアパーク G)
京都大 54-47 成城大
8/18 (木) 練習試合 (vs 北海道大学@佐久山荘 G)
第1試合 京都大 14-14 北海道大
第2試合 京都大 38-12 北海道大
第3試合 京都大 35-7 北海道大
8/19 (金) 練習試合 (vs 東北大学@佐久山荘 G)
京都大 21-10 東北大
8/19 (金) 練習試合 (vs 東京理科大学@佐久山荘 G)
第1試合 京都大 21-57 東京理大
第2試合 京都大 44-0 東京理大
8/20 (土) 練習試合 (vs 京都大 OB@佐久山荘 G)
京都大 B 14-25 京都大 OB
8/21 (日) 練習試合 (vs 早稲田大学@早大菅平 G)
京都大 5-64 早稲田大
8/21 (日) 練習試合 (vs 一橋大学@佐久山荘 G)
京都大 12-26 一橋大
8/27 (土) 国際親善試合 (vs 台湾大学@宇治 G)
京都大 36-0 台湾大
9/4 (日) 定期戦 (vs 同志社大学@同大京田辺 G)
京都大 7-71 同志社大
京都大 B 0-98 同志社大
9/10 (土) 練習試合 (vs 帝塚山大学@宇治 G)
京都大 B 35-25 帝塚山大 B

「記憶に残る練習、言葉、プレー」

現役時代、印象に残っている「練習」

S48 卒 田代芳孝

「馬の姿勢」

高校時代、国会議事堂の近くのビルの谷間の、細長く折れ曲がったグラウンドで練習をしていた。タッチライン沿いには、80センチ位の高さの段差のある土手があった。そして、この土手を縁取る大谷石の土手に両手をつけて、「馬の姿勢」というトレーニングを行うのである。両足は地面につけて、背中を水平にして、両手で壁を押す形をとる。今にして思えば、これを「馬の姿勢」というのも変だが、スクラムはもちろん、タックルにおいても、腰を低く保ち、背筋をしっかり伸ばして、体重が全て水平方向に伸ばした腕のほうに伝わるような姿勢をとる、というのはラグビーの基本中の基本である。

怪我をしないために絶対に頭を下げてはいけない。スクラムで浮き上がらないように足、腰を低く構えなければならぬ、等々、高校時代に教わった。

ところが、京都大学に入り、当時、指導していただいていた星名先生は、スクラムの姿勢について、“Foot Placing” (足の置き方) を強調されるとともに、腰は肩よりもやや高め、ひざは軽く伸ばすように、と指導された。外国の文献にはそう書いてあるというのである。実際にやってみるとわかるが、低い姿勢で背中を水平に保てば、膝に大きな負担がかかる。腰を高め、膝を伸ばすと、膝は楽だが、力を前に伝えるにはあるコツが要る。さあ、ラグビープレーの基礎となる正しい姿勢とは、どういうものか。

その後、様々な経験と理論的考察から、正しい「馬の姿勢」についてはほぼ理解したと思う。このコンセプトを取り入れ、トレーニングを積みめば、スクラムは押されない。

スクラムを支えるための構造理論というのがあるのだろうか？人間は 206 個の骨と 600 余の筋肉からなるという。それを、どのように使えば、もっとも合理的にスクラムが組めるのか。

「人体の動きは、筋肉の収縮力が骨を引っ張って関節まわりに回転させ、その動きが他の関節を通じて次々と他の骨につたわることで生じる」(吉福康郎「武術奥義の科学」) のである。そして、人体の動きによって生じる力は「関節間力」(骨組みを伝える力) と「トルク」(関節角度を変える回転力) で決る、という。

これに従えば、馬の姿勢とは、足首、膝、腰周りの筋力でトルクを発生させ、地面から受ける力を関節と骨で伝達し壁を押すことによって筋力を高める練習法である。まず、足の位置を固める必要がある。その上で関節の角度を適正に保ち、足首、膝、腰周りの 3 箇所最大のトルクを発揮させる。この時、最大トルクを発揮させることができるのは腰周りである、という点が重要である。腰周りに最も太い筋肉があるのでこれを最大限活用するというのが、スクラムの「押し」の理論の最も肝心な部分である。こう考えると、40 年前に教えていただいた「星名理論」の意味が解ってくるのではないだろうか。



クラブ便り

京都大学ラグビーフットボールクラブ

平成23年度 第4号 3月1日発行

平成23年度 Bリーグ得点表

														1試合あたり			順位	入替戦
														得点	失点	得失点差		
	大産大	関大	龍谷大	花園大	大教大	甲南大	帝塚山大	京都大	大経大	大工大	得点	失点	得失点差	勝	敗	分		
1	大産大	21 17	21 24	43 0	44 0	40 24	19 10	102 12	93 0	60 12	49 11	38	8 1	2	大産大	20	21	京産大
2	関大	17 21	19 25	37 14	71 0	80 0	26 7	92 7	81 0	50 0	53 8	44	7 2	3	関大			
3	龍谷大	24 21	25 19	17 12	32 5	49 22	67 0	62 0	88 7	71 12	48 11	37	9 0	1	龍谷大	14	20	摂南大
4	花園大	0 43	14 37	12 17	29 26	38 18	33 7	46 22	46 8	43 19	29 22	7	6 3	4	花園大			
5	大教大	0 44	0 71	5 32	26 29	24 21	28 29	20 14	31 27	17 44	17 35	-18	3 6	7	大教大			
6	甲南大	24 40	0 80	22 49	18 38	21 24	28 29	44 12	24 25	18 49	22 38	-16	1 8	10	甲南大	26	5	大阪大
7	帝塚山大	10 19	7 26	0 67	7 33	29 28		19 20	21 8	22 33	16 29	-13	3 6	6	帝塚山大			
8	京都大	12 102	7 92	0 62	22 46	14 20	12 44	20 19	15 28	26 15	14 48	-33	2 7	9	京都大	21	17	大阪学院大
9	大経大	0 93	0 81	7 88	8 46	27 31	25 24	8 21	28 15	29 29	15 48	-33	2 6 1	8	大経大			
10	大工大	12 60	0 50	12 71	19 43	44 17	49 18	33 22	15 26	29 29	24 37	-14	3 5 1	5	大工大			

定期戦成績（夏合宿以降）

日 時	スコア			会場
8月27日	京都大学	36-0	台湾大学	宇治
9月4日	京都大学	7-71	同志社大学	同志社京田辺
12月23日	京都大学	26-31	東京大学	東大駒場
12月25日	京都大学	24-69	九州大学	宇治

今シーズンの報告と退任のご挨拶

監督 湯谷 博

1. 今シーズンの報告

今シーズンは、リーグ戦の成績は前年と同じ2勝7敗ながら9位となり、7年ぶりに下位リーグへの入替戦に出場するという苦しいシーズンでした。

Bリーグの戦力分布は、上位3チームが群を抜いて高くAリーグレベルにある一方、下位チームがほぼ同レベルに並んでおり、戦力が少し低下すると、どこにも勝てなくなる危険性を孕んでいます。

得失点データでは平均得点が14点と、昨シーズンから半減しており、攻撃力が大きく低下しています。チーム戦略としては、これまで通り、体格、パワーの劣勢を克服すべく、テンポの速い連続攻撃から突破することを目指しましたが、接点で攻撃が停滞することが多く、効果的にスペースを作り出せていません。

前号でご報告した通りFWの走力不足が懸念されましたが、この弱点が克服できずサポートが遅れてボールキャリアーを孤立させ、攻撃のテンポを遅らせる結果となりました。また4回生が少なく実戦経験が乏しいこともあって、状況を素速く読み対応する力も劣っていたようです。その他、キック攻撃による地域確保とボール再獲得、バックスの攻撃力、モールドライブ、ディフェンス力などに弱点があり、目標レベルの戦力に到達できず、私の指導力不足を痛感しています。

一方、1回生の入部は秋にも続き、近年にない16名もの新入部員を獲得できました。人数の多い3回生が進級し、センス豊かな新人が戦列に加わる来シーズン

には、戦力基盤が十分整って来るものと思います。

2. 監督退任にあたって

2006年に監督を拝命してから2期6年担当して参りましたが、2月25日の評議員会をもって、監督を退任する運びとなりました。在任中は、様々な年代の諸先輩、後輩の皆様および関係各位から、本当に暖かい励ましとご支援を賜りましたことを、心よりお礼申し上げます。

監督1期目はBリーグ中位の成績を確保し上位昇格も視野に戦えましたが、残念ながら2期目はリーグ下位に低迷する結果となりました。その要因は、前項の課題のほか、フィットネスの系統的強化、部員の確保とBチームのレベルアップなど、中長期の強化に関する課題を克服できなかったことが背景にあったと思います。

それぞれの年度で部員諸君は精一杯健闘してくれましたが、私の力不足のため指導が至らず、OBの皆様のご期待に添えない結果となったことを深くお詫び申し上げます。

在任中、竹森様、下平様、岡市様、三浦様にコーチをお願いしましたが、皆さま本当に熱心に指導してくださり、各部員の技術レベルの改善とチーム強化に大きく貢献していただきました。

竹森様は大学在学中に、ニュージーランド国内のみならず世界的にも高名なコーチ、ロリー・オライリー氏に長期に亘って指導を受けられています。その後三菱自工でも海外の代表選手をコーチされた経験があり、本場のラグビー理論とコーチングスキルに精通されている貴重な人材です。ご指導のおかげで、とりわけ基本スキルが飛躍的に改善され、貴重な財産となって部員とチームに蓄積されています。残念ながら東京勤務のため、指導がほぼ休日に限定され、十分力を発揮していただけなかったのは不幸なことでした。

かつて星名先生の取られた指導方針は、海外の最先端のラグビーのエッセンスを正確に教え伝えることでした。部内外を問わず、優れたコーチから本場のラグビーの真髄について教えを受けることは、京大の伝統

に沿ったことであると考えています。

2008 年にエディンバラ大学、その後 Imperial College London、今シーズンは台湾大学と、3 回の国際親善試合を実現できたことも楽しい思い出です。これについては、企画から実行に至るまで、米良様 (S38) のご尽力に大きく負っています。試合だけでなく市内観光や交歓会などのイベントを選手同士で企画し交流することにより、部員の異文化理解を促し国際感覚を磨く端緒を開くことができました。特にエディンバラ大学からは、国内チームとの対戦では経験できない最先端のスキルを学ぶことができ、その年の戦力強化にとても役立ったことが忘れられません。

京都という土地柄から、これからも多くの海外チームを迎えることになりますが、海外遠征も含めて国際交流を一層進めて欲しいと切に願っています。

国内の大学との定期戦においても、アフターマッチファンクション会場を宇治キャンパス内の新しい食堂やレストランに移したことで、伝統ある定期戦に相応しい雰囲気与交流できるようになったと思います。

とりわけ選手の活動環境については、和田会長のリーダーシップのもと、OB の皆様から手厚い援助をいただき、この 6 年間で飛躍的に改善されました。グラウンドの芝生化をはじめ、部室、ウエイトルーム、シャワールームや食堂の改修、そして完成間近のクラブハウスに至るまで、快適にラグビーができるインフラが目覚ましく整備されてきました。

これらの優れた環境を活かし、新しいスタッフの指導のもと、部員の皆さんが、より高いレベルのラグビーをエンジョイしてくれるよう切に望む次第です。

OB の皆様には、これまでに賜りました暖かいご支援に深謝申し上げますと共に、引き続き現役部員へのご支援と激励をよろしくお願い申し上げます。

退任のご挨拶

ヘッドコーチ 竹森弘泰

伝統ある京都大学ラグビークラブのコーチとしてチームの強化に携わる機会を与えて頂きましたことに、まずもって厚く御礼申し上げます。

この 6 年間に渡っては、私自身が学生時代に当時のニュージーランド協会トップコーチであったロリー・オリリー氏から受けたコーチングのエッセンス、その後、社会人ラグビーのコーチ、監督を通して得た知識や経験に基づき、それらに共通するラグビー競技の普遍的な基礎に主眼をおいて指導を行って参りました。

第一期となる 3 年間は、その成果が表れチーム成績も格段の向上がありました。後半の 3 年間は基礎体力強化のための苦しいトレーニングや基本スキルの練習に時間を費やししながら、更に戦術、戦略のレベルアップを図る事が出来ず、逆に成績の低迷を招きました。コーチとして、勝つための道筋を選手に示し、モチベーションを高め、戦略を徹底し切れなかった事について、自らの力不足を痛感し、反省するところであります。

プレーの土台となるフィットネスの強化や基本スキルを確立させるためには、日々の練習において、「グ

ランドでは常にジョックで移動する」「ボールは両手で持つ」「プレーは 100% 全力で」といった習慣が大切だと考えます。私の指導の原点もそういったところにあり、キャプテンを始めとするリーダーが中心となり、この習慣をチームに徹底出来た年は良い成績を残せていたと確信しています。

戦術、戦略においては、京都大学の強みと出来る部分を活かし、弱みを克服する観点から、速いテンポでボールを動かしスピードで突破する方針に徹して来ましたが、チームが勝つために必要な戦略を実現する事に取り組み切れたシーズンと、選手層や故障者の影響などにより実現可能な戦略に妥協する結果となったシーズンとで、明暗が分かれました。

いずれの年も、選手諸君はコーチの指導に従い、自主的に創意工夫する力を発揮し、全力でラグビーに取り組んでくれました。退任に当たっては、その努力と態度に改めて敬意を表すと共に、心から感謝の言葉を申し上げたいと思います。これからも、日々の練習における良き習慣を定着させ、勝つためになすべき戦略への果敢な挑戦を続けて欲しいと思います。

繰り返しになりますが、お世話になった皆様に対し心から御礼を申し上げますと共に、現役チームの成績向上、並びに京都大学ラグビークラブの益々の発展を心より祈念致します。

6 年間もの輝かしい経験の機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。

今シーズンを振り返って

主将 並川卓也

2011 年は、京大ラグビー部にとって最後まで苦しい 1 年でした。リーグ戦で 2 勝しか上げられず、C リーグとの入れ替え戦を経験することになってしまいました。昨年の納会の場で、A リーグとの入れ替え戦出場を目標に掲げたにも関わらず、結果的に全く逆の成績となってしまうことに、主将として強く責任を感じています。そんな中でも何とか入れ替え戦を制することが出来たのは、最後まで付いてきてくれた部員や支えて下さった監督、コーチ、OB の皆様のおかげです。心から感謝します。

一年を通してなかなか報われない年でしたが、新人を大量に獲得出来たことは大きな成果であり、最後に踏み止まることができた要因だと考えています。チーム発足当初はやっと試合が出来る程度でしたが、但馬新歓リーダーの下、部員全員が危機感を持って新人の勧誘に尽力することで、この成果を上げることが出来ました。1 回生を中心に、今年の後輩の活躍は目覚ましいもので、今年得た経験を来年以降に繋げてくれると確信しています。

部員全員、特に 4 回生は投げ出したくなるような経験ばかりで本当に悔しい 1 年でした。この悔しさを忘れることなく、次の舞台で必ず活躍しようと思います。4 年間、この部活で他では得ることが出来ない経験を数多くさせて頂きました。京大ラグビー部に出会えて本当によかったです。ありがとうございました。



KIU Rugby News

www.kiurfc.com

2012/2/13 Vol .19 京都大学ラグビー部

京都大学ラグビー部は昨年12月25日の対九州大学定期戦をもちまして2011年度のシーズンを終了し、部員一同精神一到を貫き、来たる新シーズンに備えております。このK.I.U Rugby Newsでは私たちの活動をほんの一部ですが紹介させていただいています。

この誌面を通して京都大学ラグビー部に興味を持っていただき、皆様の進路決定にあたっての一助としていただければ幸いです。

(編集責任者 2012年度4回生 森野寛史)



得意のスクラム練習 (2011/3)



リーグ戦 大阪工業大学に快勝 (2011/11/20)

主将挨拶

2012年度主将 稲垣貴彦 (農・食料環境経済 No8 東海)

初めまして、2012年度京都大学ラグビー部主将の稲垣貴彦です。早速ですが、みなさんに京大ラグビー部のことを紹介したいと思えます。現在京大ラグビー部は関西Bリーグに所属しており、入替戦出場、そしてAリーグ昇格を目指して日々練習に励んでいます。推薦入学などで強化を進める私立大学を相手にこの目標を成し遂げるのは、並大抵の努力では不可能です。だから当然練習はハードで、苦しいものとなります。しかし、厳しい練習を乗り越え、チーム一丸となって勝利を手にした時の感動、それでも届かず敗れた時の悔しさ、そしてそこで得られた仲間は何にも代えがたい財産となるはずです。私自身、仲間とともに過ごした時間は何よりも充実したものであったと感じています。

ここで、今日は少しだけ、個人的な話をしようと思えます。それは私が3回の時のリーグ戦中、帝塚山大学と試合をしたときの話です。当時京大は3連敗中。流れを変え、その後のリーグ戦を自信を持って戦っていくためにも絶対に負けられない試合でした。私個人としても、課題であったキック処理を自主練習で取り組んでおり、その成果を出し、自分のプレーでチームの勝利に貢献しようと意気込んで挑んだ試合です。しかし、いざ試合が始まるとミスばかり…。取り組んできたはずのキック処理も悲惨な結果となってしまう、完全にチームの足を引っ張ってしまいました。それでも必死にプレーし、なんとか勝利することができました。そして試合が終わると同時に涙が。その涙は、チーム一丸となって勝てたことへの嬉し涙なのか、それとも不甲斐ないプレーをしてしまったことへの悔し涙なのか。きっと喜び、悔しさ、安堵、感謝などいろんな感情が混じっていたような気がします。こんな風に泣いたのはこれが初めてでした。是非みなさんにもこんな涙を流して欲しいと思いますし、京都大学ラグビー部でなら流せると確信しています。また、長期オフやOBの方々の手厚い支援などラグビーだけでなく、学生生活を豊かにする為の様々な環境がここにはあります。是非我々とともに充実した学生生活を送りましょう。グラウンドで待っています。

新勸代表挨拶

安井立 (3回生 経済 HO 旭丘)

はじめまして、平成24年度新歓リーダーの安井立(たつる)です。今回はこの場をかりて私の思う大学生活について書かせてもらいたいと思います。

みなさんは大学生活に対してどんなイメージを持っていますか？みなさん様々な大学生活を想像しているでしょう。中には小説やドラマなどに出てくるようなバラ色のキャンパスライフを夢見ている人もいると思います。私は大学生活を一言で表すなら「自由」という言葉がぴったりだと思います。特に京大は本当に自由です。この自由であるということは大変素晴らしいことなのですが、自分で何もかも決めなければいけないという恐ろしい部分もあります。自分から何も行動しなければあつという間になんとか4年間は過ぎ去ってしまいます。その4年間で私は何か一つのことを打ち込むことをお勧めします。勉学でも趣味でもバイトでも何でも構いません。ただその選択肢の一つにぜひラグビー部に入るということを加えておいてください。大学のラグビーは高校とは一味もふた味も違いますし、きっとよりラグビーの魅力の虜になるでしょう。

この文章を読んで皆さんが何か考えてくれれば幸いです。そしてこの文章を読んでいる一人でも多くの人と将来京大ラグビー部と一緒にラグビーができる日を私たちは楽しみにしています。

大学でのラグビー

赤塚駿一 (1回生 理 FL 北野)

こんにちは。新2回生の赤塚です。僕がこの一年間大学でラグビーをしてきて感じた事は、やっぱりラグビー楽しいな、という事です。特に、新鮮に感じた事は、選手が自ら考え、議論し、練習をしてチームを作っていくことができることです。大学では高校までで培ってきた経験、知識を活かして、自分たちの

ラグビーを作るという新しいステージに上がることができ
ます！僕は大学のラグビーで改めてラグビーの楽しさを実感でき
ました。高校生の皆さんには、是非大学に進学してからもラグ
ビーに関わり続けてほしい、と思います。

2011年度活動報告

関西学生Bリーグ戦績表

	龍谷大	大産大	関西大	花園大	大工大	帝塚山大	大教大	大経大	京都大	甲南大	勝	負	分	順位
龍谷大		○ 24-21	○ 25-19	○ 17-12	○ 71-12	○ 67-0	○ 32-5	○ 88-7	○ 62-0	○ 49-22	9	0	0	1
大産大	● 21-24		○ 21-17	○ 43-0	○ 60-12	○ 19-10	○ 44-0	○ 93-0	○ 102-12	○ 40-24	8	1	0	2
関西大	● 19-25	● 17-21		○ 37-14	○ 50-0	○ 26-7	○ 71-0	○ 81-0	○ 92-7	○ 80-0	7	2	0	3
花園大	● 12-17	○ 0-43	○ 14-37		○ 43-19	○ 33-7	○ 29-26	○ 46-8	○ 46-22	○ 38-18	6	3	0	4
大工大	● 12-71	● 12-60	○ 0-50	○ 19-43		○ 33-22	○ 44-17	○ 29-29	○ 15-26	○ 49-18	3	5	1	5
帝塚山大	○ 0-67	○ 10-19	○ 7-26	○ 7-33	○ 22-33		○ 29-28	○ 21-8	○ 19-20	○ 29-28	3	6	0	6
大教大	○ 5-32	○ 0-44	○ 0-71	○ 26-29	○ 17-44	○ 28-29		○ 31-27	○ 20-14	○ 24-21	3	6	0	7
大経大	○ 7-88	○ 0-93	○ 0-81	○ 8-46	○ 29-29	○ 8-21	○ 27-31		○ 28-15	○ 25-24	2	6	1	8
京都大	○ 0-62	○ 12-102	○ 7-92	○ 22-46	○ 26-15	○ 20-19	○ 14-20	○ 15-28		○ 12-44	2	7	0	9
甲南大	○ 22-49	○ 24-40	○ 0-80	○ 18-38	○ 18-49	○ 28-29	○ 21-24	○ 24-25	○ 44-12		1	8	0	10

—B・Cリーグ入替戦—
(12月10日14時Kick off 鶴見緑地G)
京都大学 ○21—17 大阪学院大学

—過去5年のリーグ戦績—
2007年度 6勝3敗 2010年度 2勝7敗
2008年度 6勝3敗 2011年度 2勝7敗
2009年度 4勝5敗

昨シーズンは並川主将の下“ONE~信頼と責任~”をチームスロー
ガンに掲げリーグ戦に臨みましたが、最終戦を終えて2勝7敗
と結果を残すことが出来ず、Cリーグ2位の大阪学院大学との入
替戦に出場することとなりました。入替戦でも大きく点差をつ
けることが出来ず苦しい展開となりましたが、なんとか勝利を
掴み2012年度も関西学生Bリーグを戦いの場とすることになり
ました。またAリーグ昇格を目指すことの出来る環境を残してく
ださった先輩方に感謝すると共に、もっとチームに貢献するこ
とは出来なかったのかと悔いを残した現役も多いと思います。私
たち現役は、稲垣新主将と新スローガン“Challenge!”の下に、3
月のシーズンインに向け始動しました。今年度の京都大学ラグ
ビー部に御期待下さい。最後になりましたが、昨年度もたくさ
んの御支援、御声援ありがとうございました。



入替戦に勝って、Bリーグ残留（鶴見緑地グラウンドにて）

台湾大学との国際交流試合

昨年8月30日、京都大学宇治グラウンドにて台湾大学との国
際交流試合が行われました。近年では2008年のエディンバラ大
学戦、2010年のImperial College London戦に次ぐ国際交流試合で
したが、このような機会を設けていただけなのは本当に有難い
ことです。試合の方は36-0で京大が勝利を収めました。台湾
大の選手の皆さんは陽気な方々で、場を盛上げて下さったり日
本語の歌を歌って下さったりと試合後のレセプションでは京大
の完敗だったように思います。最後には「次は台湾で試合をし
ましょう。」と仰っていただきました。いつか実現する日を心
待ちにしています。



試合後の両校選手（京都大学宇治グラウンドにて）

定期戦紹介

- 4月 関西学院大学
- 5月 立命館大学
- 6月 慶應義塾大学 防衛大学校
- 8月 成城大学
- 9月 同志社大学
- 12月 九州大学 東京大学

2011年度新人部員

赤塚 駿一	理	FL	北野
井上 悠太	工・物工	CTB	浦和
岩崎 理峻	経済	No8	四条畷
飼沼 徹	工・電電	SH	一宮
片山 裕太	理	PR	洛南
木村 博紀	文	WTB	開明
坂倉 央輝	農・食環	CTB	旭丘
田中 岳	文	BK	茨木
中島 徹哉	総人	CTB	前橋
中山 希昂	工・物工	LO	大阪星光
西澤 亮	工・工化	FB	生野
丹羽 滉生	工・物工	PR	桐蔭中等
濱岡 弘晃	総人	WTB	茨木
三島 康二	工・地球工	BK	茨木
宮内 大輔	経済	WTB	大手前
山敷 啓吾	経済	HO	洛星

昨年度は未経験者3人を始め、たくさんの新入生が入部して
くれました。多くの部員で切磋琢磨してゆくことはチームに
とってこの上なく素晴らしいことで、今年以降もたくさんの新
入生を迎えるべく、私たちもこの京都大学ラグビー部をより魅
力的な集団にしてゆく所存であります。

創部90周年

今年私たちは節目の創部90周年を迎え、春にはグラウンド内に新
しいクラブハウスが完成し、部活環境がさらに改善されます。ま
た、新ホームページも近日公開予定です。
「京都大学ラグビー部」で検索して、是非ご覧ください。
クラブハウス完成予定図





新監督就任のお知らせ

前年度までの 6 シーズンを務められた湯谷監督が退任され、平成 24 年度シーズンから昭和 40 年卒の只井喜信さんを新監督として迎えることになりました。また、コーチ陣は下平コーチに引き続き BK のご指導をしていただくとともに、新たに FW コーチとして同志社大学ラグビー部を昭和 60 年に卒業され、1999～2001 年シーズンには同志社の監督も務められた圓井良さんに来ていただくことになりました。

監督団、新任の挨拶と今年度の抱負

監督 只井 喜信

昭和 40 年卒業の只井喜信です。

この度、評議会の決定により、湯谷監督の後任として今年度の監督をすることになりました。京大ラグビー部の指導をするのは、二度目なのですが、前回（田中仁主将時代からの数年）は、社会人としてプレーした直後であり、三菱自工を全国社会人大会でベスト 4 に押し上げ、それを定着させたこともあり、自信とうぬぼれと体力（スピードでもスタミナでも）もあつたので、「俺の言うとおりにすれば勝てる」と無茶苦茶な取り組みをしたものです。しかし、今回は、年齢的にも、現在のラグビーとの空白期間も長く、心配も多いし、昔のやり方が通用しないのはよく分かります。さらに B リーグ下位での試合・練習しか経験していない現役の選手に B リーグ上位、A リーグのレベルとはどの程度のものかを如何に教えるかに頭を痛めています。

監督をするにあたっての今年の方針として、現役選手に説明したのが次の項目です。

“力づくラグビーからの脱却”

ボールを動かそう

1、大きな声を出す

挨拶・掛け声・連携の声・指示の声

2、低い姿勢でプレーする

姿勢は前傾・低い姿勢からの働きかけ・下のボールへの反応の速さ

3、瞬間ダッシュ（スピードの変化）を常に意識する

4、ボールは両手で持つ

5、正確なパスとキャッチングを徹底する

スピードランでの胸元へのパスと早いキャッチング

6、低い強いタックルができるようになる

肩を作る・バックをする・スピードが出る前に前で潰す

7、持久力をつける

練習中は歩かない・アライブを速く常に次のプレーへの移行

現役諸君に対して、苦しい練習をした後に来る勝利の楽しみ、喜びを味あわせること、そして試合を見に来た人が、自分も、子や孫もこのチームでやりたい、やらせたいと思うようなラグビーを目指したいと思っています。微力ながら、全力を尽くし頑張りたいと思いますので、OB の皆様が一人でも多くグラウンドに足を運んでいただき、我々に対しての叱咤や指導等をしていただきたいと思います。

FW コーチ 圓井 良

このたび、京都大学ラグビー部のフォワードコーチをさせていただくことになりました圓井良と申します。私は、同志社大学を 1985 年に卒業し、同年三菱自動車工業株式会社京都製作所に就職いたしました。現在は家業を営んでおりますが、本年より監督となられた只井様から、京都大学ラグビー部のコーチを依頼され、お受けさせていただいた次第でございます。

京都大学ラグビー部と同志社大学ラグビー部との関係は、ご既承のとおり、星名泰先生が、いち早く海外のラグビー理論を翻訳され、リベラルで最先端のラグビーを同志社大学ラグビー部で実践されたことに始まっております。私が同志社大学現役時代は、星名先生の意志を継承された岡仁誌先生から指導を受け、在学中には全国大学選手権優勝を経験させていただきました。そんな環境の中で学生生活を過ごしておりましたので、京都大学には自然と（勝手に?）、親近感を覚えておりました。そして、このたび只井監督からお声がけいただいた際には、何か因縁めいたものを感じた次第であります。

グラウンドでは、「基本が王道」・「自由な発想」をモットーに、創造力豊かで魅力的なチームの構築を目指していきたいと考えています。甚だ微力ではございますが、ルーツ校である京都大学ラグビー部の発展に、少しでも寄与できればと思っております。よろしくお願い申し上げます。

BK コーチ 下平 憲義

引き続き、BK コーチを務めさせていただきます S58 卒の下平です。微力ですが、伝統ある京大ラグビー部に少しでも力になれるように頑張る所存ですので、宜しくお願い致します。特に本年は 90 周年という節目の年でもありますので、是非、素晴らしい結果を現役と共に残したいと思っております。

新任の只井監督の今年のスローガンは‘力づくラグビーからの脱却’で、ボールを動かそうという方針です。BK の AT については、今主流になっている、ポイント作りからフェーズを重ねながら、人数的に有利な状況を作り出し、ブレイクしていくスタイルではなく、思い切って 1 次攻撃からでも突破を狙い、捕まった場合にもポイント作り一辺倒ではなく、オフロードパス等の技術を磨き、ボールを止めずに擦れ違いでラインブレイクすることを目指して行きたいと考えています。

DFについては、タックルがメンバー選考基準の最重要項目であることをBK全メンバーに認識させ、ゲームスカウティングによりタックルの個人データを分析して、タックルの低さ、入るスピード、バック力、回数、成功率等のまず個人のレベルのアップを行い、最終的に組織的なDF力アップに繋げて行きたいと考えています。

エリアマネジメントについては、キッカー候補には、キックの飛距離及び正確性の試合の勝敗における重要性を認識させ、春からキックを徹底して練習させるつもりです。そして、昨年の大きな反省であるゴール前からの確実な脱出、そして敵陣で試合を常に行うゲームマネジメントを目指したいと思います。また新しい試みとして強化委員会のメンバーと連携してゲームスカウティングを行い、その資料を基に分析を行い現役の指導に役立てて行きたいと考えています。OB皆様におかれましては、是非グラウンドにお越し頂き現役のプレーを見て、アドバイスを頂きたいです。ご支援の程宜しくお願い致します。

新三役

平成24年度の新三役が決定し、3月から新しいシーズンが本格スタートしました。新三役は、主将・稲垣貴彦、副将・森淳希、主務・加藤佑介です。



主将 稲垣 貴彦 (LO、No.8)

3月1日にシーズンインし、もうすぐ一か月が経ちます。従来であれば「まだ終わらないのか」と、厳しい練習が行われる3月が早く終わってほしい一心でカレンダーとにらみ合いながら過ごしていたのですが、ラグビー生活最後の3月を終えようとしている今では「もう終わってしまうのか」という気持ちになっています。主将として過ごした一か月は、試行錯誤の毎日であり、失敗もたくさんしましたが、あっという間でした。リーグ戦まであと半年。おそらくあっという間に半年が過ぎ、気付けばリーグ戦初戦前日になり、「もうリーグ戦か、早いなあ」と思っているのでしょうか。その時に後悔を残さないよう、そして秋に良い結果を残せるように、引き続き毎日の練習に全力を尽くしていきますので、今後ともご指導ご声援の程よろしくお願い致します。

副将 森 淳希 (LO)

今年度副将を務めさせていただきます、森淳希と申しま

す。他の役職と違って、副将には特にこれといった具体的な仕事は割り振られていません。だからこそ個性が出る場所だと思うのですが、なにぶん役割がはっきりしないので、今年度の役職を決める話し合いの中では副将は不要ではないかという意見が出たほどでした。実際新体制が始まってからの副将としての自分を振り返ってみると、何をしたいのか分からずフラフラと主将についていっただけだったというのが正直な感想です。

私は高校からずっとロックをやっていますが、ロックがプロップについていくのでは良いスクラムは組めません。むしろロックの方からプロップ押し出すのが本来の仕事です。主将の稲垣を後ろから激しく追い立て、チーム全体を盛り上げ、副将不要論も吹き飛ばす。それを副将としてのこれからの目標にしたいと思います。これから一年間、稲垣組にご支援のほどよろしくお願い致します。

主務 加藤 佑介 (PRO)

今年度主務になりました加藤佑介と申します。一年間よろしくお願い致します。主務になる前は、試合の日程を決めることばかりが主務の仕事だと思っていましたが、実際に始めると様々な細かい仕事も多く、まさに雑務に追われる日々となっています。こうした仕事の一つ一つをこなしていくことが、社会人になるための勉強だと思いながら何とか仕事を進めている状態です。

以前から、主務はなかなか報われることのない役職だと聞かされていましたが、確かに一つ一つの仕事は誰にでもできるようなものばかりです。しかしそれを一年間確実にやり遂げるということは、この一か月主務をしてきた経験からすると、膨大なエネルギーが必要だと感じています。それに加えて選手としてもプレーし続けるわけですから、本当に大変な一年になるものと覚悟しています。

歴代の先輩方、特に私が3年間見てきた主務の方々は、主務も選手もしっかりと成し遂げられています。また、主務は他大学からするとある意味でチームの顔となります。歴代の主務の方々や他大学の主務の方々に恥じぬ主務となれるよう、一年間頑張りたいと思いますので、ご指導ご支援のほどよろしくお願い致します。

H24 年度 新人勧誘目標

新歓係 安井 立 (HO、No.8)

平成24年度新勧リーダーを務める安井立です。よろしくお願い致します。昨年、私は新歓係の一員として新勧活動を行っていました。その中の様々な局面でOBさんの厚い支援を感じました。新入生の情報収集には全国各地の多くのOBさんに協力していただき、またお忙しいのにもかかわらず後輩との食事会にも快く応じてくださいました。卒業してから何年経ってもこうしてつながり続けるラグビー部の素晴らしさを再認識するとともに、少しでも多くの新入生にこのラグビー部の魅力を知ってもらい入部してもらいたいと強く感じました。

昨年の新勧活動ではリーダーの但馬さんを中心にマ

ネージャー1人を含む17人もの新入部員を獲得することができました。この良い流れを失わないように今年の新勧活動では昨年以上の成果を目指して努力していきたいと思っています。

春シーズン試合予定

4月15日(日)	大阪経済大学	(大経大 G)
4月22日(日)	大阪府立大学	(黄檗 G)
4月29日(日)	新歓試合	(黄檗 G)
5月3日(木)	慶應義塾大学	(日吉 G)
5月20日(日)	立命館大学	(立命館 G)
5月27日(日)	大阪学院大学	(黄檗 G)
6月3日(日)	関西学院大学	(関学 G)
6月17日(日)	防衛大学校	(黄檗 G)

クラブハウス竣工



S48 卒 石田 徳治

兼ねて連絡していました通り、3月19日には宇治市の官庁検査、22日に大学検査が完了し、3月23日にクラブハウス竣工に至りました。3月25日には寄付を頂いたミーティング用の机や椅子などの搬入を終え、今日、大学からクラブハウスの鍵の引き渡しを受けて、清野部長からラグビー部の加藤主務に手渡してもらいました。これでいよいよクラブハウスオープンとなります。まだ、棚などの据え付けは未完ですが4月中には完了する予定です。平成21年7月にクラブハウス建設の趣旨書を添えて、宇治グラウンド総合整備第2次募金をOB各位にお願いしてから、足かけ2年9か月になりますが、多くの皆様の協力を得てはじめて実現できたことであります。この場を借りまして御礼申し上げます。

今週の31日(土)には現役が18時からバーベキューパーティを行いますので、それに合わせてクラブハウス開きを行います。参加いただけるOBは連絡ください。これでクラブハウスオープンとなりましたが、特にIT機器など、什器備品はまだまだ整っていません。TV、パソコン、掃除機など、現物のご寄付も含めて、宇治グラウンド総合整備第2次募金への協力をお願いします。

敬具

読売新聞掲載記事

クラブハウス建設の話題が読売新聞京都版、3月27日の紙面に掲載されました。

2012/03/27 読売新聞京都版

京大ラグビー 創部90周年

宇治グラウンドにクラブハウス

◆ミーティング、交流拠点に活用

今年、創部90周年を迎えた京都大ラグビー部が、記念事業として、練習拠点の宇治グラウンド(宇治市五ヶ庄)にクラブハウスを建設した。グラウンドの天然芝化に続く環境整備の一環だ。選手のミーティングのほか、ラグビーを通じた交流の拠点として活用する。

同部は1922年に創部。前身の旧制三高を含めると国内で慶応に次ぐ歴史を誇る。第2次大戦前に3度、全国制覇したほか、1960～70年代には全国大会に5度出場した。

近年は関西Bリーグ(2部)に所属し、国公立大では有数の実力を維持する。慶応大や同志社大、東京大などの伝統校と毎年、定期戦を組むほか、英エジンバラ大やロンドン大インペリアルカレッジ、台湾大など海外の大学チームとも積極的に交流している。

クラブハウスは、90周年を機に建設の計画が持ち上がり、OB会を改組した京大ラグビークラブを中心に進めた。建設費約3000万円は寄付などでまかない、昨年11月に着工した。

2階建てで、1階にミーティングルームや台所、トイレ、シャワールームがあり、テラスからはグラウンドを見渡せる。2階にはOB・監督室のほか、部員の集合写真や、対戦校と交換した記念のペナントなどを壁に飾る。

ラグビーの母国・英国などでは、小さなチームでもクラブハウスを持っていることが多く、試合のある週末には家族やサポーターらが集まり、地域の社交場になる。両チームの選手が試合後に一緒に酒を酌み交わす光景は、敵味方の区別なく健闘をたたえ合うラグビーの「ノーサイド」精神を体現している。

同クラブの石田徳治副会長は「ラグビーを通じて交流する拠点をつくるのが長年の夢だった。これを機に、クラブの一層の飛躍を目指したい」と話している。

ホームページリニューアルオープン

HP担当 S55 卒 小松 敏行

昨年来、作業を続けて参りました京都大学ラグビー部のホームページのリニューアルがこのほど完了し、オープンすることになりました。URLはこれまで通りです。

今回のリニューアルにあたって最も留意したのは、ワープロが打てる人であれば誰でもさわれるようなシステムを採用したことです。これにより、部員が自分たちでコンテンツをどんどん更新していくことができるようになりました。実際、このサイトの最大の目的である新人勧誘のため、今回、現役生は自分たちで新

しいコンテンツを作りました。決して華美ではない、どちらかといえば地味なサイトですが、部員の素朴な熱意が伝わってくると思います。

またこれを機に、何人かのOBの方にもご寄稿いただき、コンテンツに加えさせていただきました。サイトを訪れた人たちに、京大ラグビー部の奥深さを感じていただくことができればと思います。とはいえ、オープンしたばかりなので、まだまだ不十分な点多々あるかと思います。それはWEBの良さでもある即時性を生かして、どんどん改善していきたいと思っています。皆さまの率直なご意見を頂戴できれば幸いです。

また今回、サービスの契約先を変更する関係で、公開ホームページ以外の会員向けサービスについては次の通りになります。

